

平成 25 年度

高齢者実態意向調査報告書

目次

I 調査概要	3
[1] 一般高齢者調査概要	3
[2] 要支援認定者・要介護認定者調査概要	4
II 調査結果	5
[1] 一般高齢者調査結果	5
1 回答者の属性	6
2 家族や生活状況について	7
3 日常生活・社会参加の状況について.....	13
4 健康、もの忘れについて	21
5 介護保険事業や高齢者福祉施策について	26
6 今後の介護保険制度・高齢者福祉について.....	42
7 家族の意見（※介護・介助をしている家族に対する設問）	47
[2] 要支援認定者・要介護認定者調査結果	49
1 回答者の属性	50
2 家族や生活状況について	51
3 日常生活・社会参加の状況について.....	57
4 健康、もの忘れについて	65
5 介護保険事業や高齢者福祉施策について	71
6 今後の介護保険制度・高齢者福祉について.....	91
7 家族の意見（※介護・介助をしている家族に対する設問）	95
III 調査票	97
一般高齢者調査票	97
要支援認定者・要介護認定者	113

I 調査概要

[1] 一般高齢者調査概要

1 対象者

平成 25 年 10 月 1 日現在、市内に住所を有し、要介護・要支援認定を受けていない 65 歳以上の市民

2 抽出方法

無作為抽出（日常生活圏域別に比例配分）

3 調査方法

郵送調査

4 調査期間

平成 25 年 12 月 9 日～12 月 25 日

5 発送数・回収数

発送数 3,000 件

〈内訳〉

圏域	発送件数
北部	370
中部第一	295
中部第二	420
東部	225
灘	225
飾磨	300
広畑	280
網干	285
西部	265
香寺	125
夢前	130
家島	45
安富	35
合計	3,000

回収数 2,084 件（回収率 69.5%）

[2] 要支援認定者・要介護認定者調査概要

1 対象者

平成 25 年 10 月 1 日現在、市内に住所を有し、要介護・要支援認定を受けている 65 歳以上の市民

2 抽出方法

無作為抽出（要介護状態区分、日常生活圏域区域別に比例配分）

3 調査方法

要支援者 … 郵送調査

要介護者 … 介護支援専門員、施設職員による訪問・聞き取り調査

4 調査期間

平成 25 年 12 月 9 日～12 月 25 日

5 発送数・回収数

発送数 3,000 件

〈内訳〉

圏域	発送件数 合計	要介護状態区分 発送件数内訳					
		要支援 1・2	要介護				
			1	2	3	4	5
北部	315	160	50	35	25	25	20
中部第一	380	205	55	40	30	25	25
中部第二	390	200	60	40	35	30	25
東部	235	110	35	30	20	20	20
灘	240	125	35	25	20	20	15
飾磨	305	160	45	30	25	25	20
広畑	270	135	45	30	20	20	20
網干	275	140	40	30	25	20	20
西部	245	110	40	25	30	20	20
香寺	120	55	20	15	10	10	10
夢前	115	50	20	20	10	10	5
家島	60	30	10	5	5	5	5
安富	50	20	10	5	5	5	5
合計	3,000	1,500	465	330	260	235	210

回収数 2,392 件（回収率 79.7%）

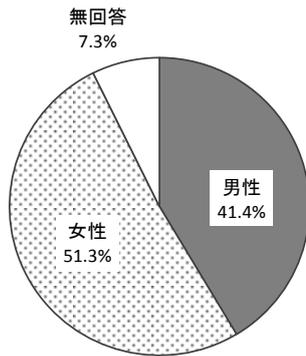
II 調查結果

[1] 一般高齡者調查結果

1 回答者の属性

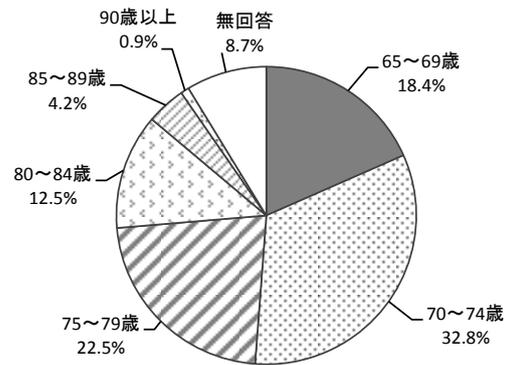
(1) 性別・年齢階層

【図表 性別】



【N=2,084】

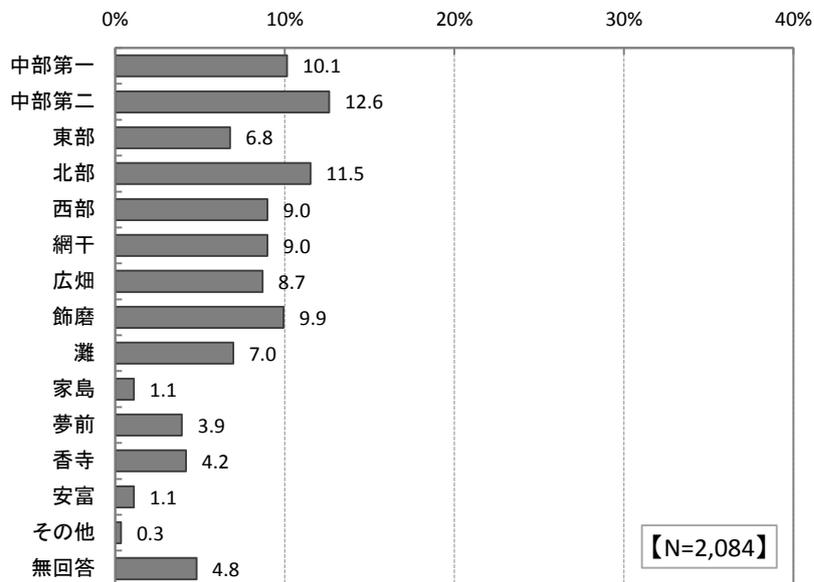
【図表 年齢階層】



【N=2,084】

(2) 居住地区

【図表 居住地区】



【N=2,084】

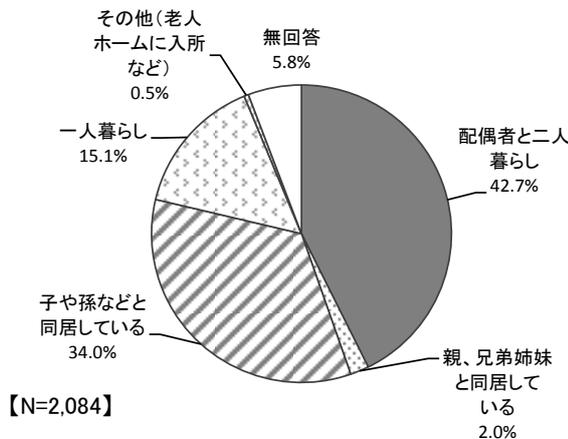
2 家族や生活状況について

誰かと同居している割合は72.7%と多いが、自宅で一人になる状況がある割合も少なくない。自分や家族の健康に不安をもつ人が多いことや、緊急時に誰かが来てくれるまでの時間が30分以上かかる人もいることから、高齢者に対する家族や地域の見守りが重要であることがうかがえる。

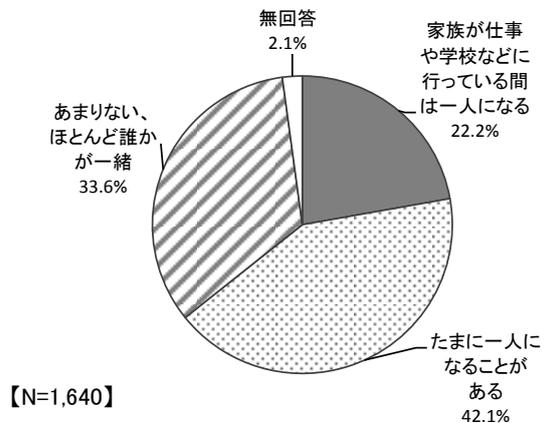
(1) 家族との状況

- ・家族構成は、「配偶者と二人暮らし」が42.7%と最も多く、次いで「子や孫などと同居している」(34.0%)と続いている。
- ・家族構成を性別にみると、一人暮らしの割合は女性が男性より高くなっている。
- ・家族構成を地区別にみると、一人暮らしの割合は「中部第一」で最も多く、「香寺」で最も少ない。
- ・誰かと同居している人が自宅で一人になる状況は、「たまに一人になる」が42.1%と最も多い。
- ・体調悪化時や災害時など緊急時に最初に連絡する相手は、「家族、親族」が約8割を占めている。
- ・緊急時に連絡をした相手が到着する時間は、「10分から30分以内」が35.7%と最も多く、次いで「10分以内」(33.8%)と続いている。「1時間以上」も約1割ある。

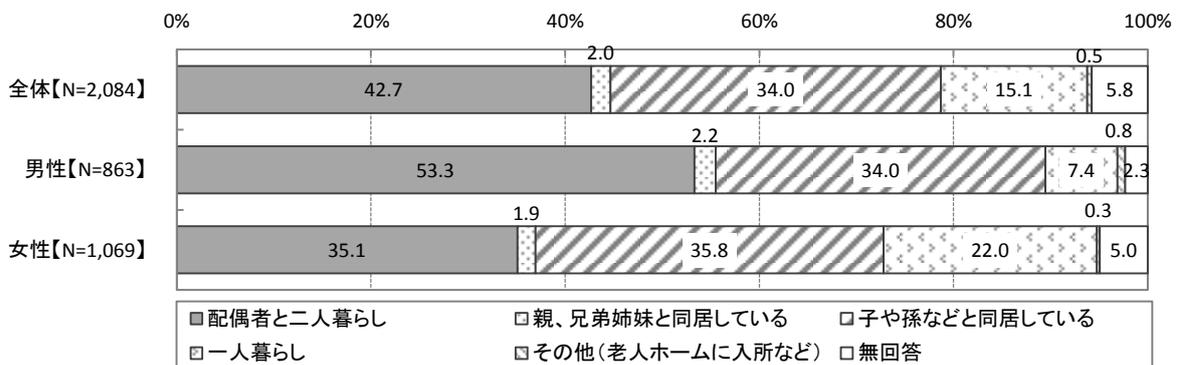
【図表 家族構成】



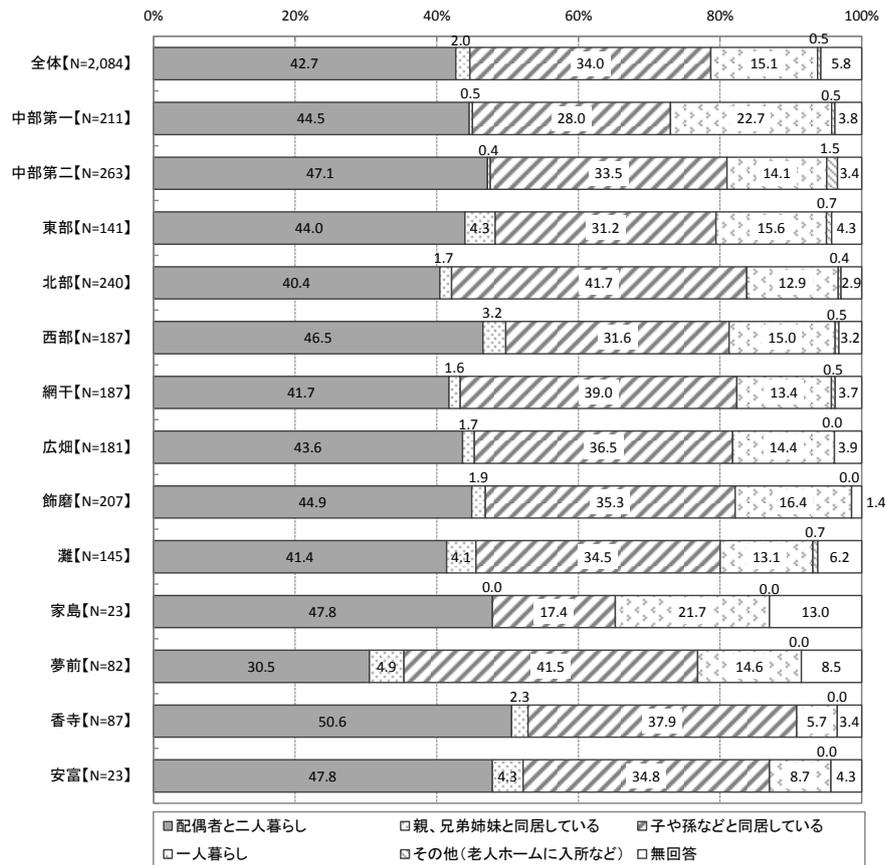
【図表 自宅に一人での状況】



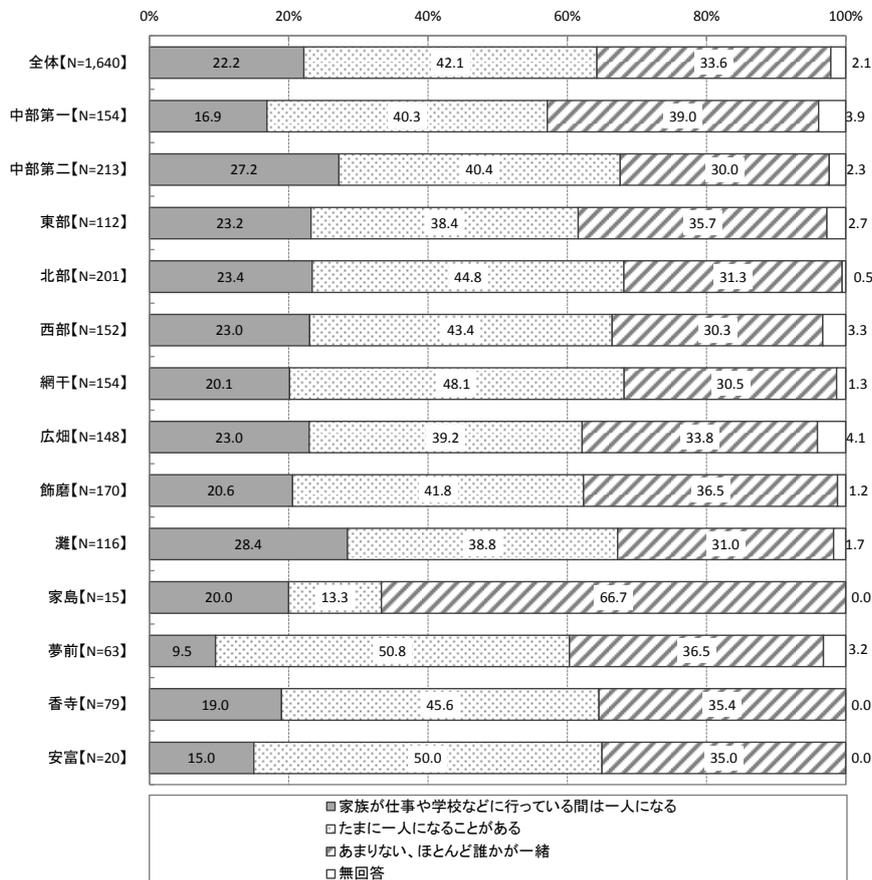
【図表 家族構成／性別】



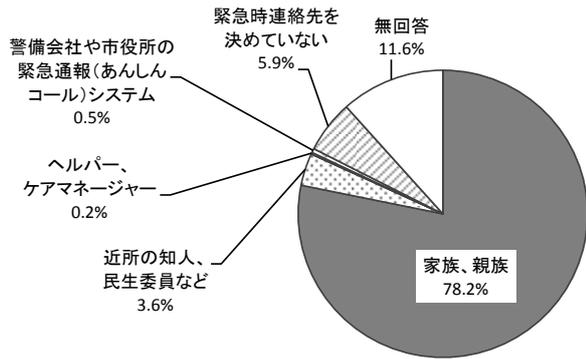
【図表 家族構成／地区別】



【図表 自宅に一人での状況／地区別】

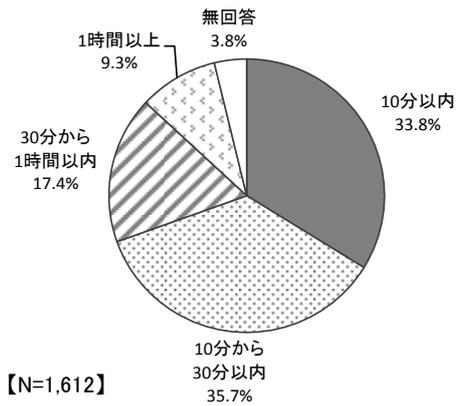


【図表 体調悪化や災害時などの緊急連絡先】



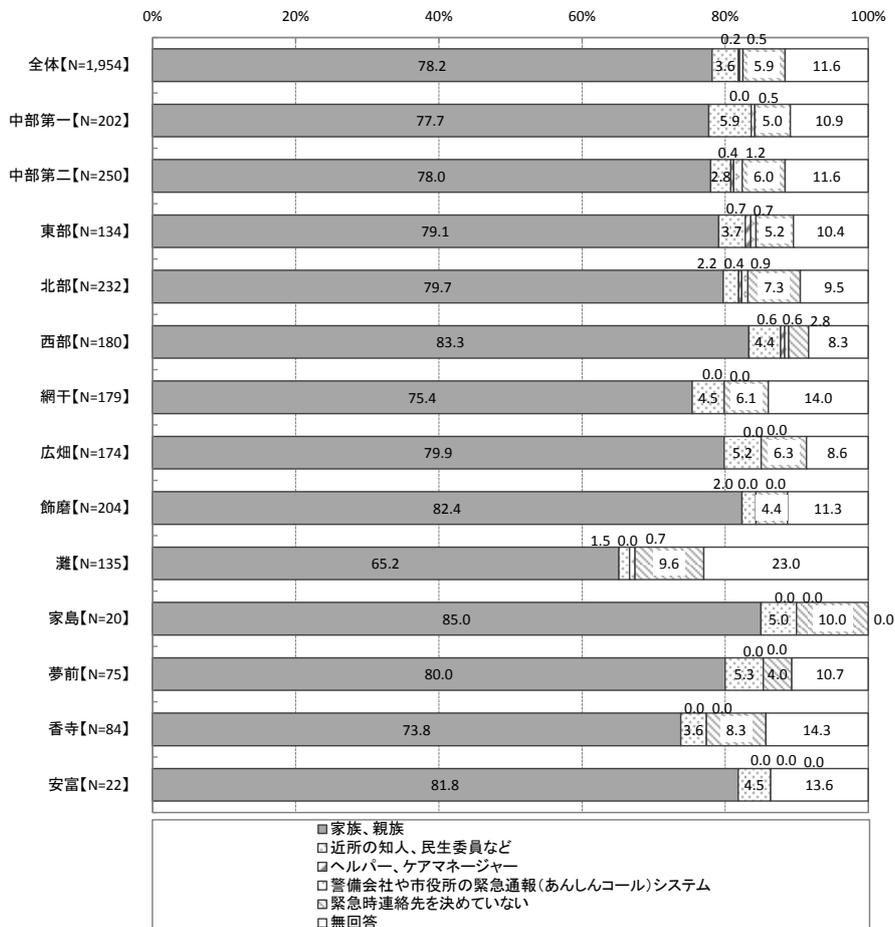
【N=1,954】

【図表 緊急連絡相手の到着時間】

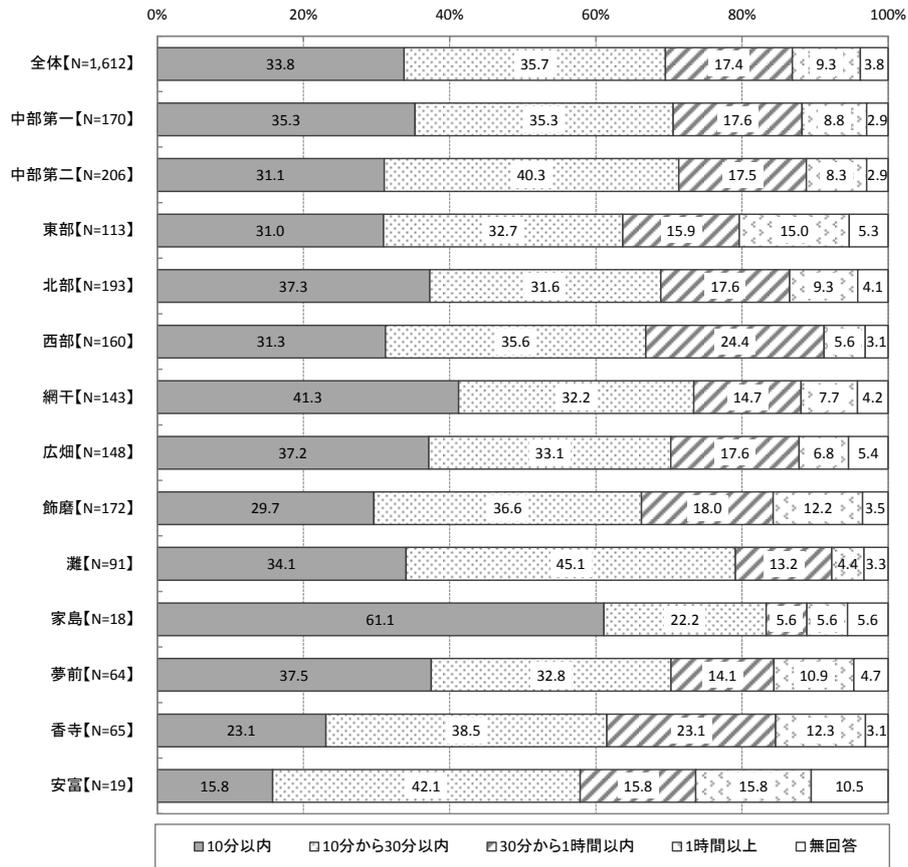


【N=1,612】

【図表 体調悪化や災害時などの緊急連絡先／地区別】



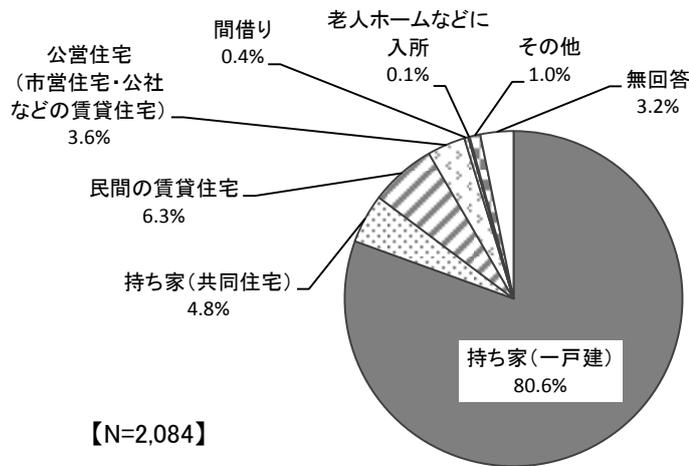
【図表 緊急連絡相手の到着時間／地区別】



(2) 居住形態

・居住形態は「持ち家（一戸建て）」が約8割を占めている。

【図表 居住形態】



【図表 居住形態／地区別】

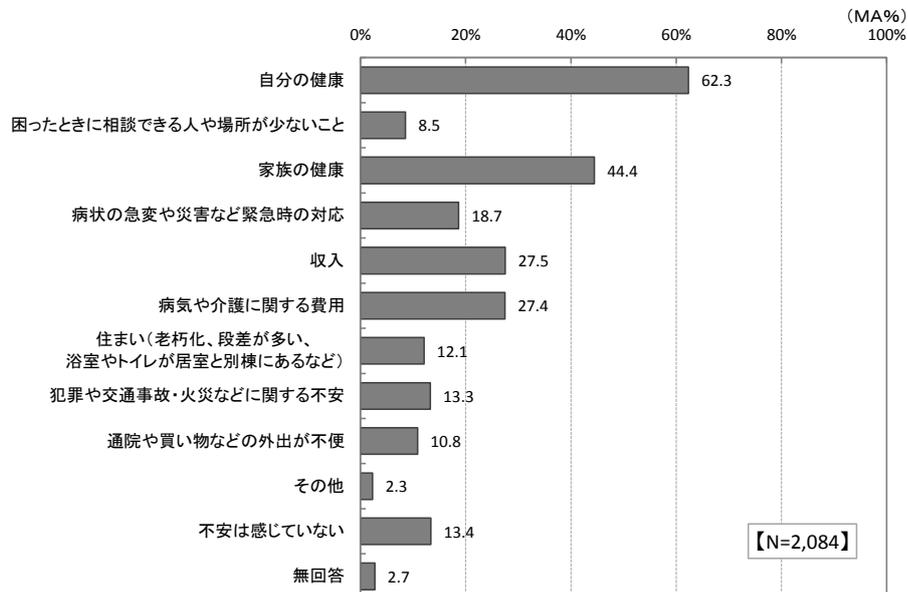


※割合が少ない項目の数値の表示を一部割愛

(3) 生活における不便や不安の状況

・現在の生活で不便や不安に感じることは、「自分の健康」が 62.3%と最も多く、次いで「家族の健康」(44.4%)と続いている。

【図表 現在の生活で不便や不安なこと】



【図表 現在の生活で不便や不安なこと／地区別】

	自分の健康	少ないこと	できたときや場が	家族の健康	病状の急変や災害など緊急時の対応	収入	病気や介護に関する費用	住まい	不安	犯罪や交通事故・火災などに関する不安	通院や買い物などの外出が不便	その他	不安は感じていない	無回答
全体【N=2,084】	62.3	8.5	44.4	18.7	27.5	27.4	12.1	13.3	10.8	2.3	13.4	2.7		
居住地区別	中部第一【N=211】	59.7	9.0	37.0	18.5	28.4	19.9	11.4	13.3	4.7	0.5	15.2	4.3	
	中部第二【N=263】	60.5	8.7	44.9	12.9	26.2	26.6	12.9	9.5	7.2	1.5	18.6	2.3	
	東部【N=141】	65.2	12.1	49.6	22.0	27.0	33.3	14.2	19.9	19.9	4.3	7.1	2.8	
	北部【N=240】	60.4	7.1	48.3	14.6	25.4	22.5	12.9	12.1	11.3	3.3	12.9	1.7	
	西部【N=187】	64.7	5.9	47.6	17.6	31.0	32.6	11.8	13.4	12.3	1.6	12.8	1.1	
	網干【N=187】	64.7	8.6	46.0	24.1	26.2	31.0	10.7	18.7	11.2	3.2	14.4	3.2	
	広畑【N=181】	66.9	9.9	49.2	16.6	27.6	25.4	13.3	16.0	8.3	5.0	8.8	2.2	
	飾磨【N=207】	64.3	6.3	44.0	23.2	29.0	28.0	12.1	10.6	9.7	2.4	15.0	2.9	
	灘【N=145】	57.9	10.3	37.9	20.7	31.0	24.1	13.8	12.4	10.3	0.7	14.5	3.4	
	家島【N=23】	52.2	13.0	30.4	21.7	13.0	30.4	0.0	8.7	8.7	0.0	26.1	0.0	
	夢前【N=82】	57.3	13.4	41.5	22.0	26.8	29.3	12.2	9.8	18.3	3.7	18.3	0.0	
	香寺【N=87】	65.5	3.4	52.9	20.7	21.8	26.4	9.2	11.5	17.2	1.1	12.6	3.4	
	安富【N=23】	78.3	13.0	52.2	26.1	21.7	43.5	26.1	21.7	34.8	0.0	0.0	0.0	

3 日常生活・社会参加の状況について

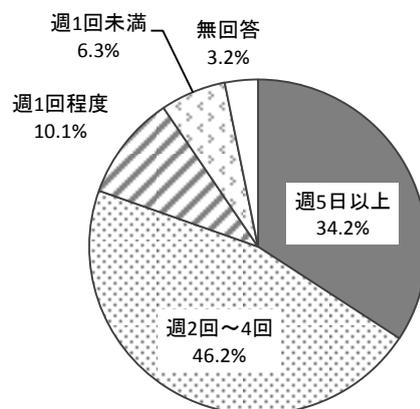
約8割の人が週に2回以上外出しているが、移動手段は居住地区により大きく異なり、徒歩で移動することが多い地区がある一方、自動車（自分で運転）の利用が多く徒歩の割合が3割を切っている地区もある。

約6割の人が何らかの活動に参加をしているが、加齢による身体の不調や運転者の減少で移動手段が制限され、今後、社会活動への参加が減少することも考えられる。

(1) 外出の実態

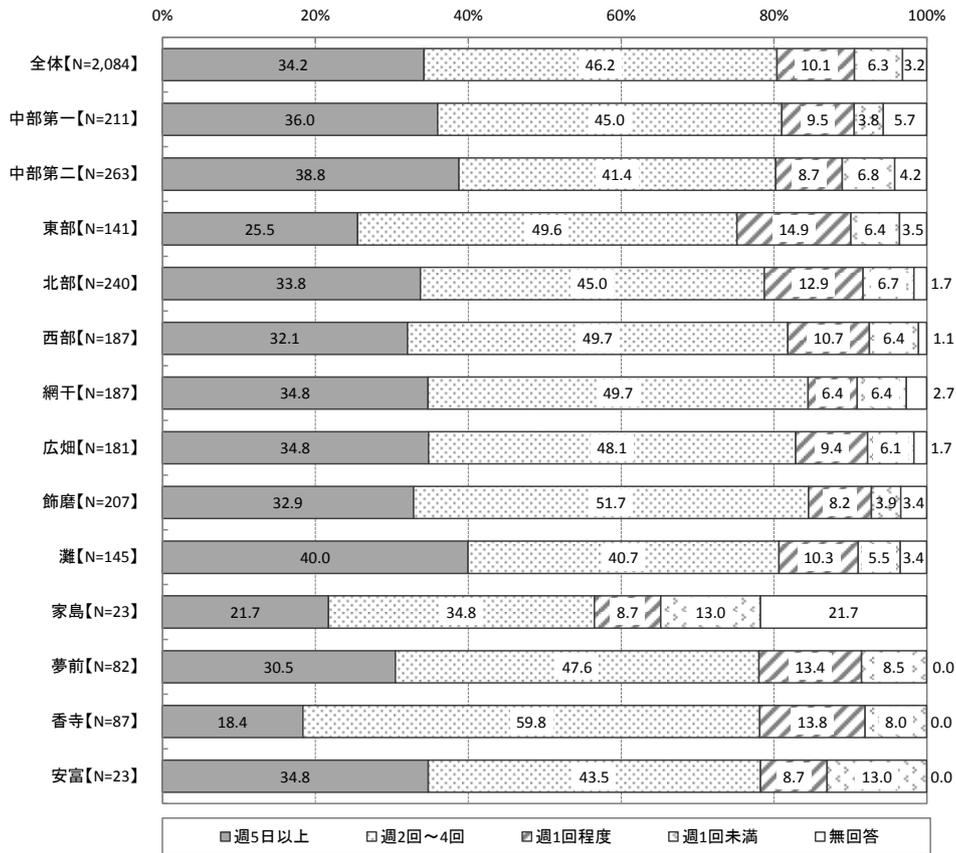
- ・外出頻度は、「週に2回～4回」が46.2%と最も多く、次いで「週5日以上」（34.2%）と続いており、約8割が週に2回以上外出している。
- ・外出時の移動手段は、「徒歩」、「自転車」、「自動車（自分で運転）」が多くなっている。
- ・外出時の移動手段を地区別にみると、「徒歩」が6割を超えているのは「中部第一」と「家島」、「自動車（自分で運転）」が6割を超えているのは「夢前」と「安富」となっている。
- ・外出を何かの理由で控えているかについては、「特に控えていることはない」が50.5%と最も多い。

【図表 外出頻度】

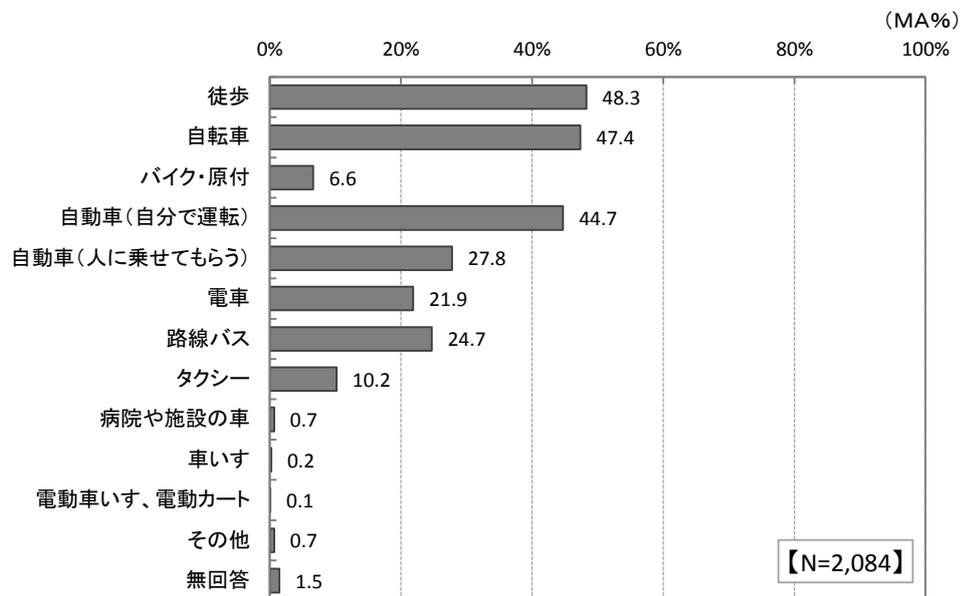


【N=2,084】

【図表 外出頻度／地区別】



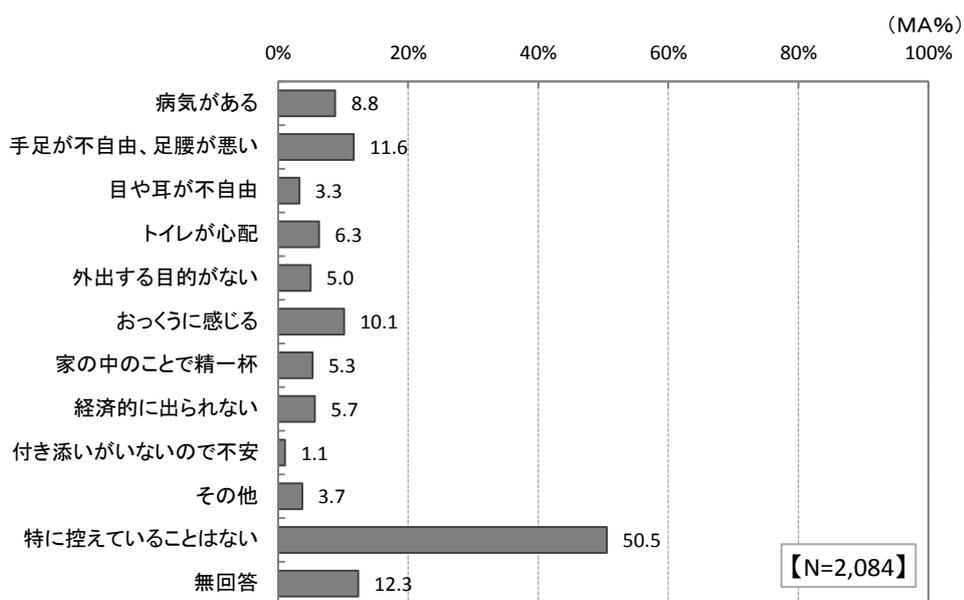
【図表 外出時の移動手段】



【図表 外出時の移動手段／地区別】

	徒歩	自転車	バイク・原付	転自動車（自分で運）	て自動車（人に乗せ）	電車	路線バス	タクシー	病院や施設の車	車いす	電動カート	電動車いす、電動	その他	無回答
全体【N=2,084】	48.3	47.4	6.6	44.7	27.8	21.9	24.7	10.2	0.7	0.2	0.1	0.7	1.5	
居住地区別	中部第一【N=211】	61.1	55.9	2.4	34.1	20.4	12.3	32.7	12.3	0.0	0.5	0.0	0.0	2.4
	中部第二【N=263】	55.1	55.1	3.4	43.7	26.2	15.6	34.6	14.1	1.1	0.0	0.4	0.0	1.9
	東部【N=141】	36.2	48.2	10.6	45.4	30.5	17.0	26.2	8.5	0.0	0.0	0.0	1.4	0.7
	北部【N=240】	47.1	38.3	7.5	50.8	30.0	14.6	40.8	11.3	0.4	0.0	0.0	0.8	1.7
	西部【N=187】	43.9	38.5	8.6	44.9	28.3	14.4	36.9	10.2	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
	網干【N=187】	47.1	54.0	10.2	47.1	24.6	33.2	8.6	7.5	0.5	0.5	0.0	1.1	1.6
	広畑【N=181】	53.0	53.0	5.0	46.4	29.8	26.0	20.4	7.2	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1
	飾磨【N=207】	57.5	58.0	2.9	36.2	34.3	42.0	16.9	16.4	0.5	0.5	0.0	0.5	1.9
	灘【N=145】	49.7	57.2	6.9	40.0	34.5	41.4	11.7	4.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7
	家島【N=23】	65.2	21.7	26.1	17.4	13.0	8.7	8.7	8.7	4.3	0.0	0.0	17.4	0.0
	夢前【N=82】	24.4	17.1	13.4	61.0	28.0	4.9	15.9	3.7	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	香寺【N=87】	27.6	26.4	8.0	55.2	35.6	25.3	3.4	14.9	2.3	0.0	1.1	0.0	0.0
	安富【N=23】	34.8	13.0	0.0	69.6	26.1	0.0	30.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【図表 外出を控えている理由】



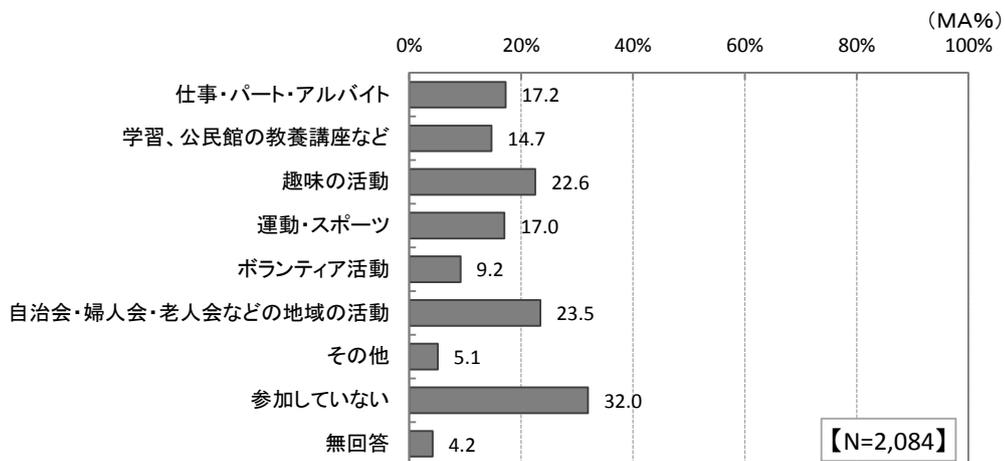
【図表 外出を控えている理由／地区別】

	病気が ある	腰 手 足が 悪い 不 自 由、 足	目 や 耳 が 不 自 由	ト イ レ が 心 配	い 外 出 す る 目 的 が な	お つ く う に 感 じ る	一 家 の 中 の こ と で 精	い 経 済 的 に 出 ら れ な	の で 不 安	そ の 他	と 特 に 控 え て い る こ と は な い	無 回 答	
全体【N=2,084】	8.8	11.6	3.3	6.3	5.0	10.1	5.3	5.7	1.1	3.7	50.5	12.3	
居住地区別	中部第一【N=211】	6.2	11.8	4.3	3.3	6.6	7.1	3.3	3.3	0.5	2.8	50.2	15.2
	中部第二【N=263】	8.0	13.3	0.8	9.5	6.1	9.1	5.7	6.5	1.5	4.2	48.7	11.4
	東部【N=141】	12.8	9.9	5.0	8.5	4.3	13.5	7.8	7.8	0.7	5.7	45.4	10.6
	北部【N=240】	7.1	10.0	4.6	5.8	5.8	13.3	7.9	5.8	2.1	4.6	50.8	10.4
	西部【N=187】	9.6	8.0	4.3	4.3	5.9	13.4	6.4	6.4	1.1	1.1	53.5	8.6
	網干【N=187】	9.1	10.7	1.6	7.0	7.0	10.2	4.8	8.6	1.1	3.7	51.3	10.7
	広畑【N=181】	8.3	11.0	2.2	5.5	2.8	9.9	3.9	4.4	0.6	2.2	50.8	17.1
	飾磨【N=207】	10.1	11.6	2.9	5.3	1.9	9.7	1.9	3.9	0.5	3.9	51.7	17.4
	灘【N=145】	6.9	14.5	4.1	4.1	5.5	9.7	3.4	6.9	0.7	5.5	51.0	10.3
	家島【N=23】	13.0	26.1	8.7	8.7	4.3	21.7	13.0	4.3	4.3	4.3	52.2	4.3
	夢前【N=82】	9.8	14.6	1.2	8.5	3.7	6.1	7.3	4.9	0.0	4.9	54.9	4.9
	香寺【N=87】	6.9	13.8	4.6	6.9	6.9	9.2	4.6	3.4	0.0	3.4	49.4	10.3
	安富【N=23】	13.0	13.0	0.0	21.7	4.3	13.0	4.3	0.0	4.3	4.3	52.2	8.7

(2) 社会参加の状況

- ・参加している活動は、「趣味の活動」と「自治会・婦人会・老人会などの地域活動」が20%を超えている。「参加していない」は平成22年度調査時（28.4%）と同様に約3割ある。
- ・参加している活動を地区別にみると、「趣味の活動」は「西部」と「網干」が約3割と多くなっている。「自治会・婦人会・老人会などの地域活動」は「西部」と「安富」が3割を超えている。
- ・近所付き合いの程度は、「日頃からよく会話をする」と「あいさつをする程度だが面識はある」がそれぞれ約半数を占めている。
- ・近所付き合いの程度を地区別にみると、「日頃からよく会話をする」は「夢前」と「安富」で6割を超えている。

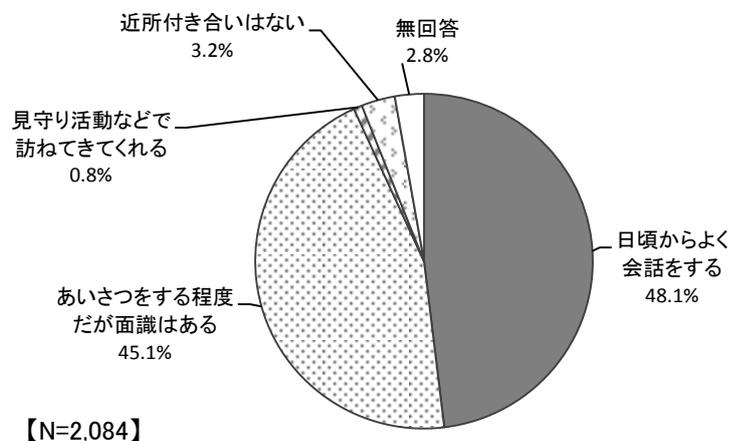
【図表 活動への参加状況】



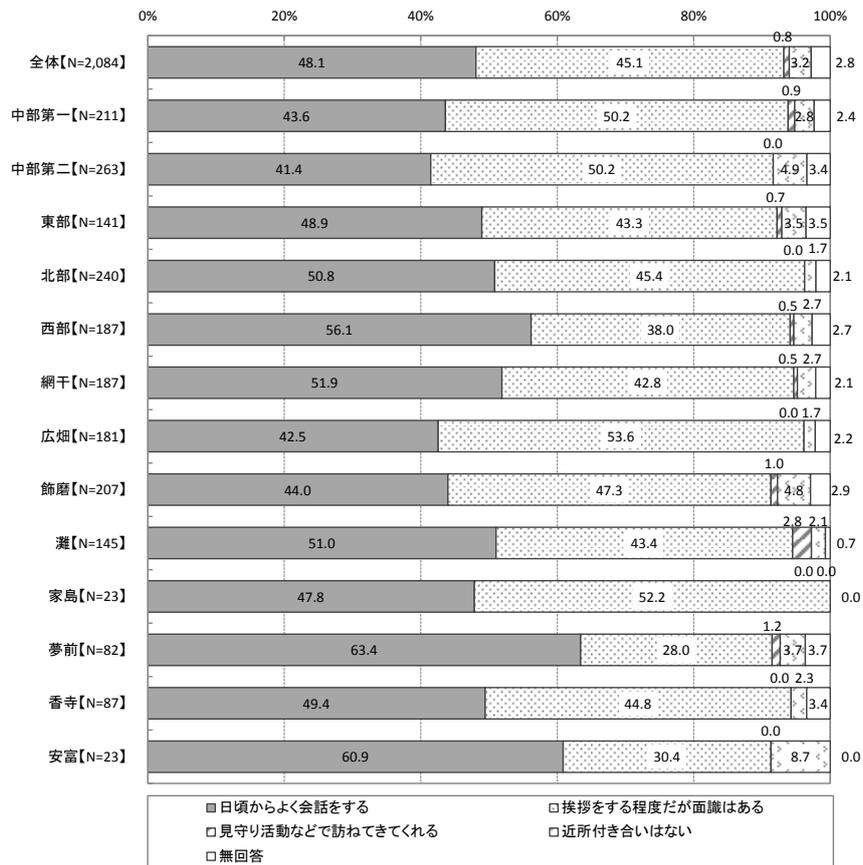
【図表 活動への参加状況／地区別】

	アルバイト・仕事・パート・ア	養学講習、公民館の教	趣味の活動	運動・スポーツ	ボランティア活動	の老人自治会などの地域の活動	その他	参加していない	無回答	
全体【N=2,084】	17.2	14.7	22.6	17.0	9.2	23.5	5.1	32.0	4.2	
居住地区別	中部第一【N=211】	19.4	12.3	20.9	13.7	7.1	21.3	6.2	32.7	6.2
	中部第二【N=263】	16.7	14.1	20.9	20.9	7.6	17.1	6.1	37.3	3.8
	東部【N=141】	12.1	14.2	22.7	17.0	5.7	23.4	4.3	36.2	2.1
	北部【N=240】	19.2	15.4	22.1	12.9	7.5	25.0	5.4	30.0	4.2
	西部【N=187】	14.4	19.3	29.4	16.6	14.4	35.3	4.8	28.9	2.1
	網干【N=187】	15.5	18.7	29.9	18.7	10.2	23.0	2.7	31.0	3.2
	広畑【N=181】	19.9	13.8	19.9	17.1	8.3	20.4	4.4	32.0	3.9
	飾磨【N=207】	17.4	13.0	25.6	16.9	12.1	22.7	2.4	34.8	5.3
	灘【N=145】	13.1	19.3	22.8	18.6	6.9	20.7	6.9	33.8	2.8
	家島【N=23】	30.4	0.0	0.0	4.3	4.3	17.4	0.0	34.8	13.0
	夢前【N=82】	24.4	9.8	20.7	14.6	8.5	29.3	8.5	24.4	2.4
	香寺【N=87】	14.9	13.8	14.9	23.0	12.6	25.3	2.3	25.3	4.6
	安富【N=23】	21.7	8.7	13.0	21.7	26.1	47.8	4.3	39.1	0.0

【図表 近所付き合いの程度】



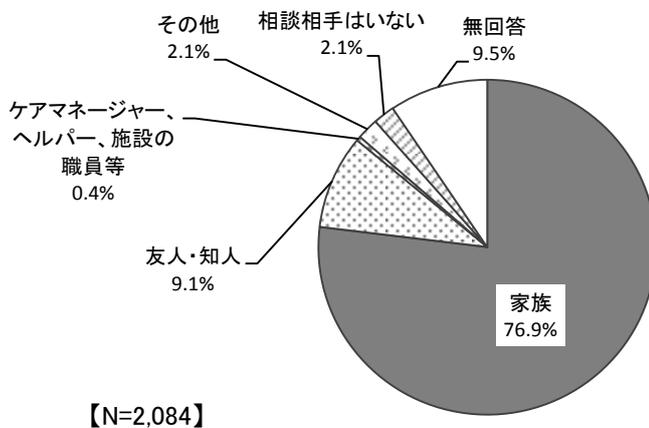
【図表 近所付き合いの程度／地区別】



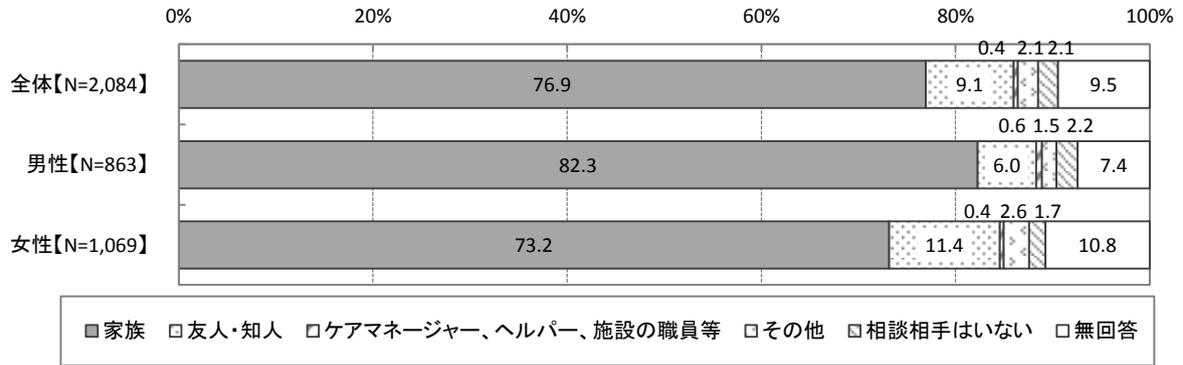
(3) 何かあったときの相談相手

・何かあったときの相談相手は、「家族」が約8割を占めている。

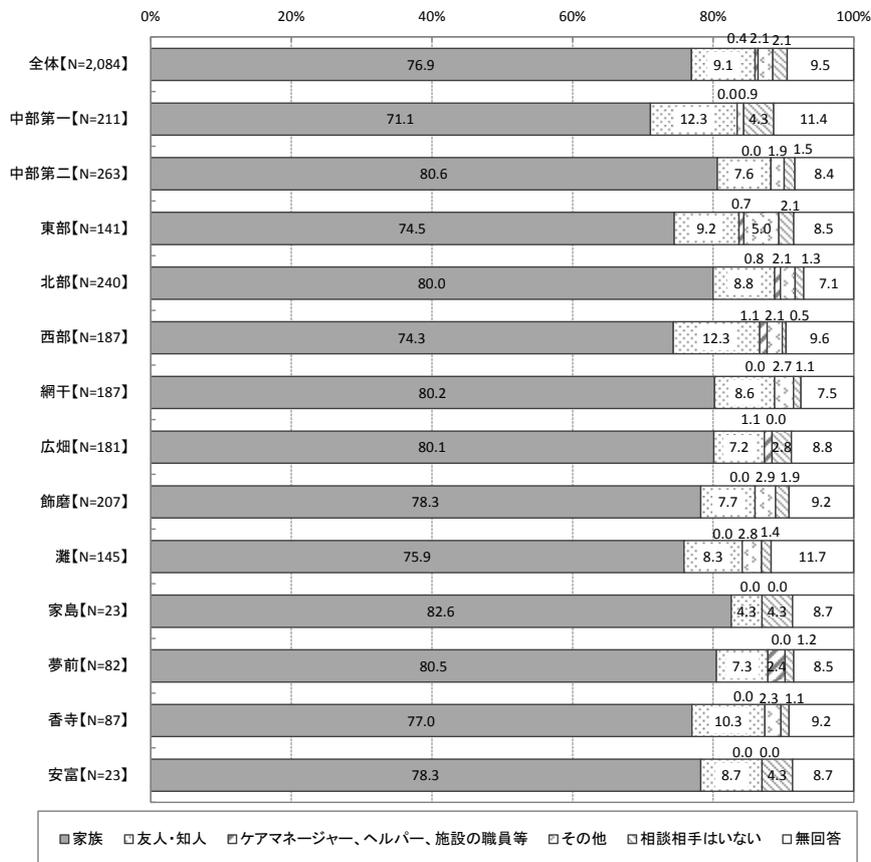
【図表 何かあったときの相談相手】



【図表 何かあったときの相談相手／性別】



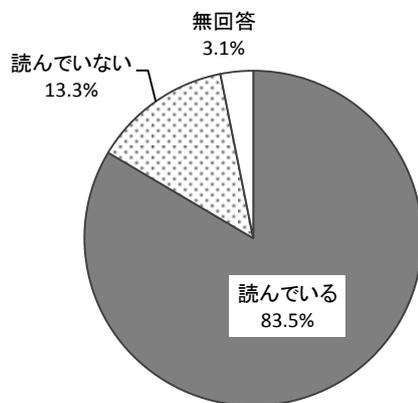
【図表 何かあったときの相談相手／地区別】



(4) 新聞を読んでいる状況

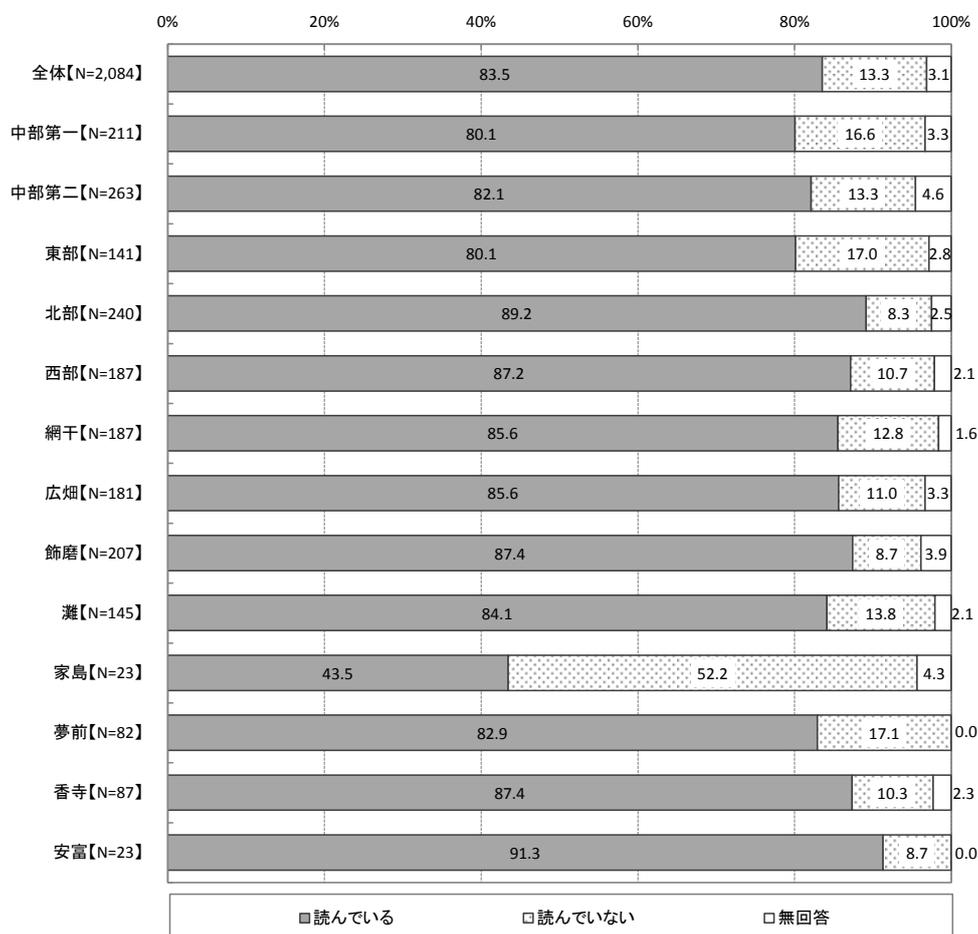
- ・新聞を読んでいる人は8割を超えている。
- ・地区別にみると、「家島」は「読んでいる」割合が他の地区の半分程度と少ない。

【図表 新聞を読んでいる状況】



【N=2,084】

【図表 新聞を読んでいる状況／地区別】



4 健康、もの忘れについて

健康と感じている割合は約 8 割で、平成 22 年度調査時より若干（4.4 ポイント）高くなっている。

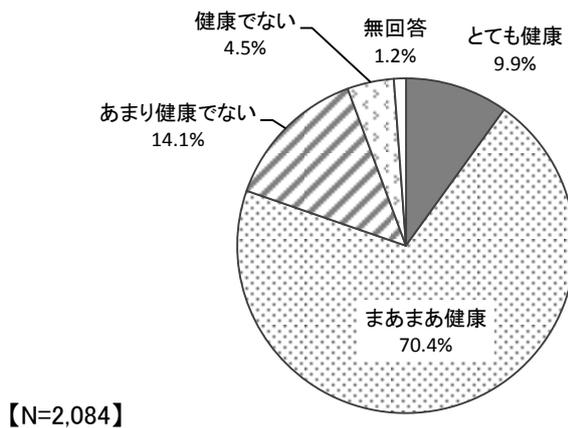
「かかりつけ医」を決めている割合は 8 割以上と高いが、定期的な歯科健診については半数以上が受診しておらず、口腔ケアに対して意識が低いことがうかがえる。

もの忘れや意思の伝達については、3%程度の人に支障があり、要介護・要支援認定を受けていない人の中にも、認知機能の低下が見られる人がいることがうかがえる。

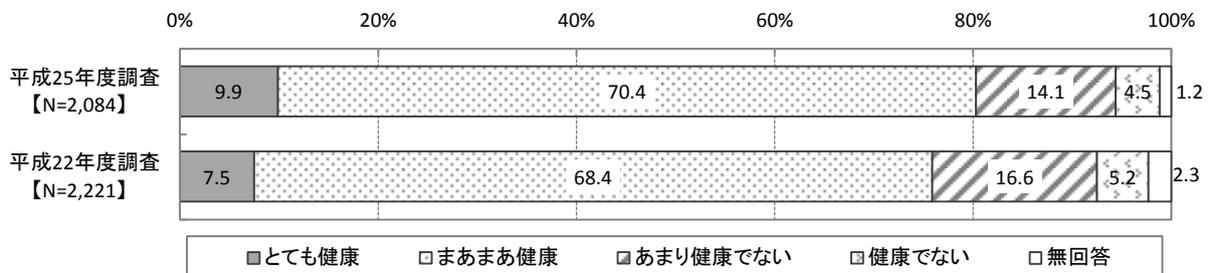
(1) 健康状態

- ・健康状態は、「まあまあ健康」が約 7 割で、「とても健康」と合わせると約 8 割が「健康」と回答している。「あまり健康でない」と「健康でない」は約 2 割ある。
- ・平成 22 年度調査と比較すると、4.4 ポイントだが「健康」と回答した割合は増加している。

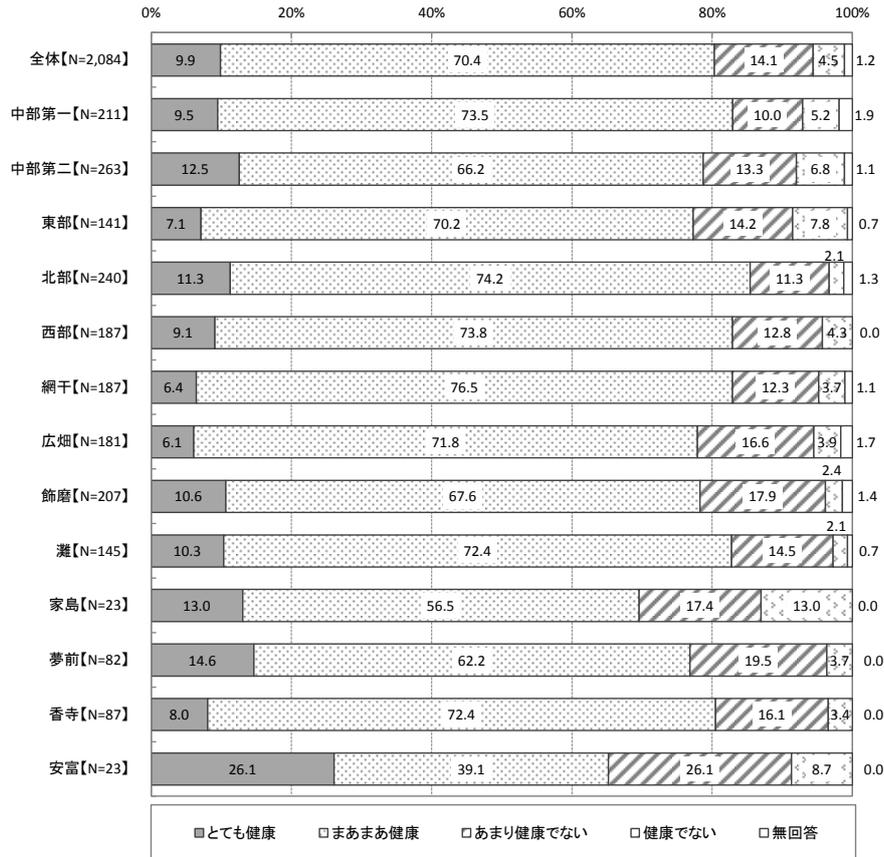
【図表 健康状態】



【図表 健康状態／平成 22 年度調査との比較】



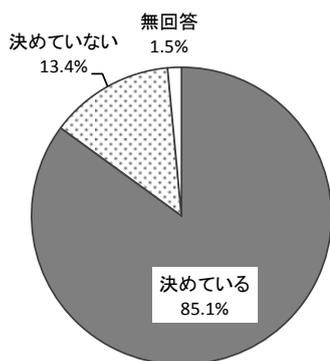
【図表 健康状態／地区別】



(2) 「かかりつけ医」と定期的な歯科健診の受診状況

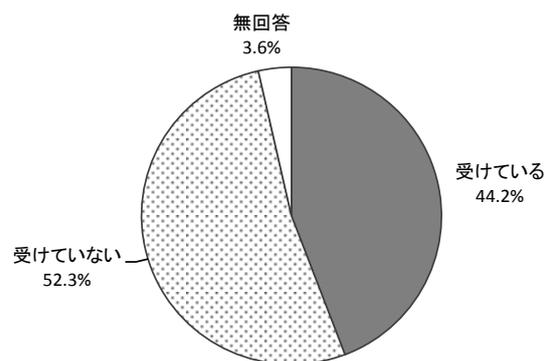
- ・「かかりつけ医」を決めている人は8割を超えている。
- ・定期的な歯科健診の受診有無は、「受けていない」が半数を超えている。
- ・地区別にみると、「かかりつけ医」についてはいずれの地区でも「決めている」が8割を超えているが、定期的な歯科健診受診については「受けている」割合は地区により差がある。特に「家島」と「夢前」では3割未満と少なくなっている。

【図表 「かかりつけ医」を決めている状況】



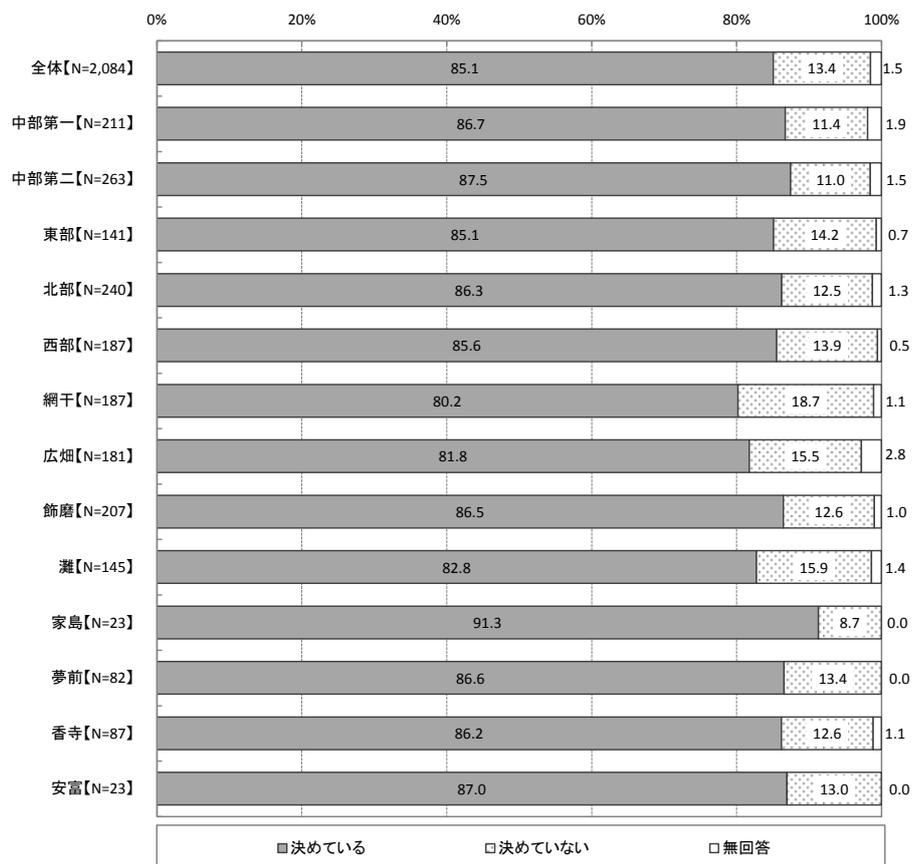
【N=2,084】

【図表 定期的な歯科健診の受診有無】

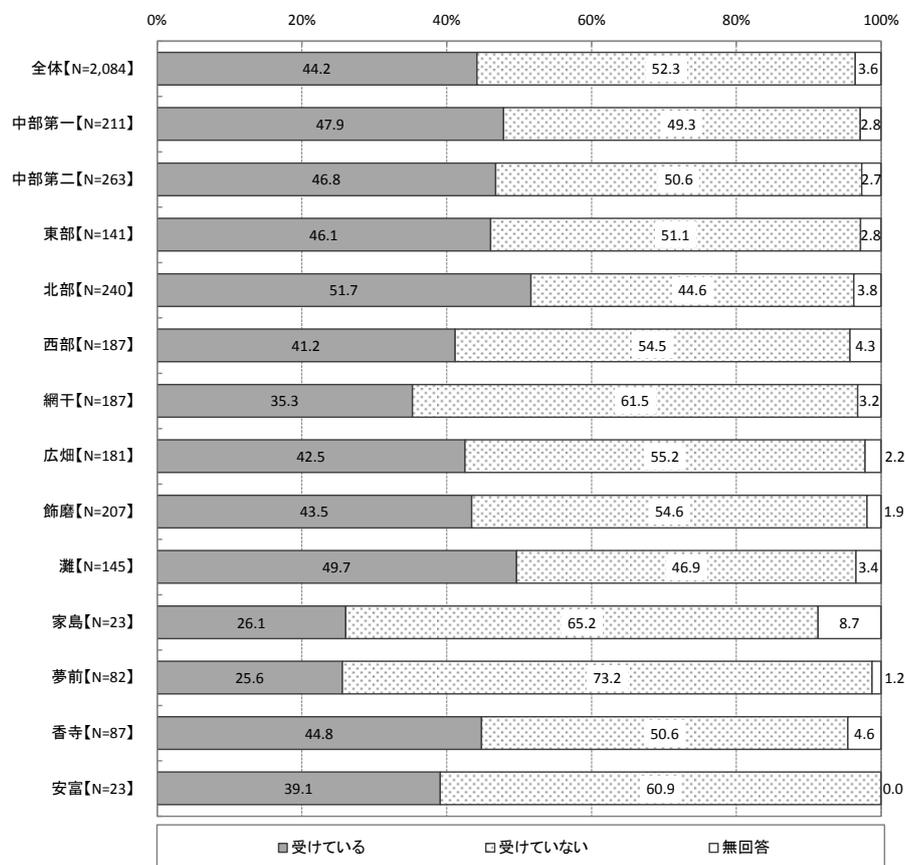


【N=2,084】

【図表 「かかりつけ医」を決めている状況／地区別】



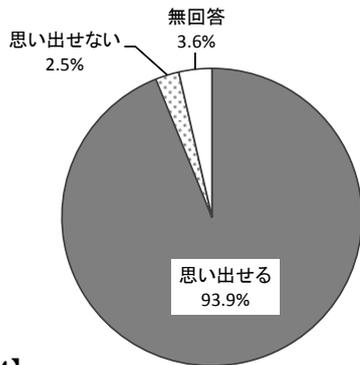
【図表 定期的な歯科健診の受診有無／地区別】



(4) もの忘れ、意思の伝達について

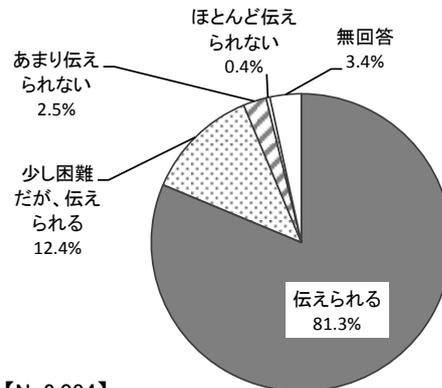
- ・もの忘れについて、「今から5分前のことを思い出せる」人は9割を超えているが、「思い出せない」人も2.5%いる。
- ・「自分の考えを、他人にうまく伝えられる」人は約8割で、「少し困難だが、伝えられる」と合わせると9割を超えているが、「伝えられない」人も3%程度いる。

【図表 今から5分前のことを思い出せる】



【N=2,084】

【図表 自分の考えを、他人にうまく伝えられる】

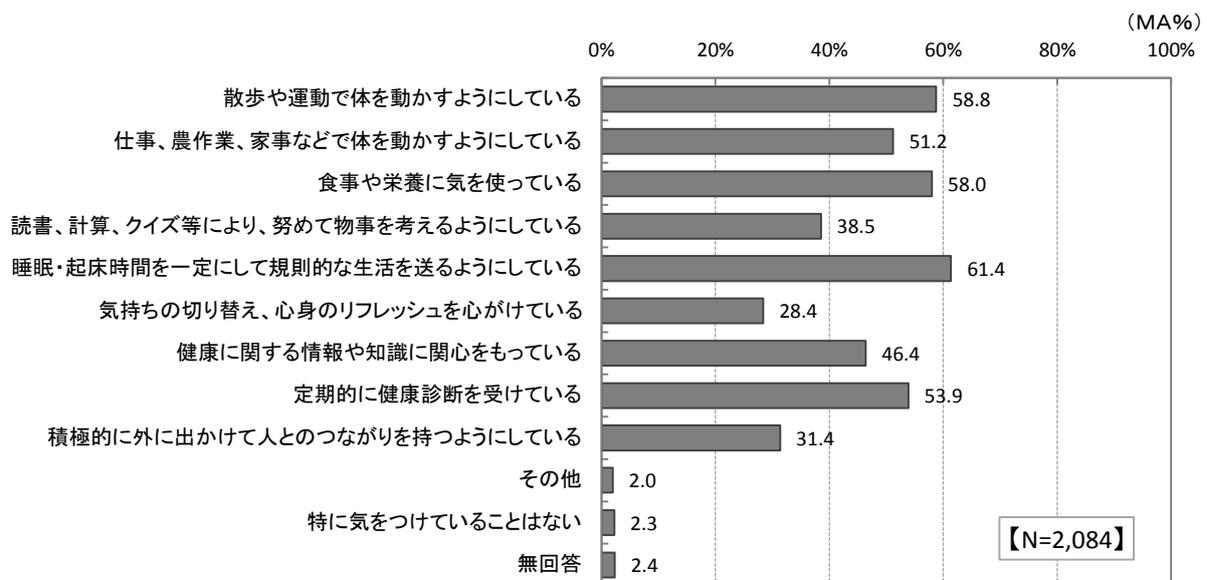


【N=2,084】

(5) 健康のために気をつけていること

- ・健康のために気をつけていることは、「散歩や運動」、「食事や栄養」、「規則的な生活」が多くなっている。

【図表 健康のために気をつけていること】



【N=2,084】

【図表 健康のために気をつけていること／地区別】

	散歩や運動で体を動かす	仕事、農作業、家事などで体を動かすようにしている	食事や栄養に気をつけている	読書、計算、クイズ等により、努めて物事を考えるようにしている	睡眠・起床時間を一定にして規則的な生活を送るようにしている	気持ちの切り替え、心身のリフレッシュを心がけている	健康に関する情報や知識に関心をもっている	定期的に健康診断を受けている	積極的な外に出かけて人とのつながりを持つよう	その他	特に気をつけていることはない	無回答	
全体【N=2,084】	58.8	51.2	58.0	38.5	61.4	28.4	46.4	53.9	31.4	2.0	2.3	2.4	
居住地区別	中部第一【N=211】	59.2	42.7	62.1	40.3	60.2	28.4	49.3	49.3	3.3	1.9	1.4	
	中部第二【N=263】	63.5	49.8	58.9	41.4	60.8	27.4	41.8	56.3	2.3	2.3	3.0	
	東部【N=141】	52.5	52.5	62.4	37.6	58.2	19.9	50.4	53.9	2.1	3.5	1.4	
	北部【N=240】	59.2	55.0	55.0	35.4	59.2	28.8	42.9	58.3	1.7	1.3	2.9	
	西部【N=187】	59.9	57.2	62.6	48.7	66.8	36.4	56.1	55.1	3.2	1.1	2.7	
	網干【N=187】	64.2	50.8	61.0	36.4	64.2	33.7	44.4	56.1	39.0	1.6	1.1	1.1
	広畑【N=181】	59.1	48.6	55.2	37.0	60.2	22.7	44.2	51.4	28.7	2.2	6.1	1.7
	飾磨【N=207】	57.5	42.5	54.6	40.1	67.1	27.1	48.3	53.1	26.6	2.4	1.0	0.5
	灘【N=145】	59.3	54.5	55.9	37.2	62.1	28.3	40.7	49.7	25.5	1.4	2.1	1.4
	家島【N=23】	34.8	39.1	52.2	17.4	47.8	17.4	39.1	39.1	17.4	0.0	4.3	4.3
	夢前【N=82】	57.3	70.7	59.8	37.8	56.1	30.5	43.9	51.2	36.6	0.0	3.7	1.2
	香寺【N=87】	59.8	58.6	52.9	35.6	66.7	32.2	46.0	54.0	34.5	0.0	0.0	2.3
	安富【N=23】	52.2	69.6	56.5	17.4	65.2	17.4	43.5	78.3	39.1	0.0	8.7	0.0

5 介護保険事業や高齢者福祉施策について

要支援・要介護認定を受けていない人の中でも、2割近くの人が介護等を受けていたり、介護等を必要としたりしている。

心身の機能が低下したり認知症になったりした場合の生活場所としては、何らかの介護サービスを受けながらも自宅で介護を希望する人が多くなっており、これが「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスを必要と考える割合が高いことや、認知症になっても地域で暮らすための取組みとして在宅で受けられるサービスの充実を必要とする割合が高いことにつながっていると考えられる。

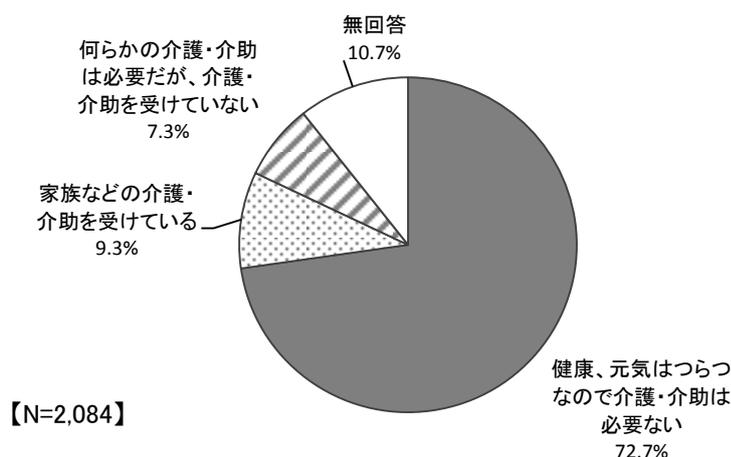
介護保険料の上昇については肯定的な意見が半数を超え、また平成22年度時の調査より7ポイント高くなっており、金額が上昇しないことよりもサービスが不足しないことを望んでいる人が多くなっていることがうかがえる。

介護予防事業等への参加や地域包括支援センターの利用は少なく、その理由として存在を知らないことがそれぞれ4割程度あり、一層の周知が必要である。

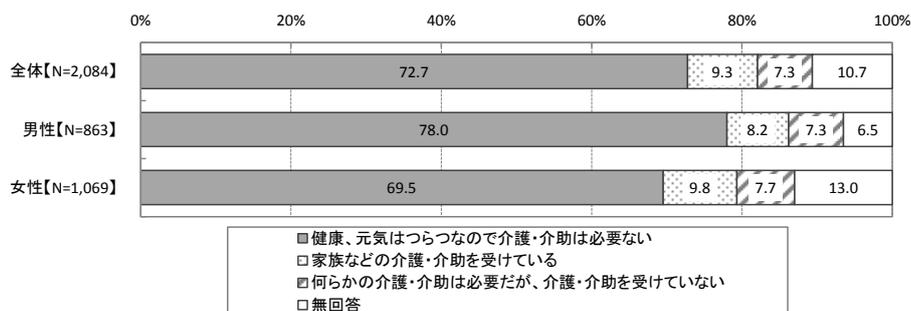
(1) 介護・介助の実態

- ・「健康、元気はつらつなので介護・介助は必要ない」人が7割以上を占めているが、介護・介助を受けていたり必要としたりしている人も16.6%いる。
- ・性別にみると、介護・介助が必要ない割合は男性が女性より8.5ポイント高い。
- ・地区別にみると、介護・介助が必要ない割合は「灘」で最も多く、「家島」で最も少ない。
- ・主な介護・介助者は「配偶者」と「子」がそれぞれ約4割となっている。
- ・主な介護・介助者の年齢は「65歳未満」が35.1%と最も多いが、後期高齢者である75歳以上の割合も25.8%ある。

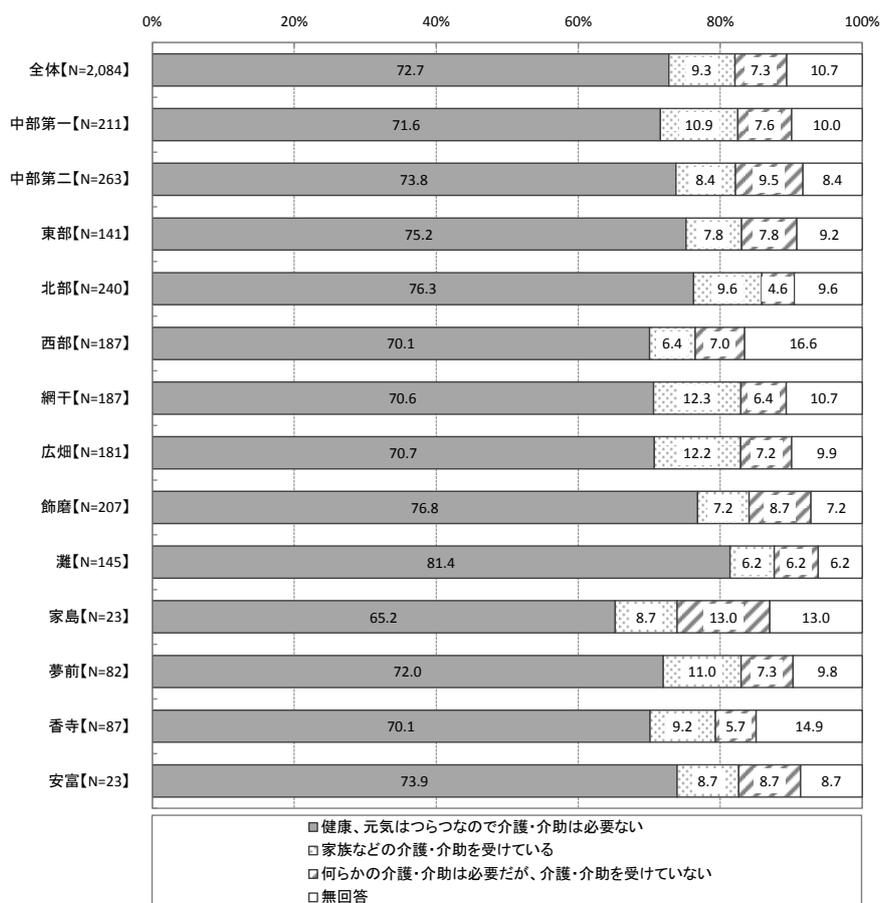
【図表 介護・介助の状況】



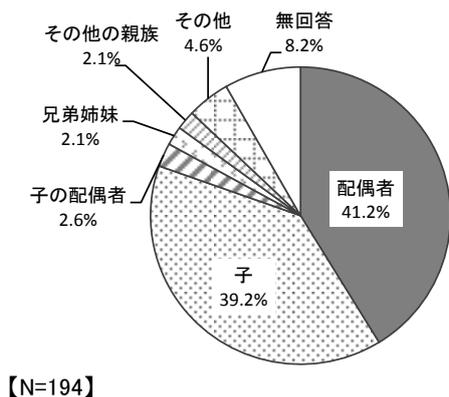
【図表 介護・介助の状況／性別】



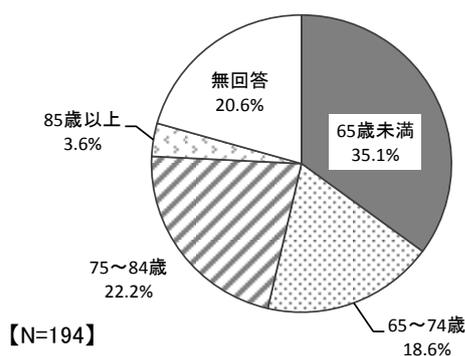
【図表 介護・介助の状況／地区別】



【図表 主な介護・介助者】



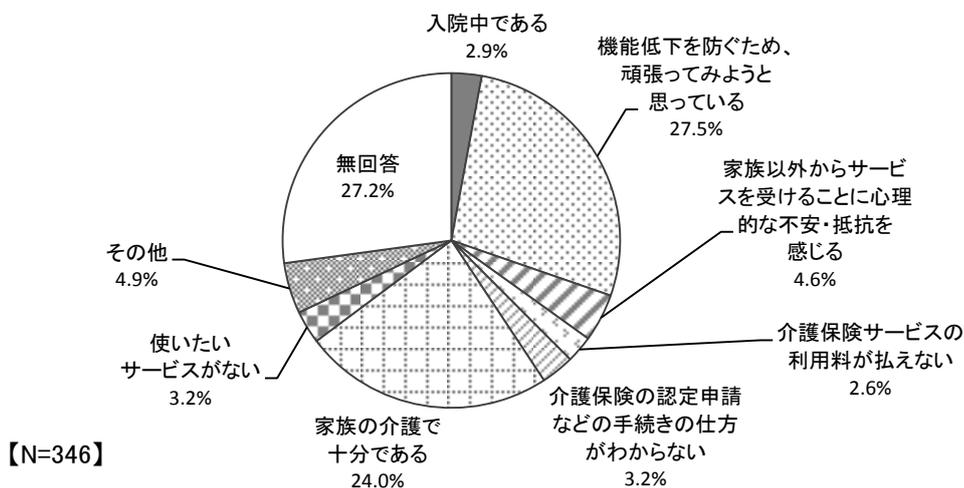
【図表 主な介護・介助者の年齢】



(2) 介護保険サービスを利用していない理由

- ・家族などから介護・介助を受けていたり、介護・介助は必要だが介護・介助を受けていない人が介護保険サービスを利用していない理由は、「機能低下を防ぐため、頑張ってみようと思っている」が27.5%と最も多く、次いで「家族の介護で十分である」(24.0%)と続いている。

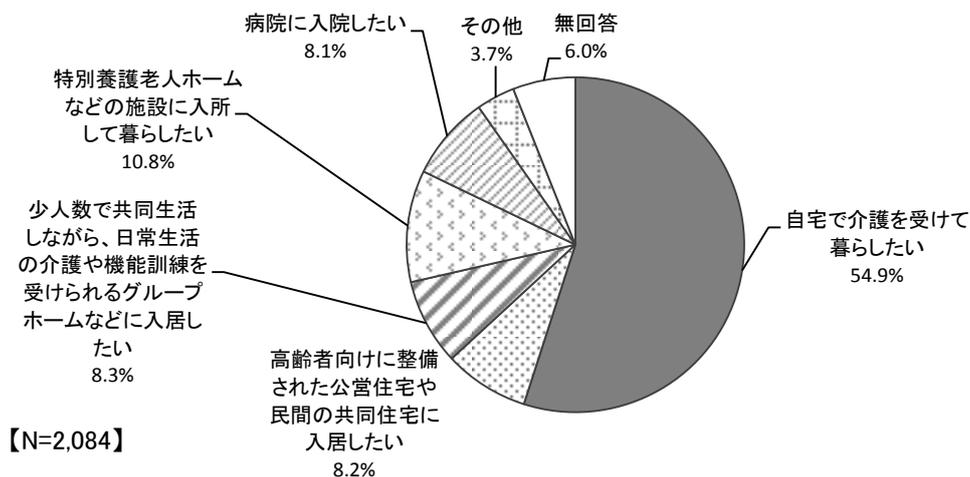
【図表 介護保険サービスを利用していない理由】



(3) 介護・介助に対する希望、介護施設への希望

- ・現在の状態以上に心身の機能が低下し、介護・介助が必要となった場合に希望する暮らし方は、「自宅で介護を受けて暮らしたい」が半数以上を占めている。
- ・介護施設で生活することになった場合に希望する居室は、「費用負担が少々あっても、プライバシーが確保される個室がよい」が36.9%と最も多い。
- ・介護施設に望ましい立地は、「交通の便がよい住宅街や駅の近くなどがよい」が32.3%と最も多い。

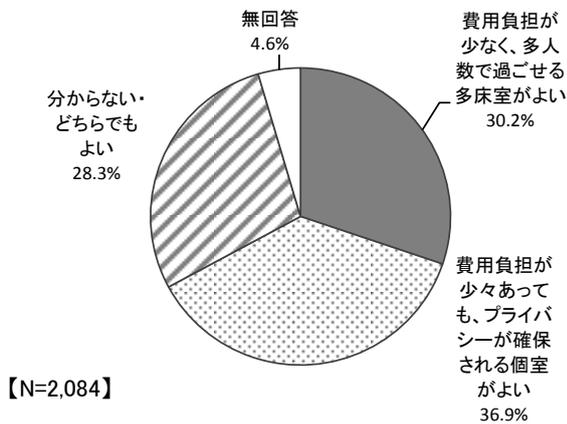
【図表 心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方】



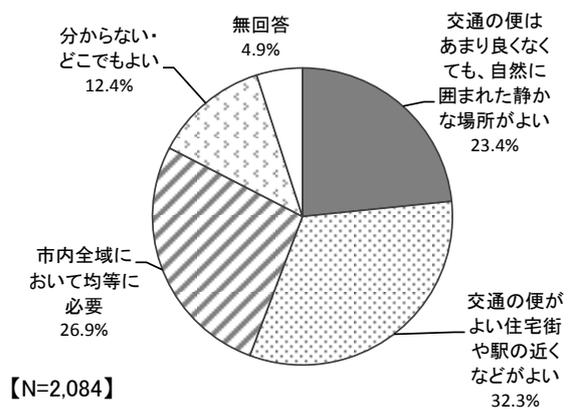
【図表 心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方／地区別】



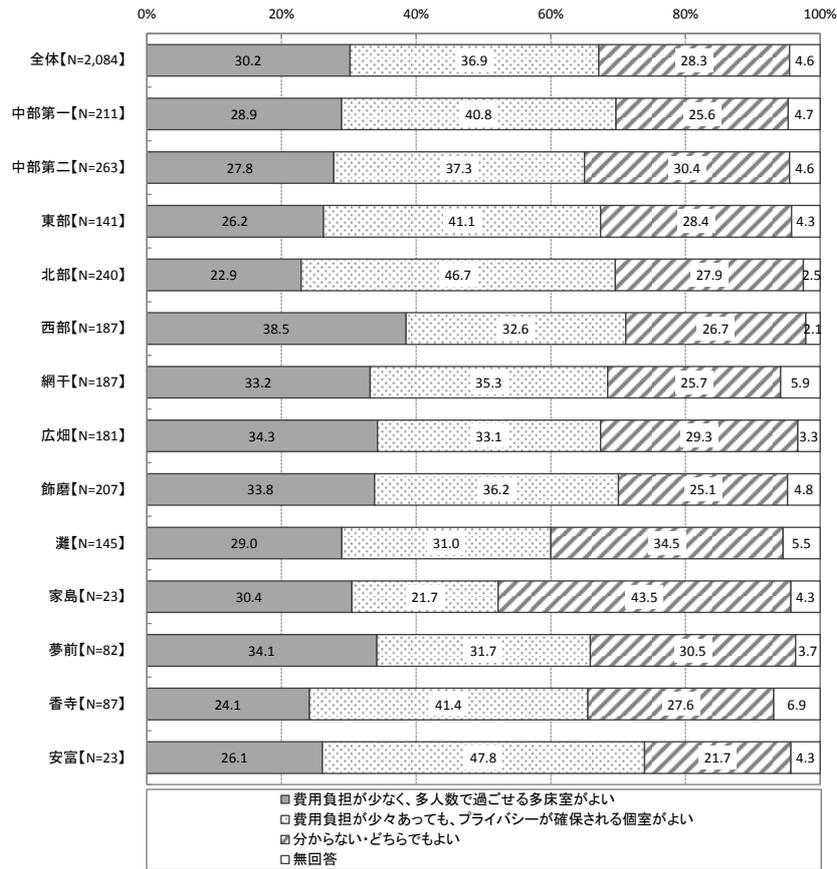
【図表 介護施設で生活する場合に希望する居室】



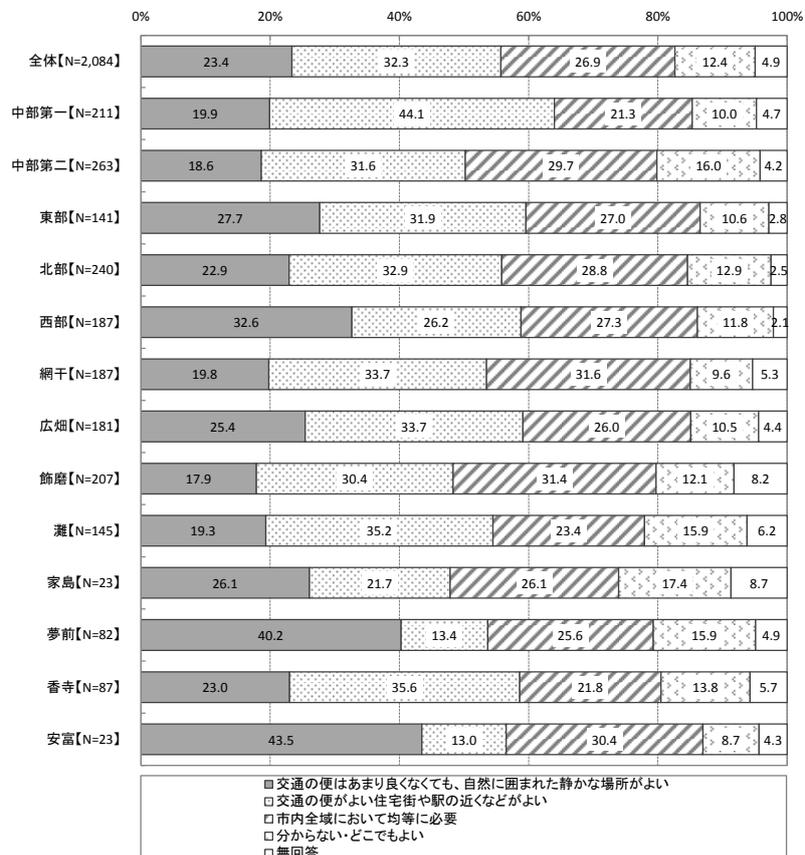
【図表 介護施設に望ましい立地】



【図表 介護施設で生活する場合に希望する居室／地区別】



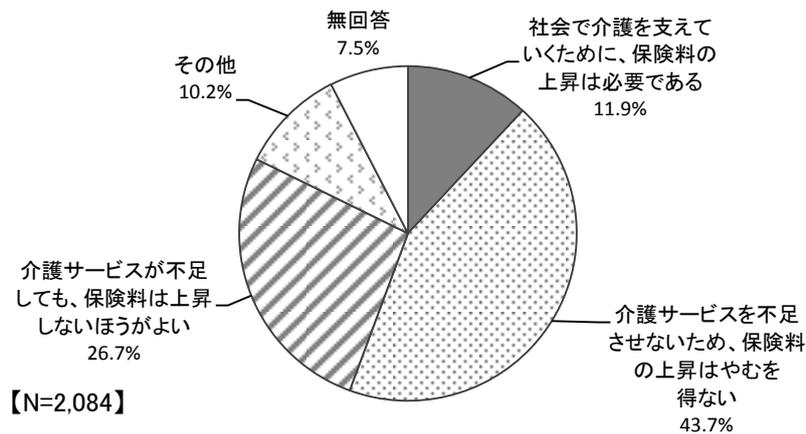
【図表 介護施設に望ましい立地／地区別】



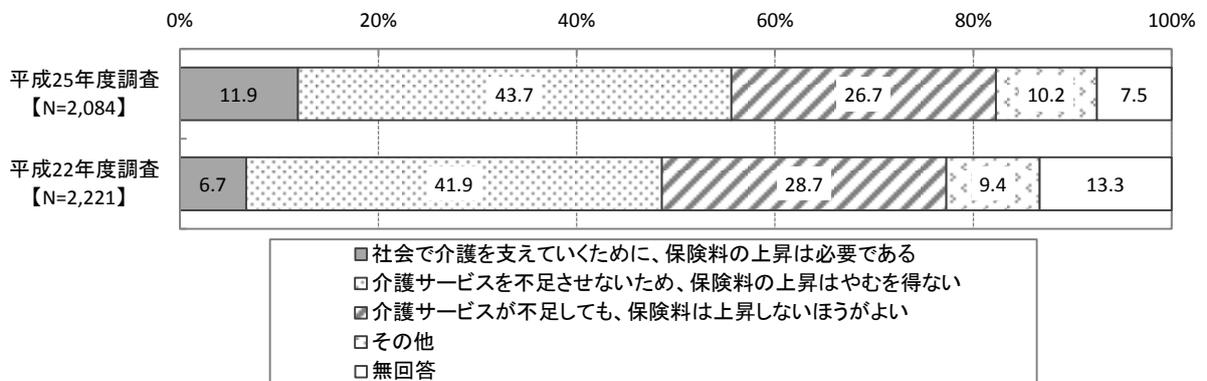
(4) 介護保険料の方向性について

- ・介護保険料の方向性についての考えは、「介護サービスを不足させないため、保険料の上昇はやむを得ない」が 43.7%と最も多く、「社会で介護を支えていくために、保険料の上昇は必要である」と合わせると 55.6%が保険料の上昇に肯定的な回答をしており、また平成 22 年度調査と比較して 7 ポイント高くなっている。

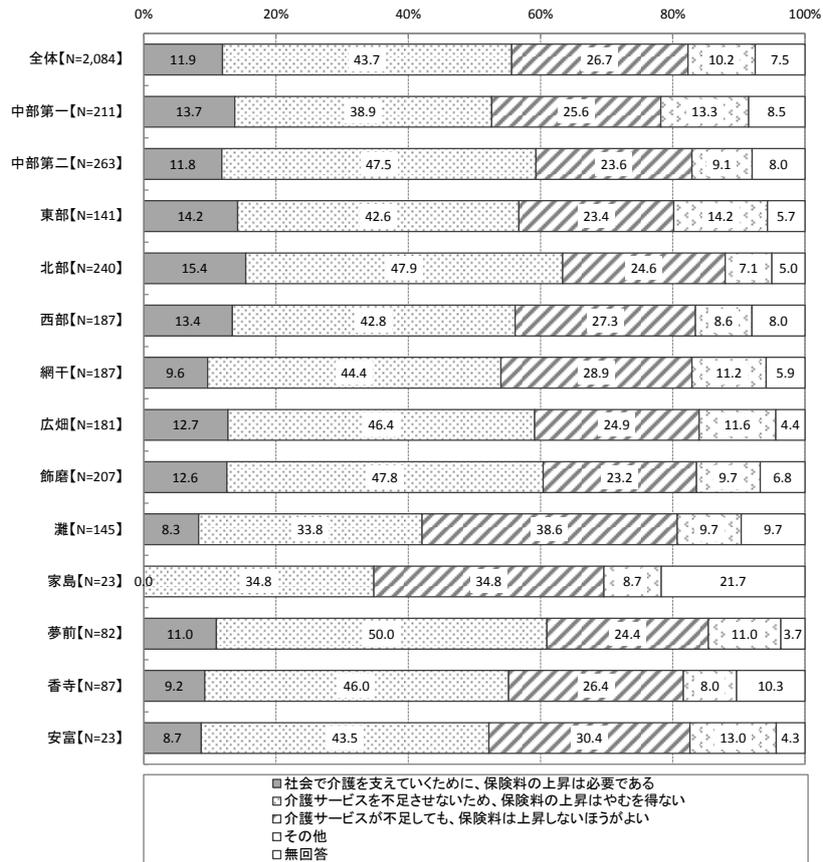
【図表 介護保険料の方向性について】



【図表 介護保険料の方向性について／平成 22 年度調査との比較】



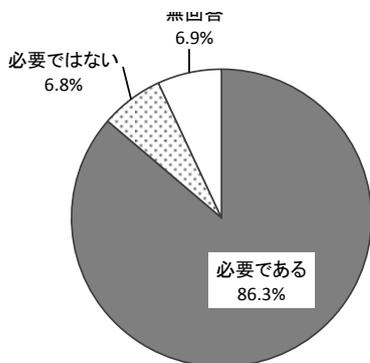
【図表 介護保険料の方向性について／地区別】



(5) 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスについて

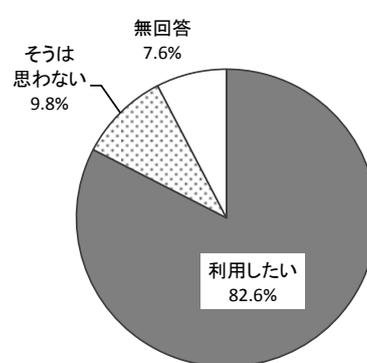
- ・介護が必要となっても自宅で安心して暮らし続けるために、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスが「必要である」と考える人は9割近くを占めている。
- ・また、介護が必要になったときにそのサービスを「利用したい」人は8割以上となっている。

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの必要性の有無】



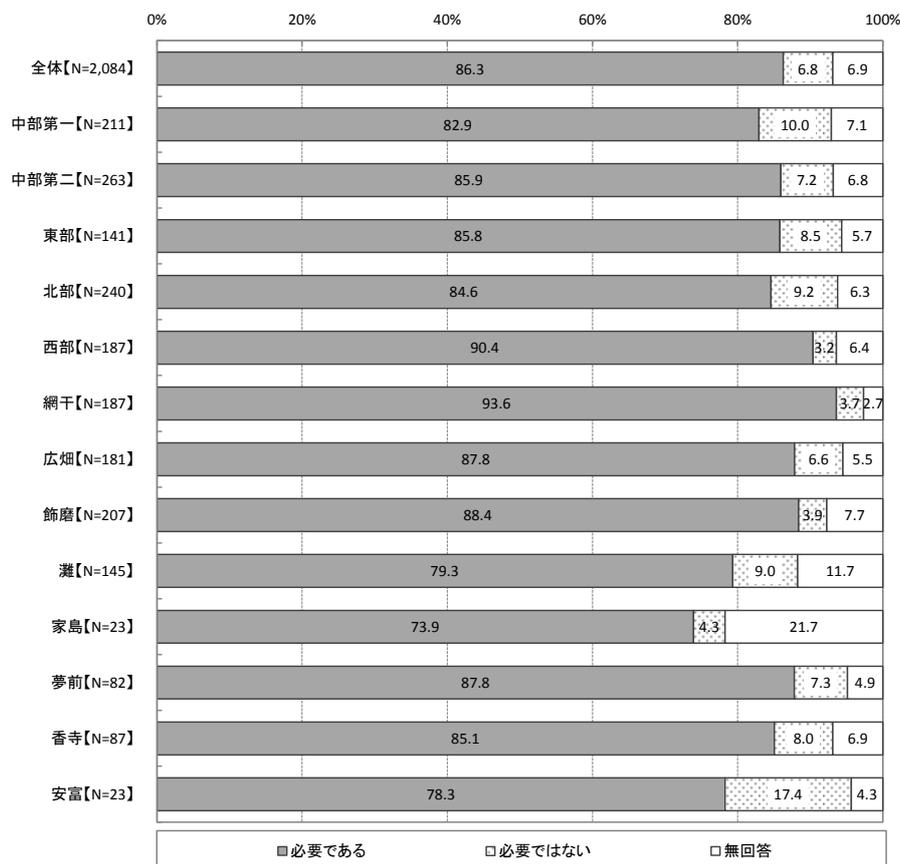
【N=2,084】

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの利用希望の有無】

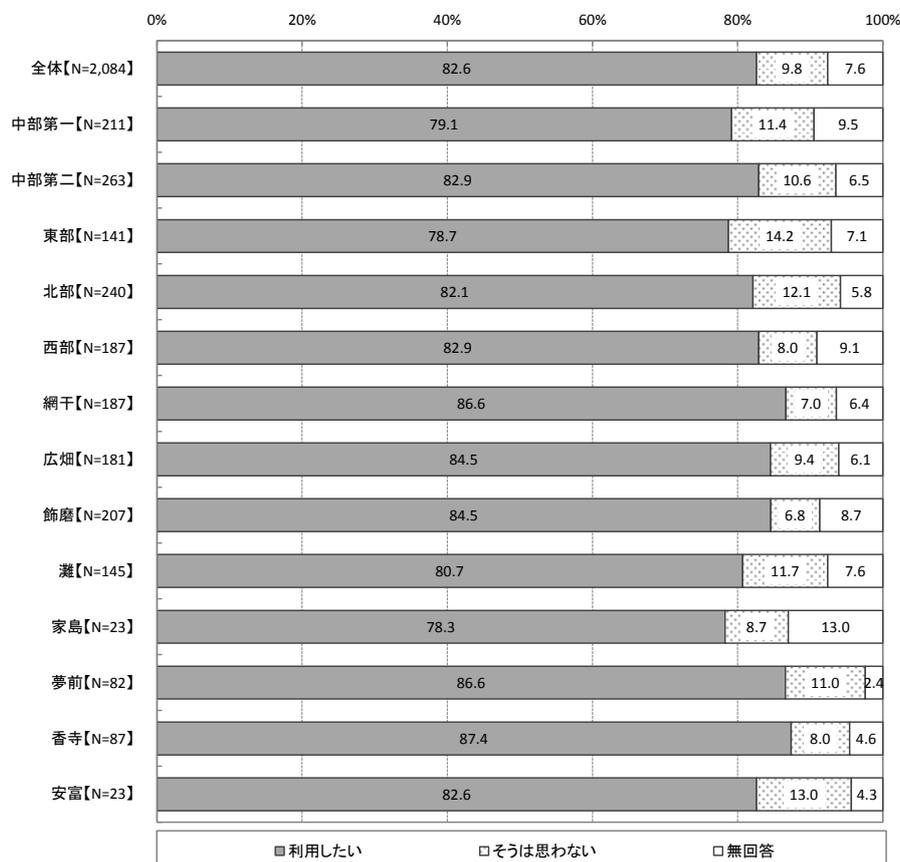


【N=2,084】

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの必要性の有無／地区別】



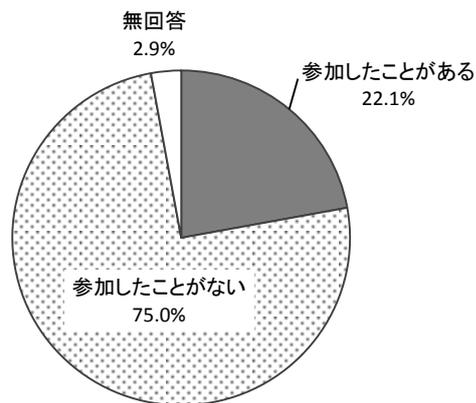
【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの利用希望の有無／地区別】



(6) 介護予防事業等について

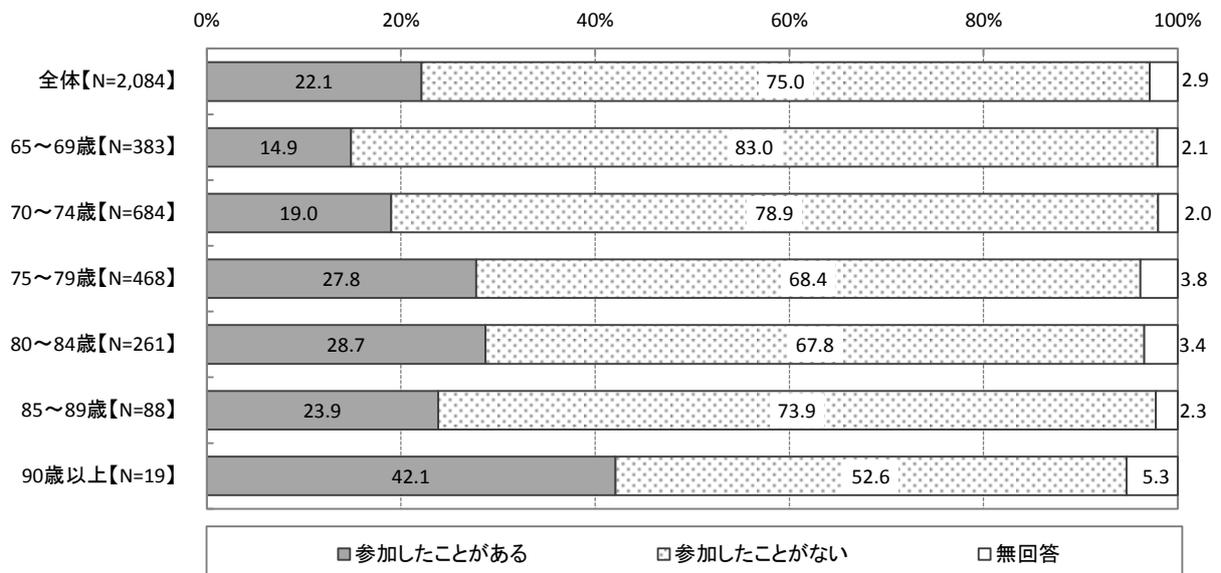
- ・介護予防事業等に「参加したことがある」人は約2割となっており、年齢が上がるにつれて「参加したことがある」割合は高くなる傾向がみられる。
- ・介護予防事業等へ参加した人の感想は、「健康であるために大いに役に立った」が69.8%と最も多い。
- ・介護予防事業等に参加したことがない人の理由は、「そのような教室や講演会があることを知らない」が44.2%と最も多い。

【図表 介護予防事業等への参加状況】

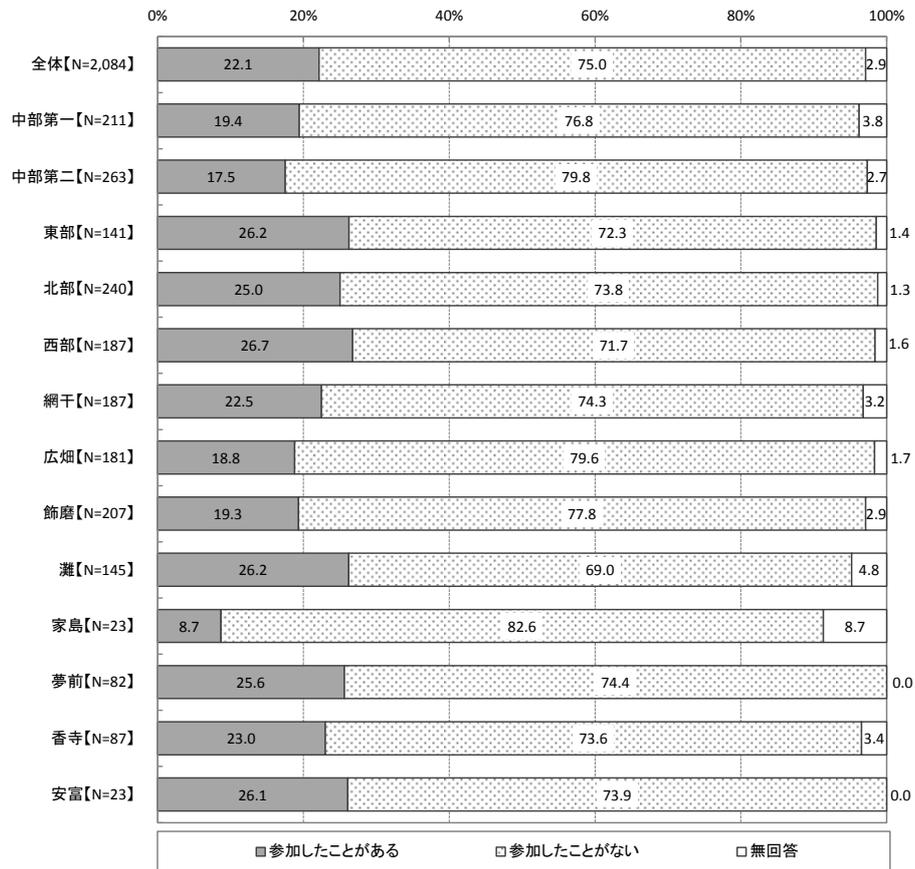


【N=2,084】

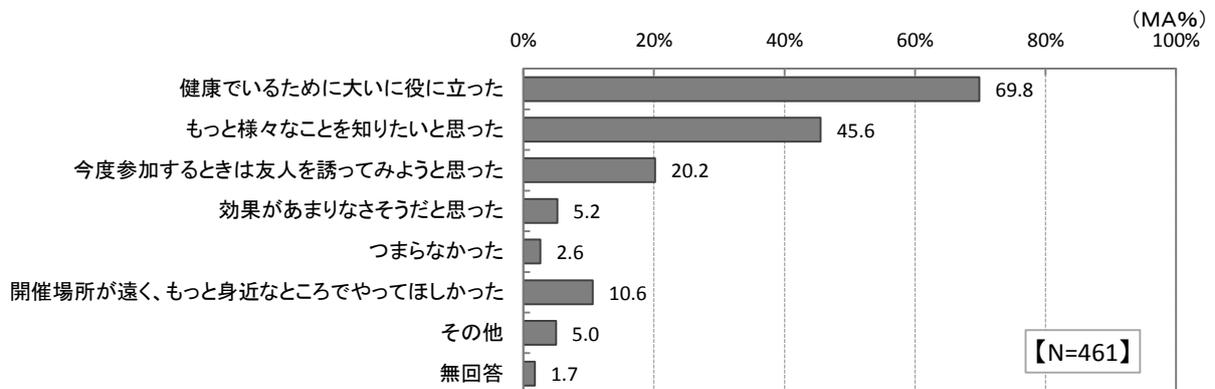
【図表 介護予防事業等への参加状況／年齢別】



【図表 介護予防事業等への参加状況／地区別】



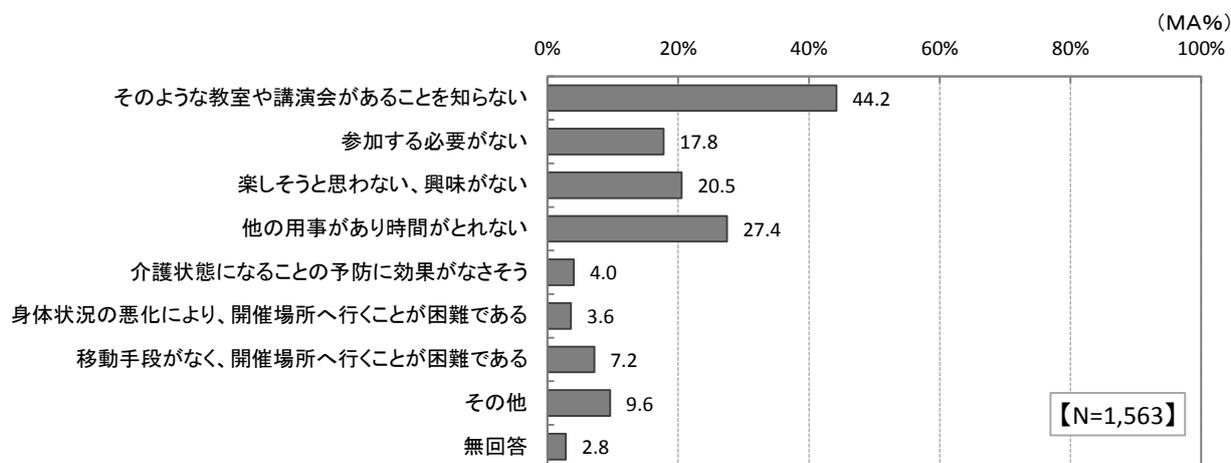
【図表 介護予防事業等へ参加した感想】



【図表 介護予防事業等へ参加した感想／地区別】

	い健康に役でいる立ったために大	もつたいと様々なことを	と友人を誘った	今度参加するときは	う効果があまりなさそう	つまらなかった	でもやってほしかった	開催場所が遠く、	その他	無回答
全体【N=461】	69.8	45.6	20.2	5.2	2.6	10.6	5.0	1.7		
居住地区別	中部第一【N=41】	61.0	34.1	12.2	9.8	4.9	9.8	9.8	0.0	
	中部第二【N=46】	63.0	45.7	8.7	8.7	6.5	8.7	6.5	2.2	
	東部【N=37】	70.3	37.8	16.2	8.1	5.4	10.8	2.7	0.0	
	北部【N=60】	73.3	50.0	21.7	1.7	1.7	5.0	5.0	1.7	
	西部【N=50】	76.0	44.0	24.0	2.0	2.0	12.0	4.0	0.0	
	網干【N=42】	78.6	52.4	28.6	2.4	0.0	2.4	2.4	0.0	
	広畑【N=34】	76.5	50.0	20.6	2.9	0.0	14.7	5.9	0.0	
	飾磨【N=40】	67.5	52.5	30.0	7.5	2.5	12.5	5.0	2.5	
	灘【N=38】	73.7	36.8	18.4	5.3	0.0	10.5	7.9	5.3	
	家島【N=2】	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	夢前【N=21】	66.7	66.7	23.8	0.0	0.0	14.3	0.0	4.8	
	香寺【N=20】	80.0	45.0	15.0	0.0	0.0	10.0	5.0	5.0	
安富【N=6】	50.0	66.7	16.7	16.7	0.0	50.0	0.0	0.0		

【図表 介護予防事業等に参加したことがない理由】



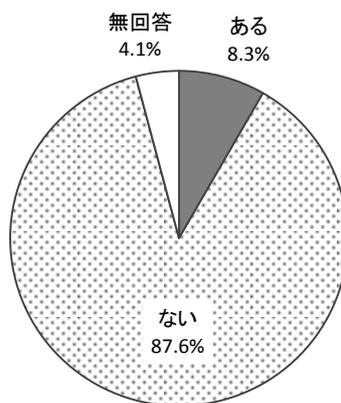
【図表 介護予防事業等に参加したことがない理由／地区別】

	その 演 会 が あ る こ と を 知 ら な い	そ の よ う な 教 室 や 講 義	参 加 す る 必 要 が な い	い ろ ろ と 思 わ な い 興 味 が な い	他 の 用 事 が あ り 時 間 が と れ な い	介 護 予 防 に 効 果 が な さ そ う	こ り が 開 催 場 所 へ 行 く こ と が 困 難 で あ る	身 体 状 況 の 悪 化 に よ り が 開 催 場 所 へ 行 く こ と が 困 難 で あ る	移 動 手 段 が な く 、 開 催 場 所 へ 行 く こ と が 困 難 で あ る	そ の 他	無 回 答
全体【N=1,563】	44.2	17.8	20.5	27.4	4.0	3.6	7.2	9.6	2.8		
居住地区別	中部第一【N=162】	48.1	18.5	24.7	30.2	3.1	3.1	6.2	7.4	3.1	
	中部第二【N=210】	45.7	18.6	16.2	30.0	3.8	4.3	4.3	8.1	1.9	
	東部【N=102】	46.1	11.8	24.5	28.4	7.8	5.9	11.8	7.8	0.0	
	北部【N=177】	38.4	17.5	20.9	33.9	4.5	3.4	5.6	11.9	3.4	
	西部【N=134】	52.2	17.9	17.2	24.6	3.0	4.5	9.0	9.7	3.0	
	網干【N=139】	48.9	23.7	23.0	23.0	5.0	4.3	4.3	8.6	2.9	
	広畑【N=144】	36.1	20.8	22.9	23.6	4.2	2.1	6.3	10.4	2.8	
	飾磨【N=161】	37.3	14.3	19.3	29.2	3.7	3.1	8.1	10.6	1.9	
	灘【N=100】	45.0	21.0	25.0	22.0	5.0	1.0	6.0	12.0	2.0	
	家島【N=19】	31.6	5.3	5.3	36.8	0.0	10.5	21.1	10.5	10.5	
	夢前【N=61】	47.5	24.6	18.0	24.6	1.6	3.3	16.4	3.3	1.6	
	香寺【N=64】	50.0	15.6	21.9	26.6	4.7	4.7	12.5	9.4	3.1	
	安富【N=17】	52.9	11.8	23.5	23.5	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	

(7) 地域包括支援センターについて

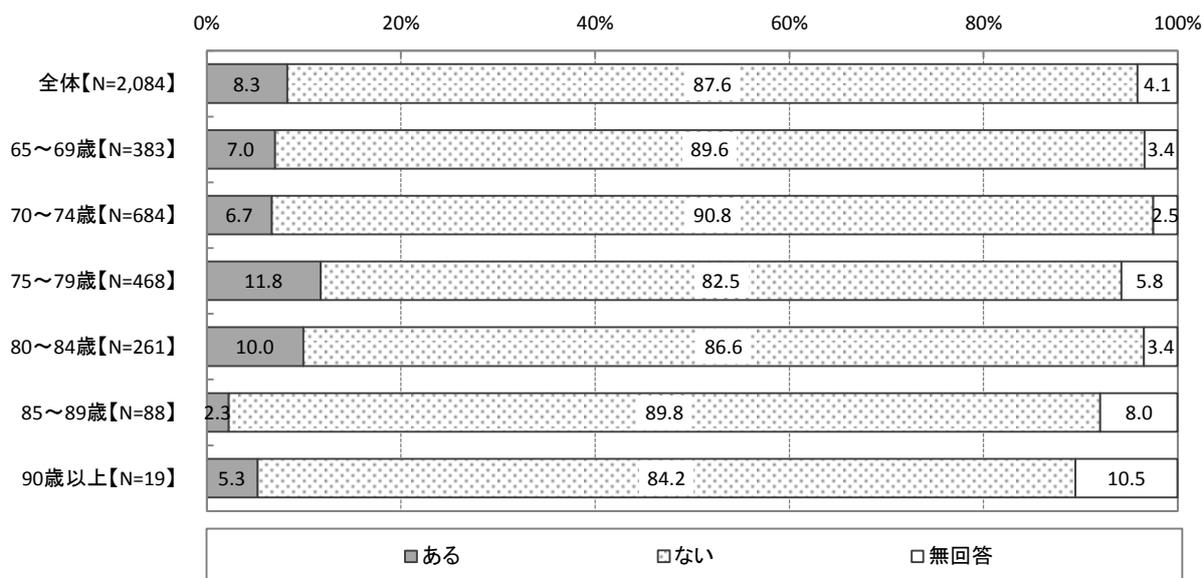
- ・地域包括支援センターの利用有無は、「ない」が約9割を占めている。
- ・利用内容は、「介護保険の利用に関すること」と「健康に関する相談・支援」が多くなっている。
- ・利用をした満足度は、「やや満足」が52.6%と最も多く、「大変満足」と合わせると86.1%が「満足」と回答している。
- ・『満足』（「大変満足」と「やや満足」の合計）と『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）別に満足度の理由をみると、『満足』では「話しやすさ」が69.8%と最も多く、次いで「信頼性」（38.9%）と続いている。『不満』と回答した人は非常に少ないが、その理由は「信頼性」が多くなっている。
- ・センターを利用したことがない人の理由は、「相談したいことがない」が61.5%と最も多い。

【図表 地域包括支援センターの利用有無】

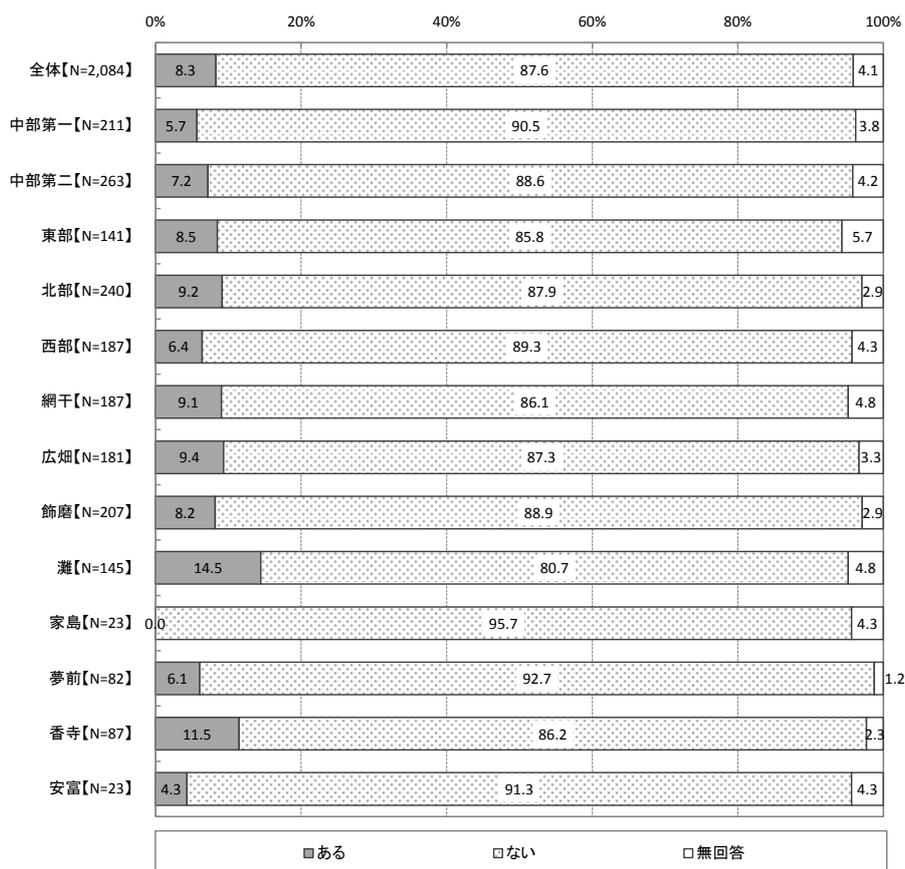


【N=2,084】

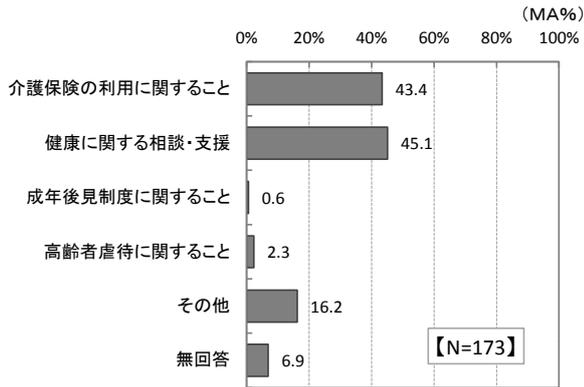
【図表 地域包括支援センターの利用有無／年齢別】



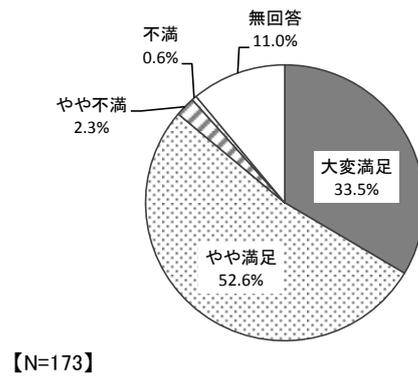
【図表 地域包括支援センターの利用有無／地区別】



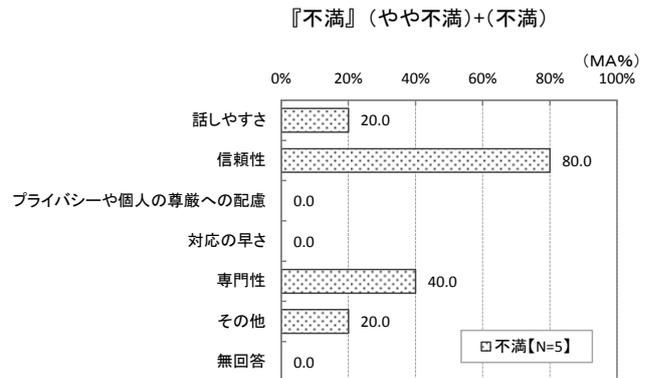
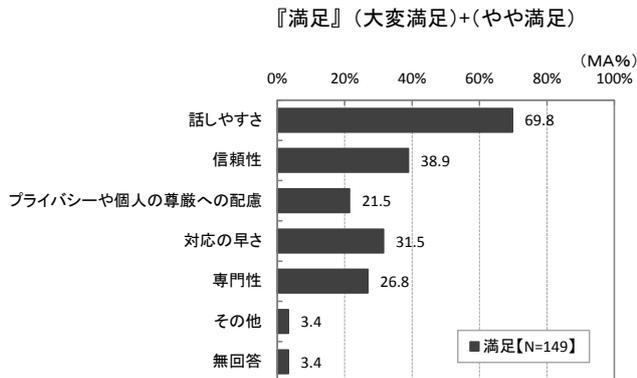
【図表 地域包括支援センターの利用内容】



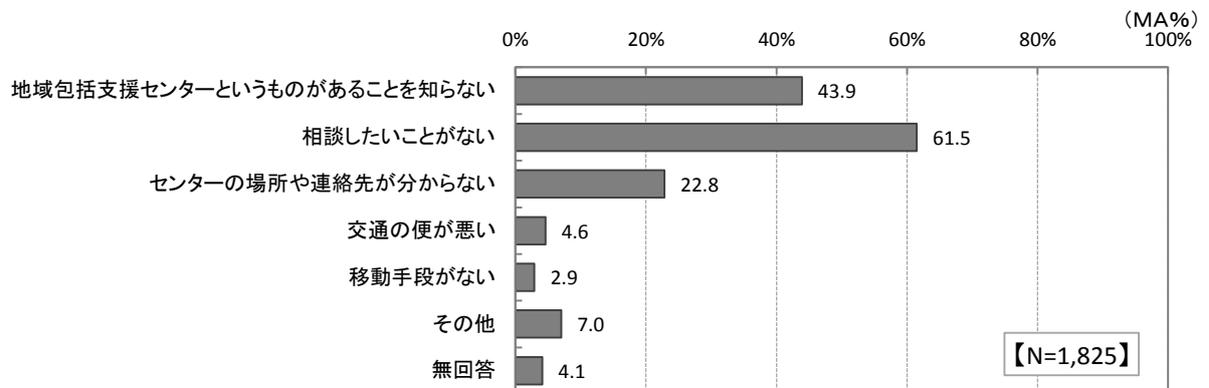
【図表 地域包括支援センターの満足度】



【図表 地域包括支援センターの満足度の理由】



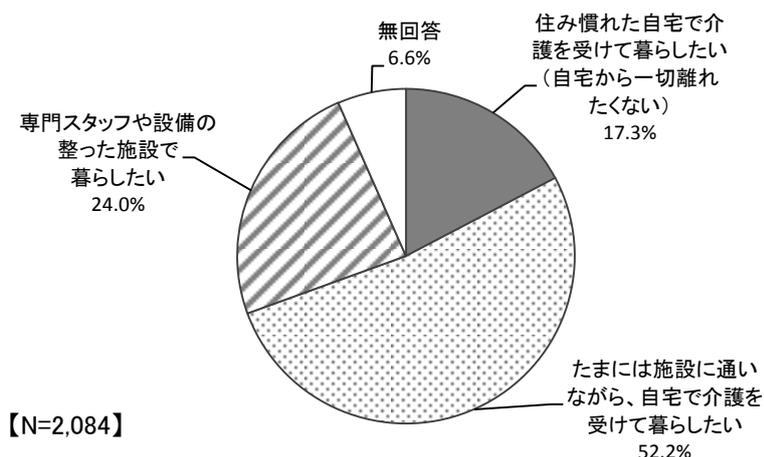
【図表 地域包括支援センター未利用の理由】



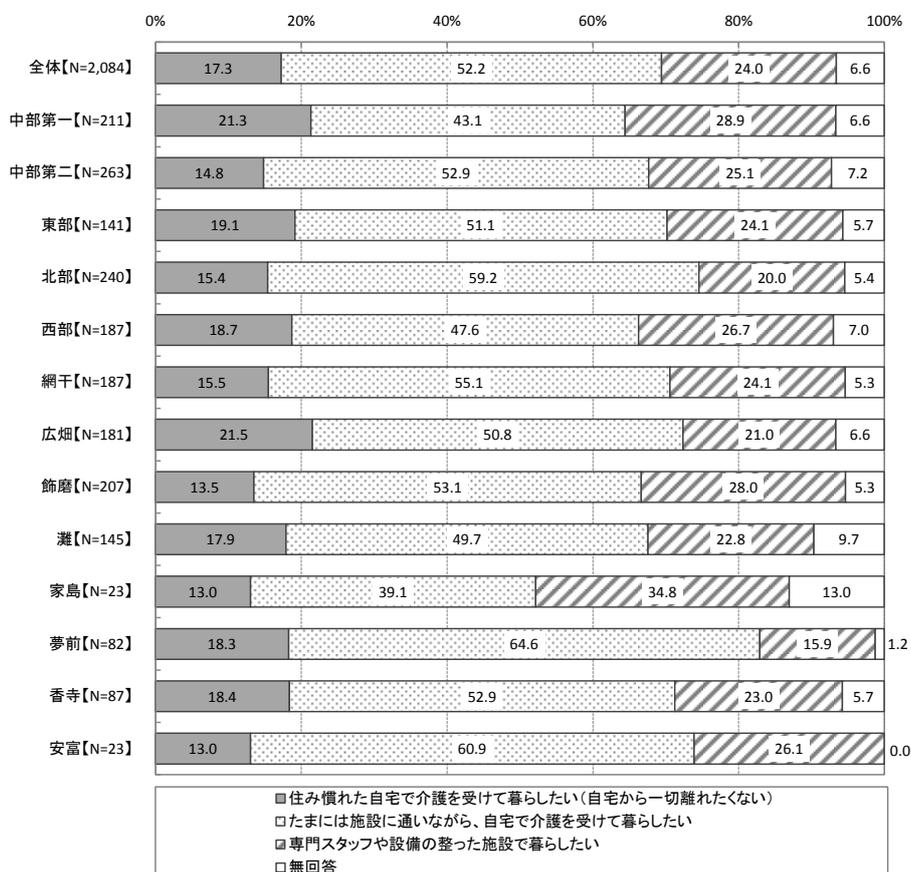
(8) 認知症について

- ・ 認知症になり、日常生活を送ることが困難になった場合に希望する生活は、「たまには施設に通いながら、自宅で介護を受けて暮らしたい」が 52.2%と最も多い。
- ・ 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組みについては、「在宅で受けられるサービスの充実と金銭的負担の軽減」と「個人個人の認知症予防のための取組み」が多くなっている。

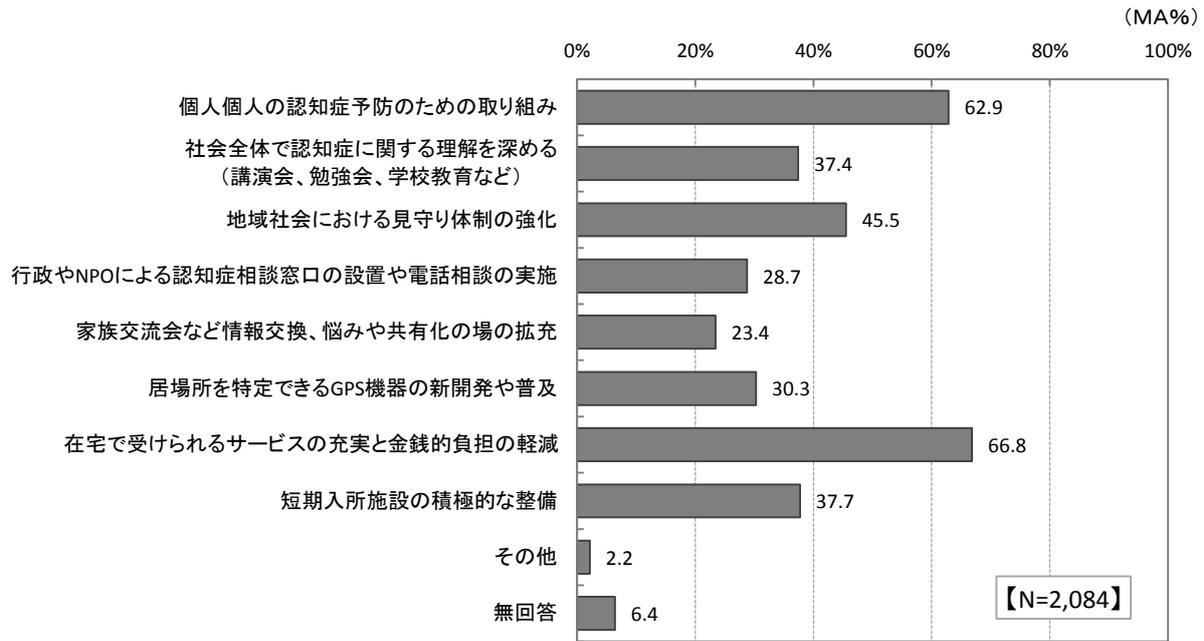
【図表 認知症になったときに希望する生活】



【図表 認知症になったときに希望する生活／地区別】



【図表 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組み】



【図表 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組み／地区別】

	個人個人の認知症予防	社会全体で認知症に関する理解を深める (講演会、勉強会、学校教育など)	地域社会における見守り体制の強化	行政やNPOによる認知症相談窓口の設置や電話相談の実施	家族交流会など情報交換、悩みや共有化の場の拡充	GPS機器の新開発や普及	居場所を特定できるGPS機器の新開発や普及	在宅で受けられるサービスの充実と金銭的負担の軽減	短期入所施設の積極的な整備	その他	無回答
全体【N=2,084】	62.9	37.4	45.5	28.7	23.4	30.3	66.8	37.7	2.2	6.4	
居住地区別	中部第一【N=211】	63.0	37.4	44.1	27.0	22.7	28.9	64.0	36.0	1.4	4.3
	中部第二【N=263】	63.9	35.4	48.3	32.7	18.6	29.7	66.2	33.1	3.0	6.1
	東部【N=141】	64.5	35.5	41.8	24.1	26.2	31.2	71.6	39.7	4.3	8.5
	北部【N=240】	65.8	47.9	46.3	29.6	21.7	30.4	68.3	35.0	0.8	6.3
	西部【N=187】	66.8	41.7	57.8	36.9	25.1	35.8	60.4	40.6	2.1	6.4
	網干【N=187】	60.4	44.4	47.6	33.2	23.0	28.3	72.2	39.0	1.1	5.3
	広畑【N=181】	65.7	32.6	40.3	27.6	24.9	28.7	66.3	32.0	2.2	6.1
	飾磨【N=207】	61.8	34.8	44.4	27.5	22.2	33.8	67.1	44.0	2.4	6.8
	灘【N=145】	56.6	33.1	43.4	22.8	19.3	33.1	62.8	32.4	3.4	11.7
	家島【N=23】	69.6	26.1	52.2	13.0	21.7	43.5	69.6	39.1	0.0	13.0
	夢前【N=82】	63.4	40.2	41.5	23.2	35.4	26.8	74.4	50.0	3.7	0.0
	香寺【N=87】	58.6	27.6	49.4	25.3	32.2	31.0	69.0	47.1	1.1	3.4
	安富【N=23】	87.0	34.8	43.5	30.4	34.8	8.7	82.6	52.2	0.0	0.0

6 今後の介護保険制度・高齢者福祉について

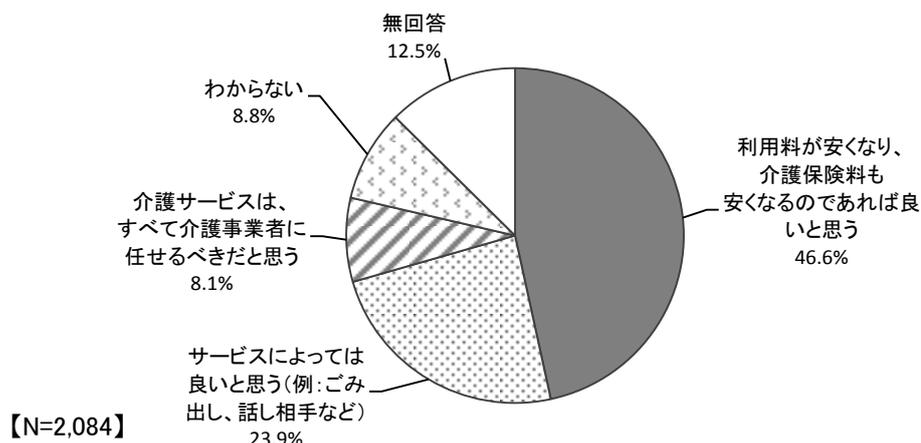
ボランティアによる高齢者福祉サービス提供の賛否は、約7割が肯定的な意見だが、専門的な知識や技能を備えた人が行うべき等の理由により否定的な人も1割程度いる。

要支援者が地域で生活を続けていくために必要または希望するサービスは、自宅へ食事や生活必需品を届けることや、自宅に専門家やボランティアが訪問するサービスの割合が高く、自宅で直接受けられるサービスが望まれていることがうかがえる。

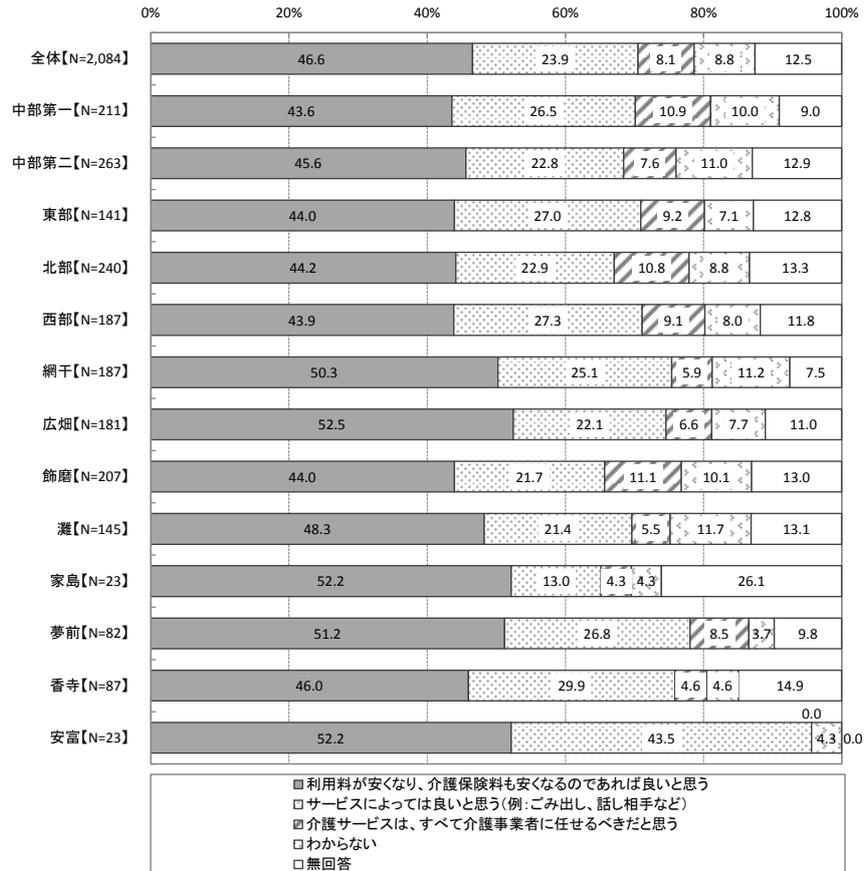
(1) 高齢者の生活を支援するボランティアについて

- ・ボランティアによる高齢者福祉サービスの提供については、「利用料が安くなり、介護保険料も安くなるのであれば良いと思う」が半数近くを占めている。一方「介護サービスは、すべて介護事業者に任せるべきだと思う」も1割程度ある。
- ・介護サービスは事業者任せと考える理由は、「専門的な知識や技能を備えた介護職員がサービスを行うべき」が6割以上を占めている。
- ・自身が高齢者福祉サービスのボランティアとして活動することについては、「活動できない、または活動したいとは思わない」が43.9%と最も多いが、「できることがあれば活動したい、協力したい」も38.3%ある。
- ・ボランティアとして活動することに否定的な人の理由は、「体調に不安がある」が37.6%と最も多い。

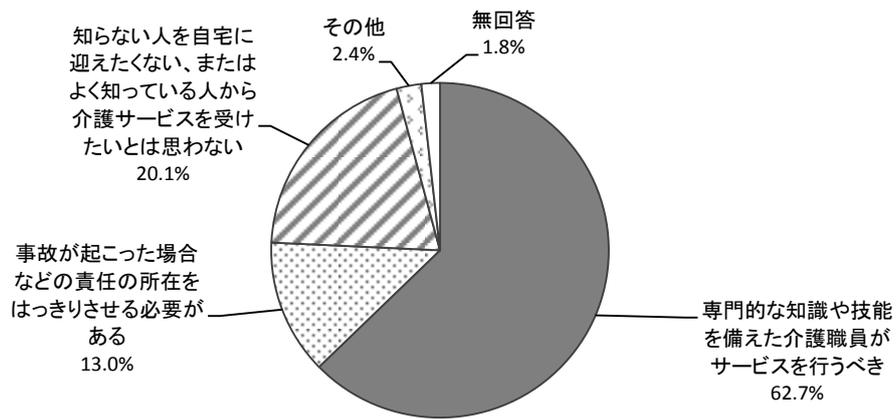
【図表 ボランティアによる高齢者福祉サービス提供について】



【図表 ボランティアによる高齢者福祉サービス提供について／地区別】

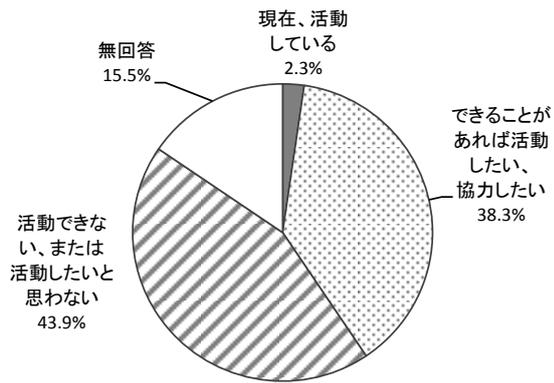


【図表 介護サービスは、すべて介護事業者に任せるべきと思う理由】



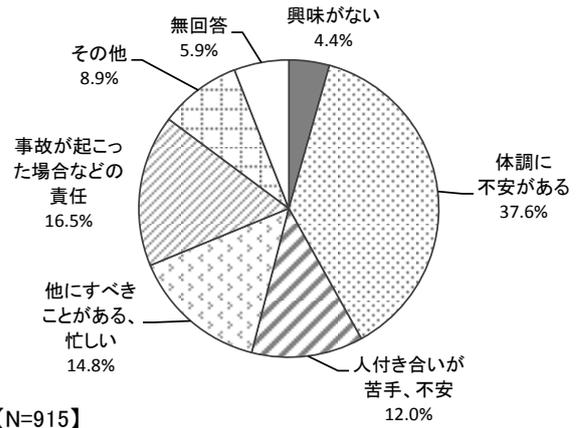
【N=169】

【図表 自身がボランティアとして活動することへの考え】



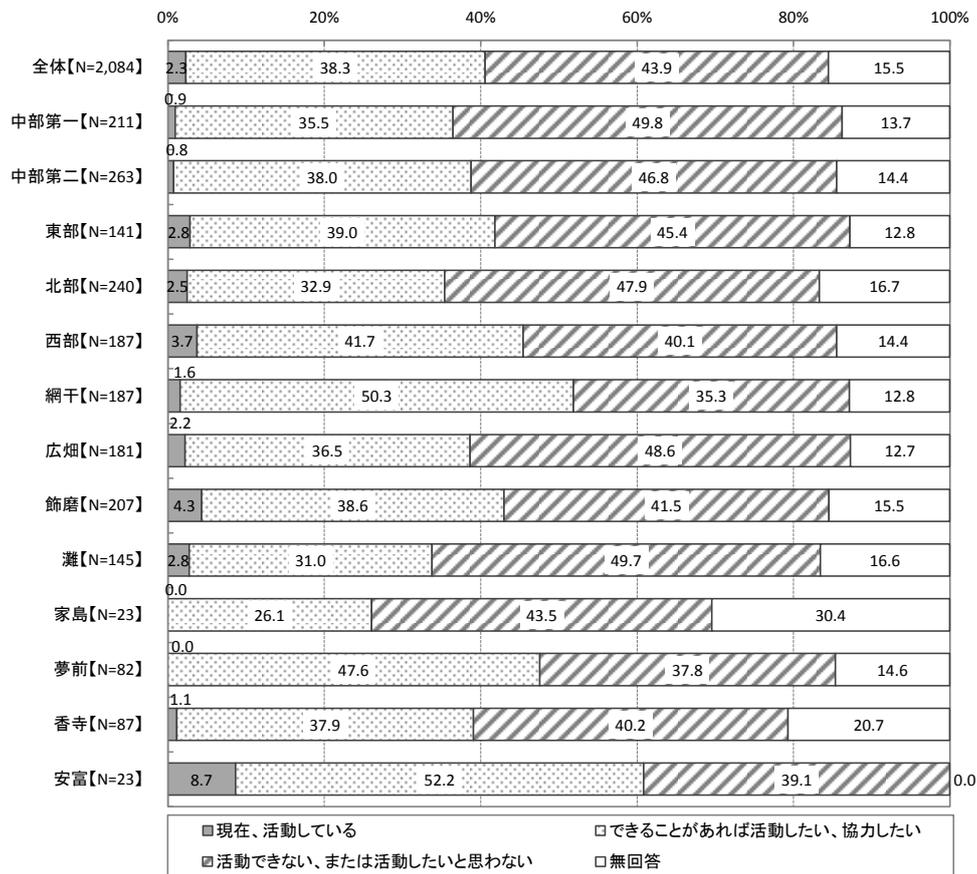
【N=2,084】

【図表 自身がボランティアとして活動できない、または活動したいと思わない理由】



【N=915】

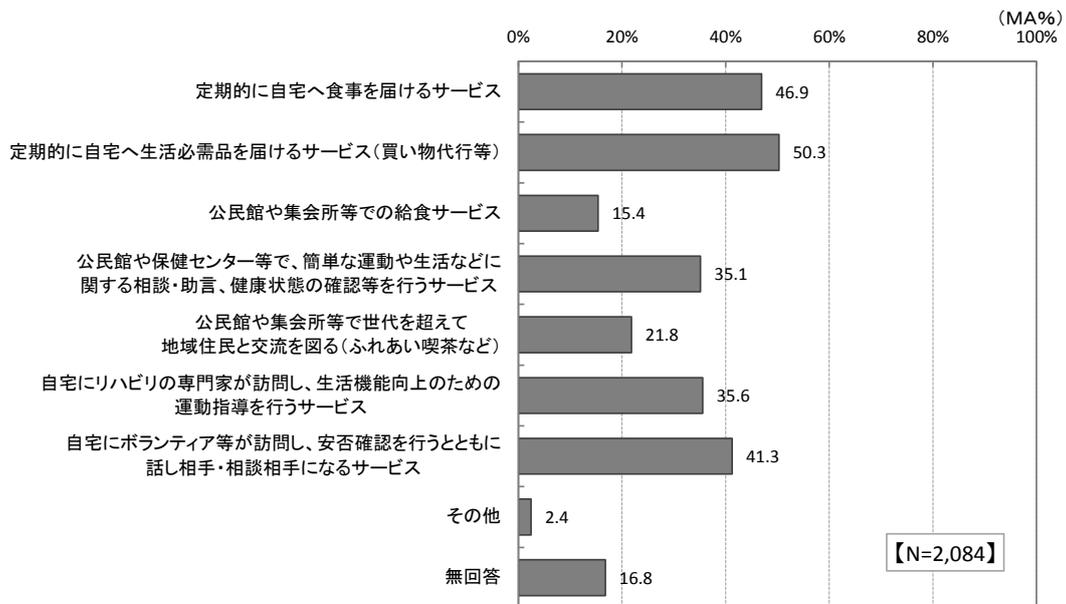
【図表 自身がボランティアとして活動することへの考え／地区別】



(2) 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス

- 要支援者に対するサービス内容を、市町村が自由に決めることができるようになった場合に、要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービスは、「定期的に自宅へ生活必需品を届けるサービス（買い物代行等）」が 50.3%と最も多く、次いで「定期的に自宅へ食事を届けるサービス」（46.9%）、「自宅にボランティア等が訪問し、安否確認を行うとともに話し相手・相談相手になるサービス」（41.3%）と続いている。

【図表 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス】



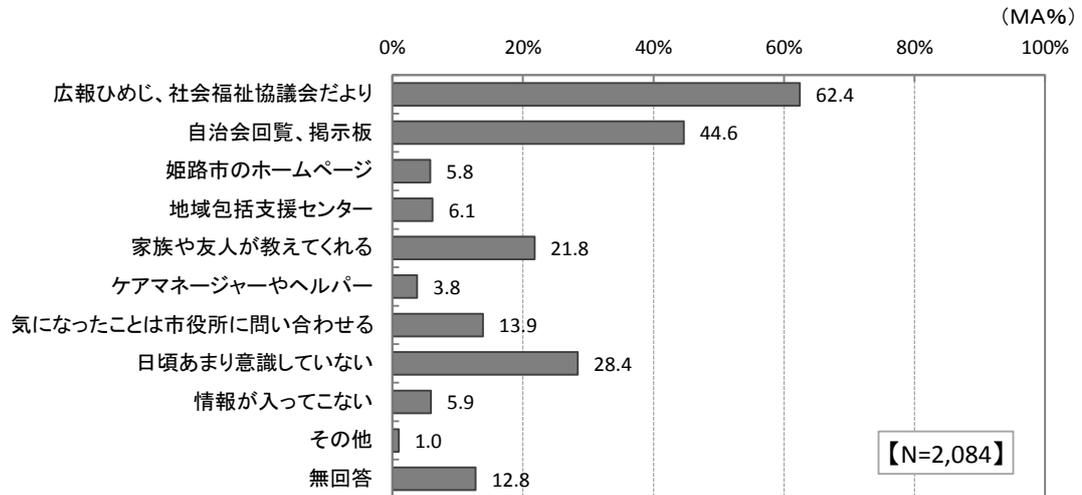
【図表 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス／地区別】

	定期的に自宅へ食事を届けるサービス	定期的に自宅へ生活必需品(買い物代行等)を届けるサービス	公民館や集会所等での給食サービス	公民館や保健センター等で、簡単な運動や生活などに関する相談・助言、健康状態の確認等を行うサービス	公民館や集会所等で世代を超えて地域住民と交流を図る(ふれあい喫茶など)	自宅にリハビリの専門家が訪問し、生活機能向上のための運動指導を行うサービス	自宅にボランティア等が訪問し、安否確認を行うとともに話し相手・相談相手になるサービス	その他	無回答
全体【N=2,084】	46.9	50.3	15.4	35.1	21.8	35.6	41.3	2.4	16.8
居住地区別									
中部第一【N=211】	45.5	44.1	15.6	33.2	25.1	36.5	40.8	1.9	15.6
中部第二【N=263】	44.5	52.5	11.8	35.0	20.5	34.2	40.7	2.7	19.8
東部【N=141】	48.2	51.8	13.5	36.9	24.1	36.9	46.1	7.8	13.5
北部【N=240】	50.8	48.3	14.6	35.8	20.4	33.3	41.7	2.5	16.7
西部【N=187】	46.5	51.3	17.1	38.5	25.7	40.6	41.2	2.7	17.1
網干【N=187】	46.5	57.2	17.6	42.2	22.5	35.8	46.5	2.1	10.7
広畑【N=181】	43.6	45.3	17.1	32.6	21.5	32.0	42.0	1.1	17.7
飾磨【N=207】	48.8	57.5	14.5	35.3	20.3	38.6	37.2	1.4	14.0
灘【N=145】	46.9	55.9	13.8	35.9	11.0	40.7	40.7	2.1	16.6
家島【N=23】	47.8	30.4	21.7	17.4	17.4	26.1	34.8	0.0	43.5
夢前【N=82】	52.4	46.3	19.5	31.7	26.8	34.1	48.8	1.2	8.5
香寺【N=87】	54.0	56.3	16.1	31.0	24.1	35.6	33.3	2.3	18.4
安富【N=23】	47.8	52.2	21.7	47.8	52.2	30.4	56.5	0.0	8.7

(3) 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段

- ・「広報ひめじ、社会福祉協議会だより」が 62.4%と最も多く、次いで「自治会回覧板、掲示板」(44.6%)と続いている。

【図表 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段】



【図表 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段／地区別】

	福 広 報 協 議 会 だ よ り	自 治 会 回 覧 、 掲 示 板	姫 路 市 の ホ ー ム ペ ー ジ	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	家 族 や 友 人 が 教 え て け れ る	ケ ア マ ネ ー ジ ャ ー や ヘル パ ー	市 役 所 に 問 い 合 わ せ る	気 に な っ た こ と は	日 頃 あ ま り 意 識 し て い な い	情 報 が 入 っ て こ な い	そ の 他	無 回 答
全体【N=2,084】	62.4	44.6	5.8	6.1	21.8	3.8	13.9	28.4	5.9	1.0	12.8	
居住地区別	中部第一【N=211】	62.6	44.1	5.2	2.8	22.3	2.8	14.2	26.5	7.6	0.9	13.3
	中部第二【N=263】	62.4	43.0	6.1	6.1	24.3	1.9	14.4	30.4	7.2	0.8	12.9
	東部【N=141】	61.0	49.6	8.5	9.2	24.8	5.7	19.9	23.4	2.8	0.7	9.2
	北部【N=240】	64.6	47.9	7.1	4.6	22.1	3.8	14.6	32.9	5.0	0.4	12.1
	西部【N=187】	64.7	45.5	5.9	9.6	21.4	4.8	14.4	28.9	7.0	1.6	12.8
	網干【N=187】	62.6	52.4	9.1	7.0	25.7	2.7	12.8	31.0	5.3	1.6	8.0
	広畑【N=181】	61.9	44.2	2.8	1.7	21.0	1.7	13.3	26.5	4.4	1.1	12.7
	飾磨【N=207】	69.1	47.8	2.9	6.3	14.0	3.4	15.0	22.7	3.4	1.0	11.1
	灘【N=145】	64.8	42.1	6.9	10.3	19.3	6.9	11.0	34.5	8.3	0.0	11.7
	家島【N=23】	43.5	4.3	0.0	4.3	26.1	4.3	13.0	34.8	13.0	0.0	26.1
	夢前【N=82】	68.3	43.9	8.5	4.9	17.1	6.1	9.8	32.9	6.1	1.2	9.8
	香寺【N=87】	56.3	40.2	1.1	8.0	32.2	5.7	9.2	25.3	4.6	0.0	17.2
	安富【N=23】	65.2	43.5	4.3	8.7	13.0	8.7	13.0	47.8	13.0	4.3	4.3

7 家族の意見（※介護・介助をしている家族に対する設問）

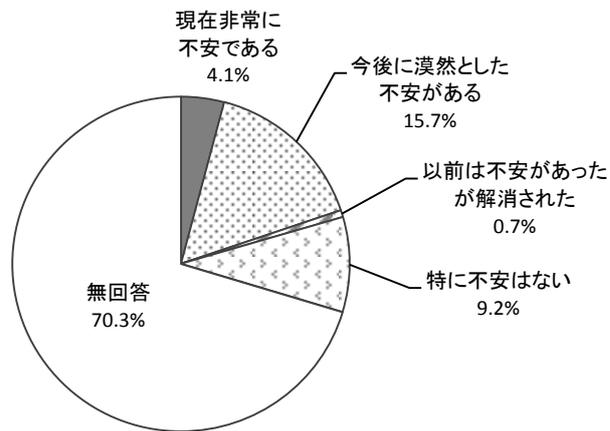
介護中の家族には、不安のない人より不安がある人のほうが多く、その理由として金銭的、精神的負担が大きいことが多く挙げられている。

本人の生活については、他の親族宅や介護施設等へ移るよりも、自宅で生活してもらいたいという意見のほうが多くなっている。

(1) 介護に関する不安

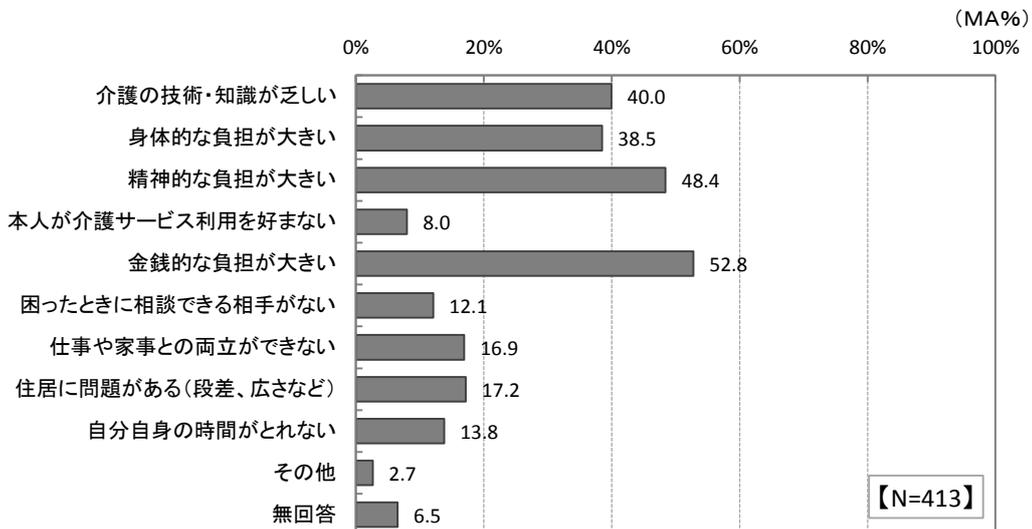
- ・介護中の家族に、介護に関する不安の有無をたずねると、「現在非常に不安である」と「今後に漠然とした不安がある」を合わせた割合は、「特に不安はない」の約2倍となっている。
- ・介護に関して不安に思うことは、「金銭的な負担が大きい」と「精神的な負担が大きい」が多くなっている。

【図表 介護に関する不安の有無】



【N=2,084】

【図表 介護に関して不安に思うこと】

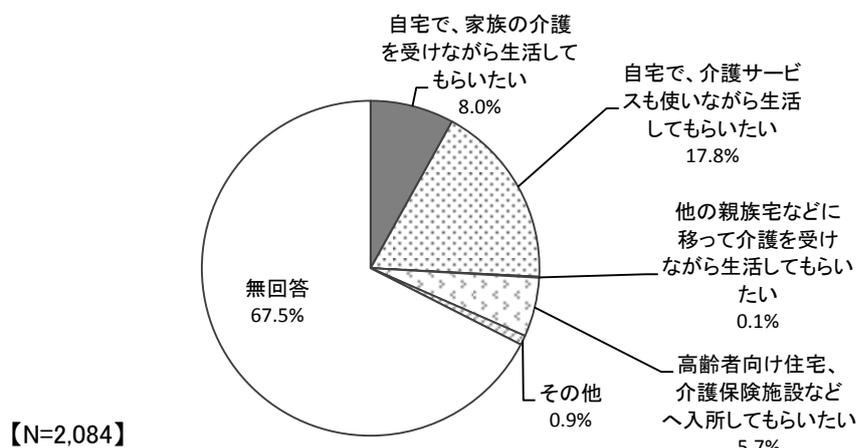


【N=413】

(2) 本人の生活への希望

- ・今後、本人に希望する生活は、「自宅で、介護サービスも使いながら生活してもらいたい」が最も多く、次いで「自宅で、家族の介護を受けながら生活してもらいたい」が続いており、自宅での生活を希望する人が多いことがうかがえる。

【図表 本人の生活への希望】

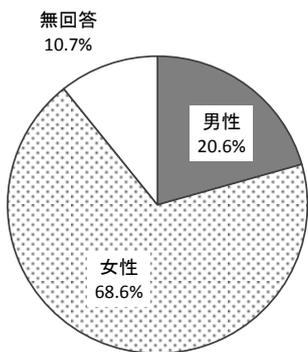


[2] 要支援認定者・要介護認定者調査結果

1 回答者の属性

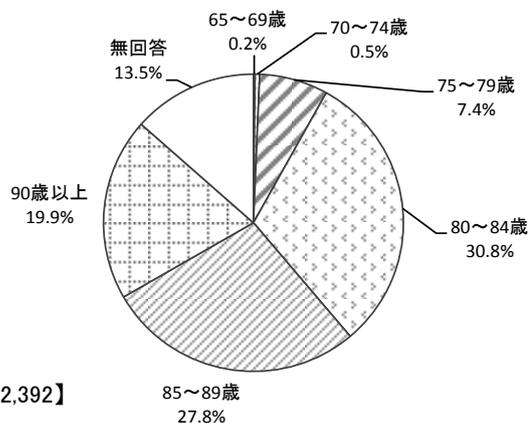
(1) 性別・年齢階層

【図表 性別】



【N=2,392】

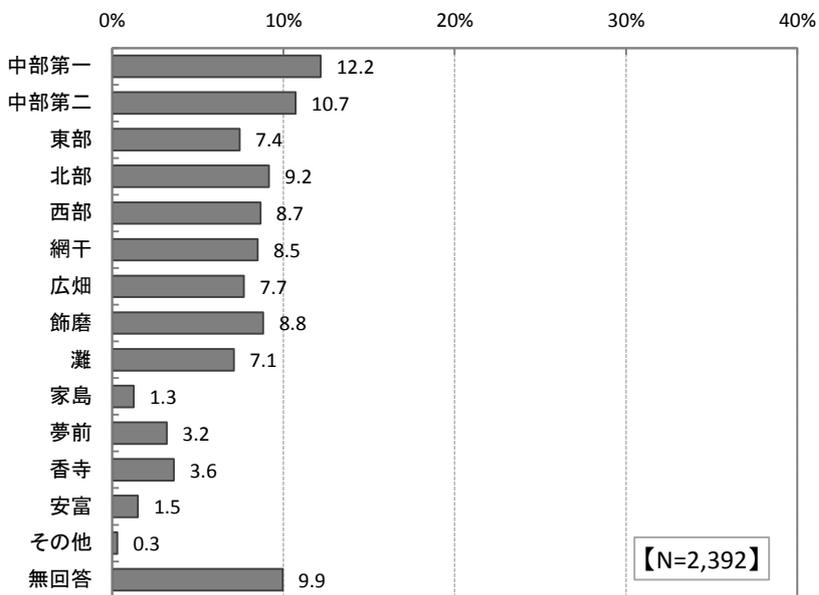
【図表 年齢階層】



【N=2,392】

(2) 居住地区

【図表 居住地区】



【N=2,392】

2 家族や生活状況について

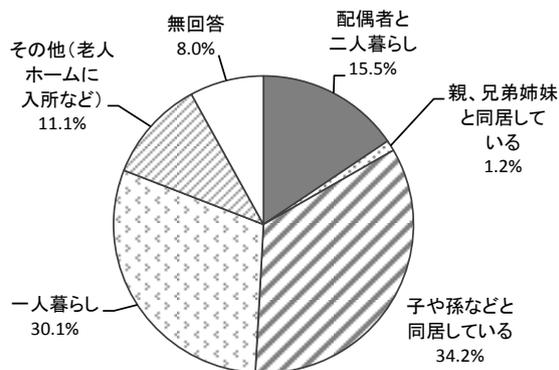
一般高齢者と比べて、誰かと同居している割合は約 25 ポイント低く、一方、一人暮らしの割合は 15 ポイント高い。また、要介護認定者でも一人暮らしの割合は約 2 割ある。

介護の必要性が高いにもかかわらず、一般高齢者と同様に、緊急時に誰かが来てくれるまでの時間が 30 分以上かかる人も少なくなく、周囲の見守りがさらに重要であることがうかがえる。

(1) 家族との状況

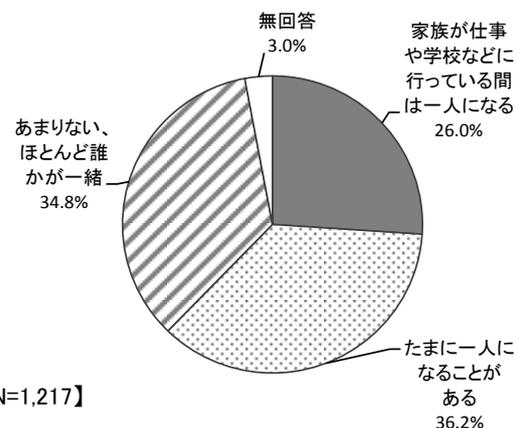
- ・家族構成は、「子や孫など同居している」が 34.2%と最も多く、次いで「一人暮らし」(30.1%)と続いている。
- ・家族構成を要支援・要介護認定別にみると、一人暮らしの割合は要支援認定者が要介護認定者より 23.6 ポイント高い。
- ・家族構成を性別にみると、一人暮らしの割合は女性が男性より高くなっている。
- ・家族構成を地区別にみると、一人暮らしの割合は「中部第一」で最も多く、「夢前」で最も少ない。
- ・誰かと同居している人が自宅で一人になる状況は、「たまに一人になることがある」が 36.2%と最も多い。
- ・体調悪化時や災害時など緊急時に最初に連絡する相手は、「家族、親戚」が 7 割以上を占めている。
- ・緊急時に連絡をした相手が到着する時間は、「10 分以内」が 41.0%と最も多く、次いで「10 分から 30 分以内」(29.4%)と続いている。「1 時間以上」も 6.8%ある。

【図表 家族構成】



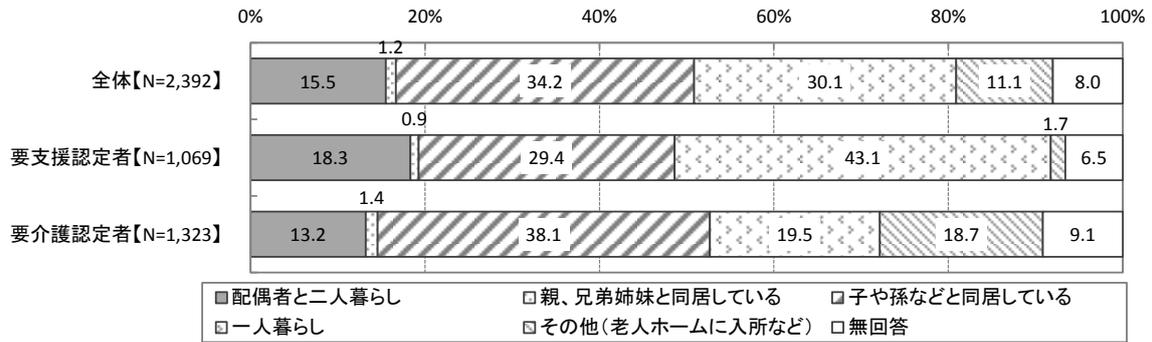
【N=2,392】

【図表 自宅に一人での状況】

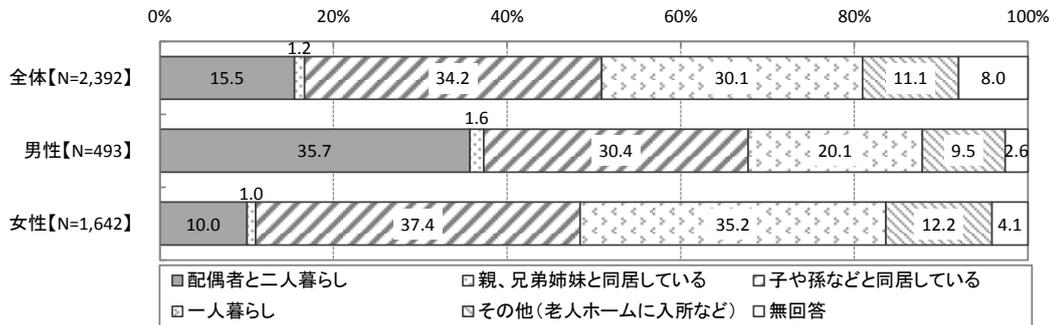


【N=1,217】

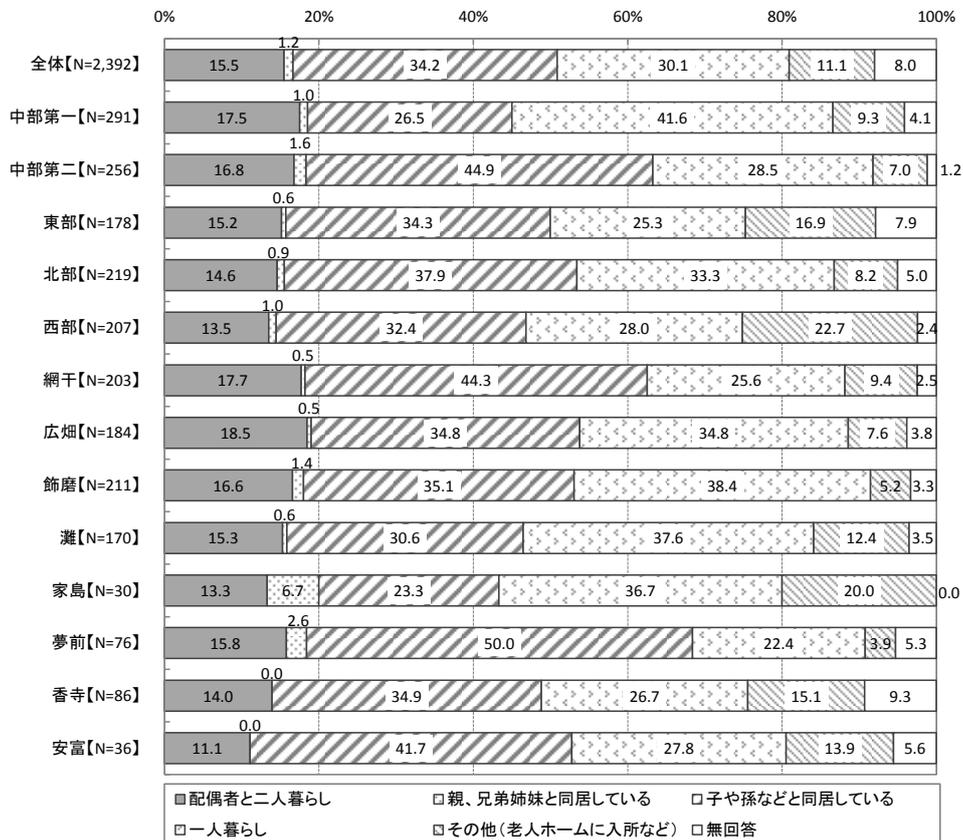
【図表 家族構成／要支援・要介護認定別】



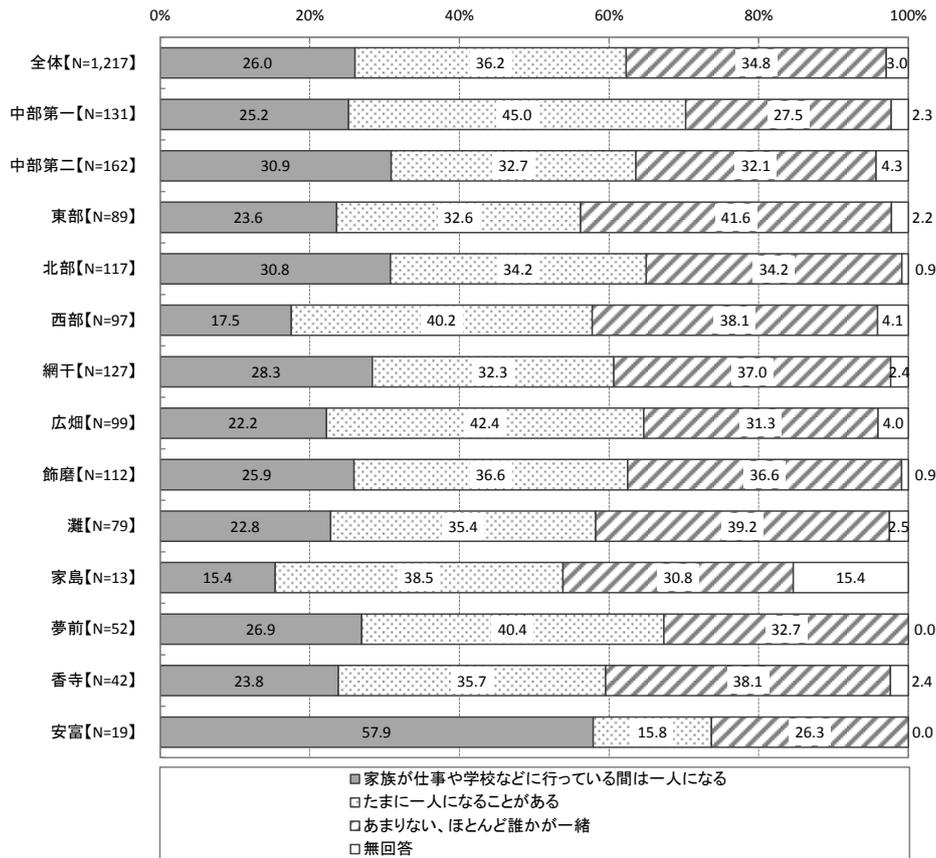
【図表 家族構成／性別】



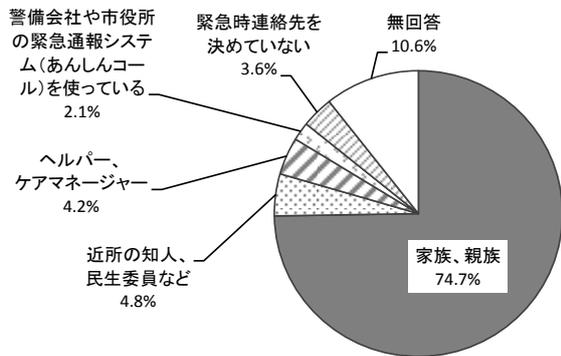
【図表 家族構成／地区別】



【図表 自宅に一人である状況／地区別】

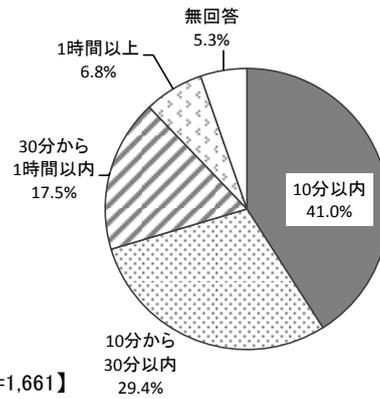


【図表 体調悪化や災害時などの緊急連絡先】



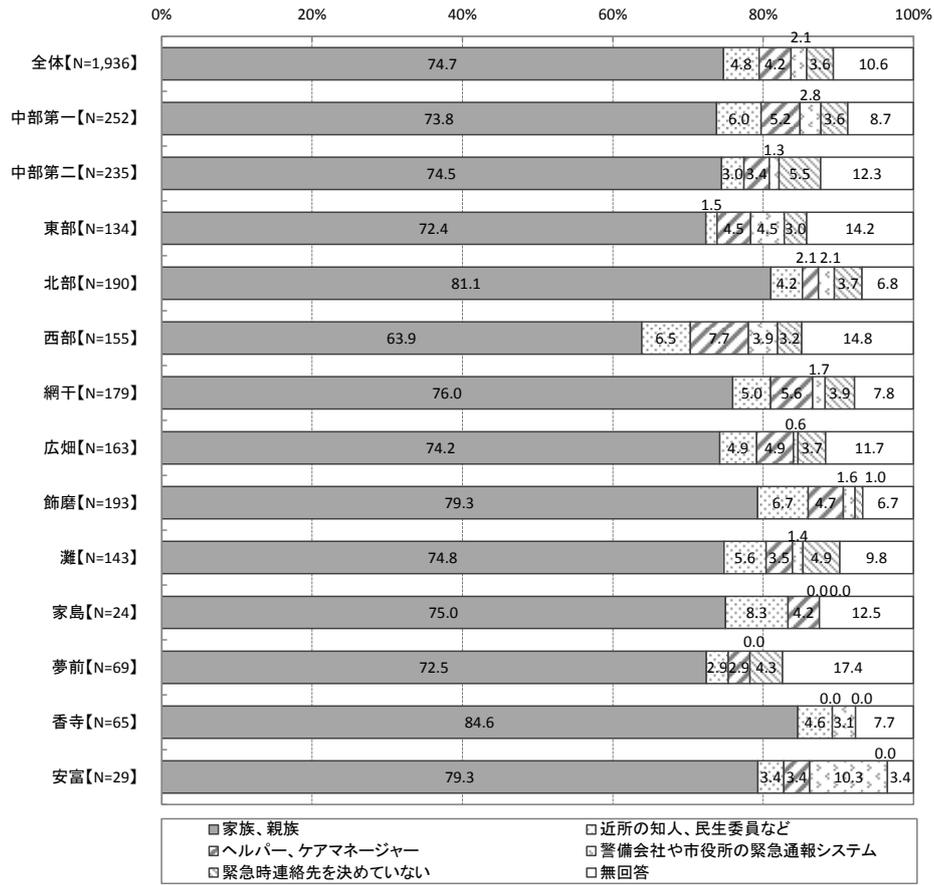
【N=1,936】

【図表 緊急連絡相手の到着時間】

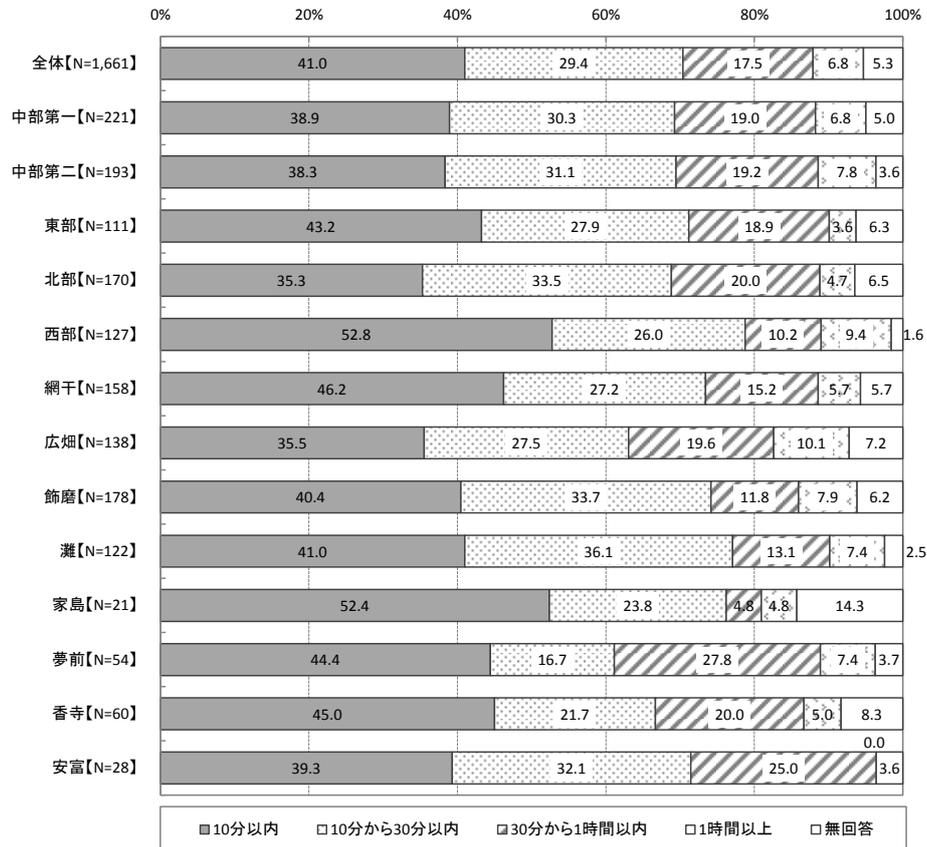


【N=1,661】

【図表 体調悪化や災害時などの緊急連絡先／地区別】



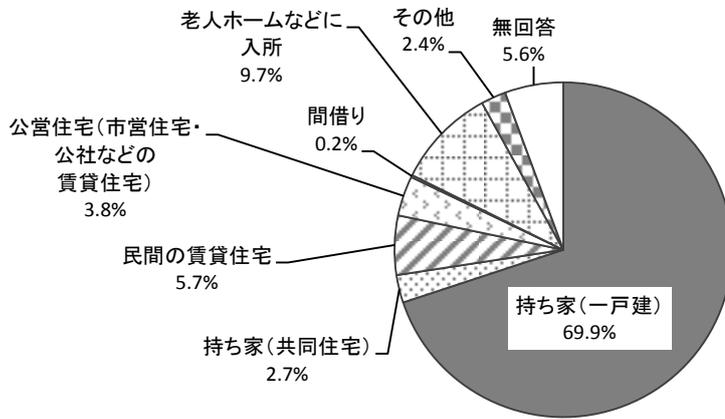
【図表 緊急連絡相手の到着時間／地区別】



(2) 居住形態

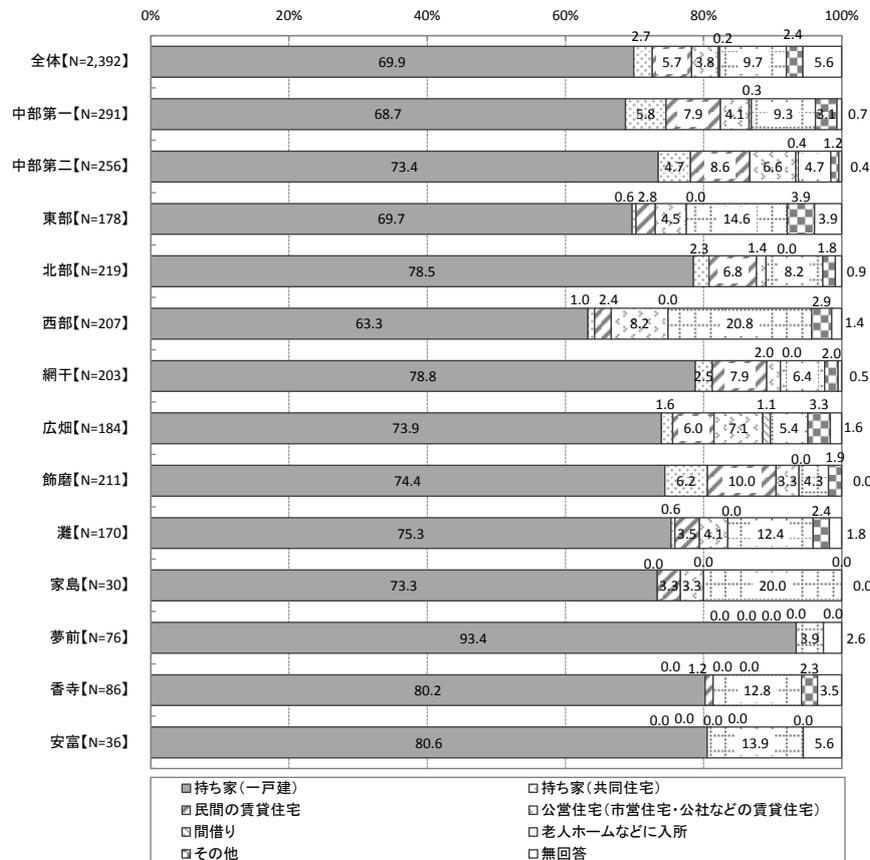
- ・居住形態は「持ち家（一戸建て）」が約7割を占めている。「老人ホームなどに入所」は約1割ある。
- ・地区別にみると、「老人ホームなどに入所」は「西部」と「家島」で約2割と多くなっている。

【図表 居住形態】



【N=2,392】

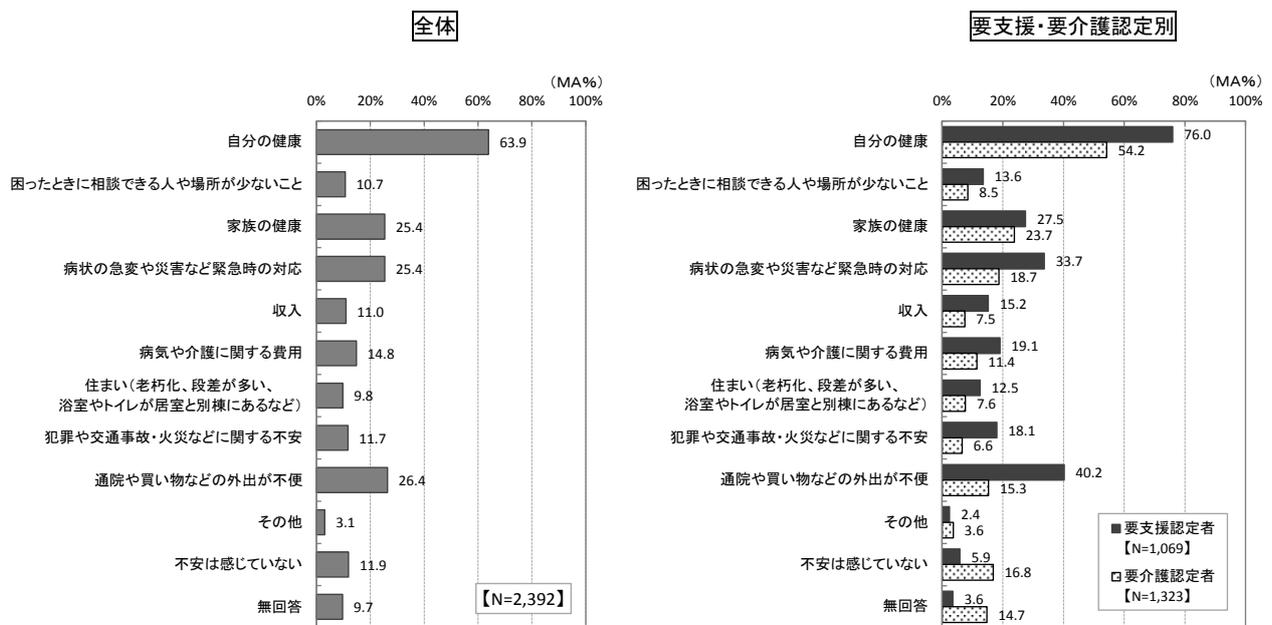
【図表 居住形態／地区別】



(3) 生活における不便や不安の状況

- ・現在の生活で不便や不安を感じることは、「自分の健康」が 63.9%と最も多い。一方、他の項目は 30%を下回っている。
- ・要支援・要介護認定別にみると、「通院や買い物などの外出が不便」は要支援認定者が要介護認定者より約 25 ポイント高い。

【図表 現在の生活で不便や不安なこと】



【図表 現在の生活で不便や不安なこと／地区別】

	自分の健康	少ないこと	で困った人	家族の健康	な病状の急変や災害	収入	る病気や介護に関する費用	住まい	不安	火災や交通事故・	犯罪や通関	の通院や買い物が不便	その他	不安は感じていない	無回答
全体【N=2,392】	63.9	10.7	25.4	25.4	11.0	14.8	9.8	11.7	26.4	3.1	11.9	9.7			
中部第一【N=291】	65.3	10.3	24.4	25.1	11.0	12.4	14.1	9.3	28.5	3.1	10.7	5.5			
中部第二【N=256】	68.0	13.7	30.9	29.3	12.5	17.6	10.2	11.7	27.7	3.1	14.8	3.5			
東部【N=178】	62.4	10.1	20.8	23.6	10.7	12.9	7.9	12.9	26.4	5.1	14.0	10.7			
北部【N=219】	66.2	9.1	25.6	28.8	8.7	16.0	10.0	12.8	25.1	4.1	9.6	4.6			
西部【N=207】	66.7	12.1	27.1	23.7	12.1	14.5	7.2	9.7	24.2	0.5	16.4	8.2			
網干【N=203】	71.4	12.3	32.0	29.6	13.3	19.2	9.4	14.8	28.6	3.0	14.3	4.9			
広畑【N=184】	64.7	13.0	25.0	29.3	13.0	16.8	14.7	17.4	30.4	4.9	13.0	4.9			
飾磨【N=211】	66.8	11.8	20.9	25.1	10.9	18.0	9.5	11.4	28.0	4.3	10.4	5.7			
灘【N=170】	72.4	10.0	21.8	27.6	12.4	13.5	11.2	15.9	28.8	2.4	8.2	4.7			
家島【N=30】	43.3	6.7	30.0	23.3	10.0	16.7	6.7	3.3	20.0	0.0	10.0	30.0			
夢前【N=76】	63.2	11.8	39.5	22.4	18.4	15.8	2.6	10.5	30.3	5.3	15.8	5.3			
香寺【N=86】	70.9	11.6	31.4	24.4	5.8	12.8	7.0	16.3	36.0	3.5	10.5	7.0			
安富【N=36】	77.8	5.6	33.3	36.1	5.6	13.9	16.7	8.3	19.4	0.0	2.8	13.9			

3 日常生活・社会参加の状況について

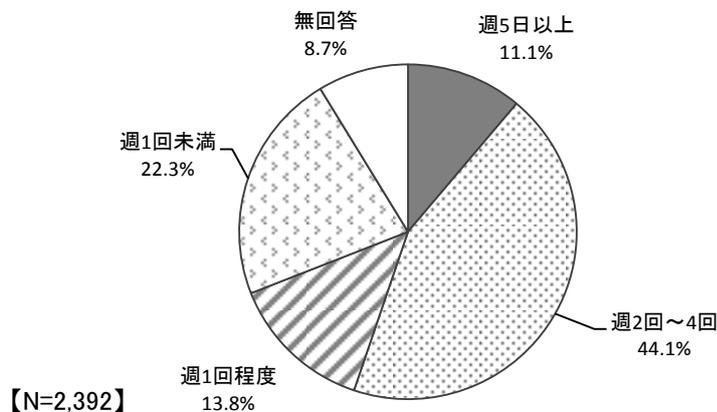
手や足が不自由であったり、足腰が悪いとの理由で外出を控えている割合が高く、週に2回以上外出している割合は、一般高齢者と比べて約25ポイント低い。

活動への参加については、約7割が参加しておらず、このうち要支援認定者においても約6割が参加をしていない。また、要介護認定者になると近所付き合いがなくなる割合が大きく増加している。

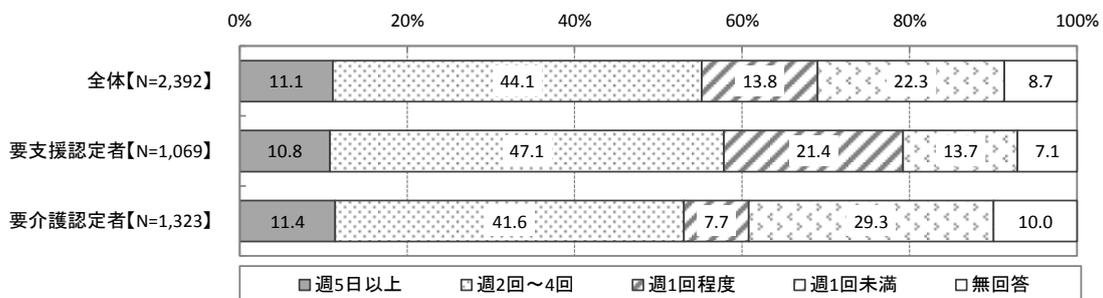
(1) 外出の実態

- ・外出頻度は、「週に2回～4回」が44.1%と最も多く、次いで「週1回未満」(22.3%)が続いている。週に2回以上外出している割合は55.2%となっている。
- ・外出時の移動手段は、「自動車(人に乗せてもらう)」が48.2%と最も多く、次いで「病院や施設の車」(27.2%)が続いている。自身で移動する方法としては「徒歩」が多くなっている。
- ・要支援・要介護認定別にみると、「徒歩」・「路線バス」・「タクシー」は要介護認定者になると20ポイント以上低くなっている。
- ・外出を何かの理由で控えているかについては、「手足が不自由、足腰が悪い」が50.0%と最も多い。

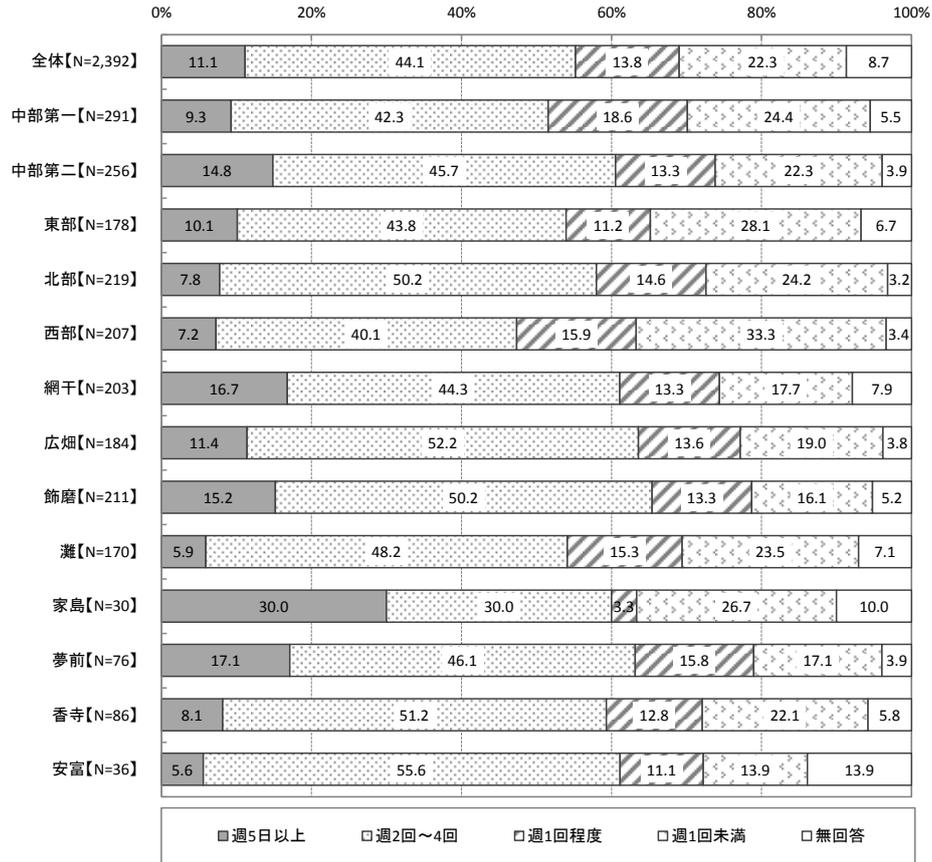
【図表 外出頻度】



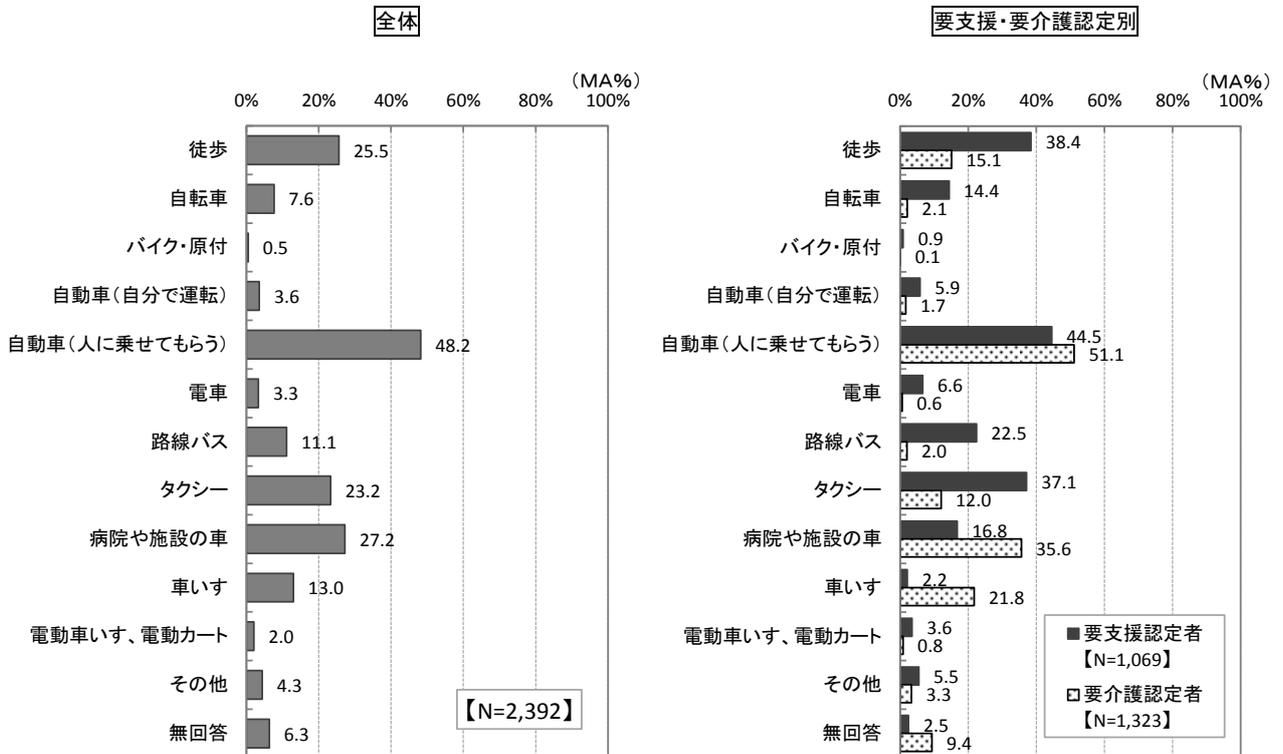
【図表 外出頻度／要支援・要介護認定別】



【図表 外出頻度／地区別】



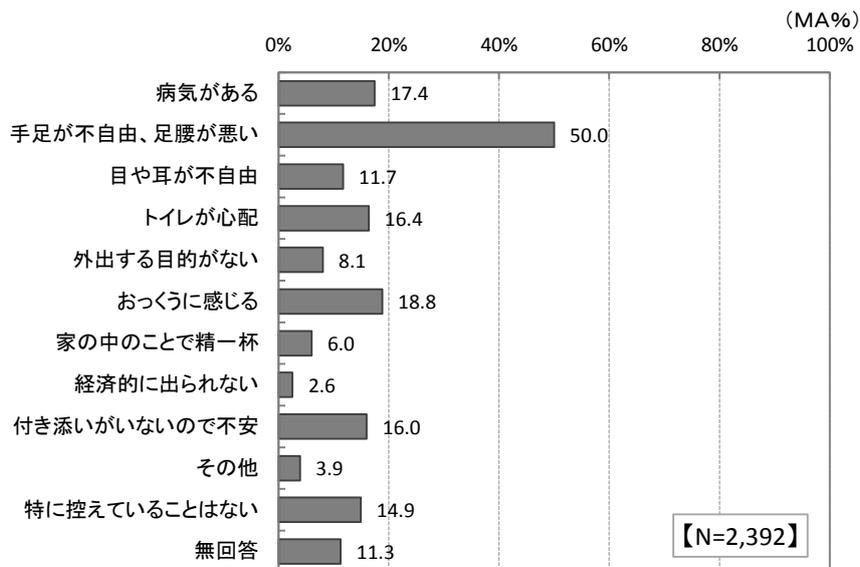
【図表 外出時の移動手段】



【図表 外出時の移動手段】

	徒歩	自転車	バイク・原付	転自動車 (自分で運)	て自動車 (人に乗せ)	電車	路線バス	タクシー	病院や施設の車	車いす	電動カート 車いす、電動	その他	無回答	
全体【N=2,392】	25.5	7.6	0.5	3.6	48.2	3.3	11.1	23.2	27.2	13.0	2.0	4.3	6.3	
居住地区別	中部第一【N=291】	33.7	10.0	0.3	0.3	46.0	2.1	14.4	30.6	27.5	13.4	1.0	5.5	3.1
	中部第二【N=256】	32.0	9.4	0.4	2.7	44.9	2.7	13.3	31.3	23.4	14.8	1.2	5.9	3.5
	東部【N=178】	19.1	9.6	0.6	4.5	47.8	2.8	14.0	21.3	32.0	19.7	1.1	5.6	3.4
	北部【N=219】	28.8	4.1	0.5	5.9	55.3	0.9	16.4	21.9	17.8	8.7	1.4	4.1	1.4
	西部【N=207】	18.8	4.3	1.0	2.4	51.2	1.0	16.9	18.4	43.5	18.4	1.0	3.4	1.9
	網干【N=203】	26.1	11.3	0.0	3.9	59.1	3.0	8.4	21.2	21.2	9.9	0.5	5.4	3.0
	広畑【N=184】	29.3	12.5	0.0	4.9	50.0	3.8	10.3	24.5	29.9	9.8	3.8	2.7	2.7
	飾磨【N=211】	31.3	8.1	0.0	3.8	50.7	9.0	9.0	32.2	20.9	11.8	2.8	3.3	2.8
	灘【N=170】	30.0	10.6	0.0	1.8	50.6	11.2	6.5	28.8	28.8	16.5	1.2	3.5	4.1
	家島【N=30】	26.7	3.3	3.3	0.0	6.7	0.0	10.0	6.7	30.0	30.0	16.7	10.0	6.7
	夢前【N=76】	19.7	1.3	1.3	10.5	63.2	1.3	3.9	9.2	38.2	9.2	3.9	2.6	1.3
	香寺【N=86】	22.1	3.5	1.2	7.0	58.1	2.3	2.3	22.1	38.4	12.8	3.5	5.8	4.7
	安富【N=36】	8.3	0.0	0.0	5.6	41.7	0.0	8.3	0.0	52.8	5.6	2.8	5.6	13.9

【図表 外出を控えている理由】



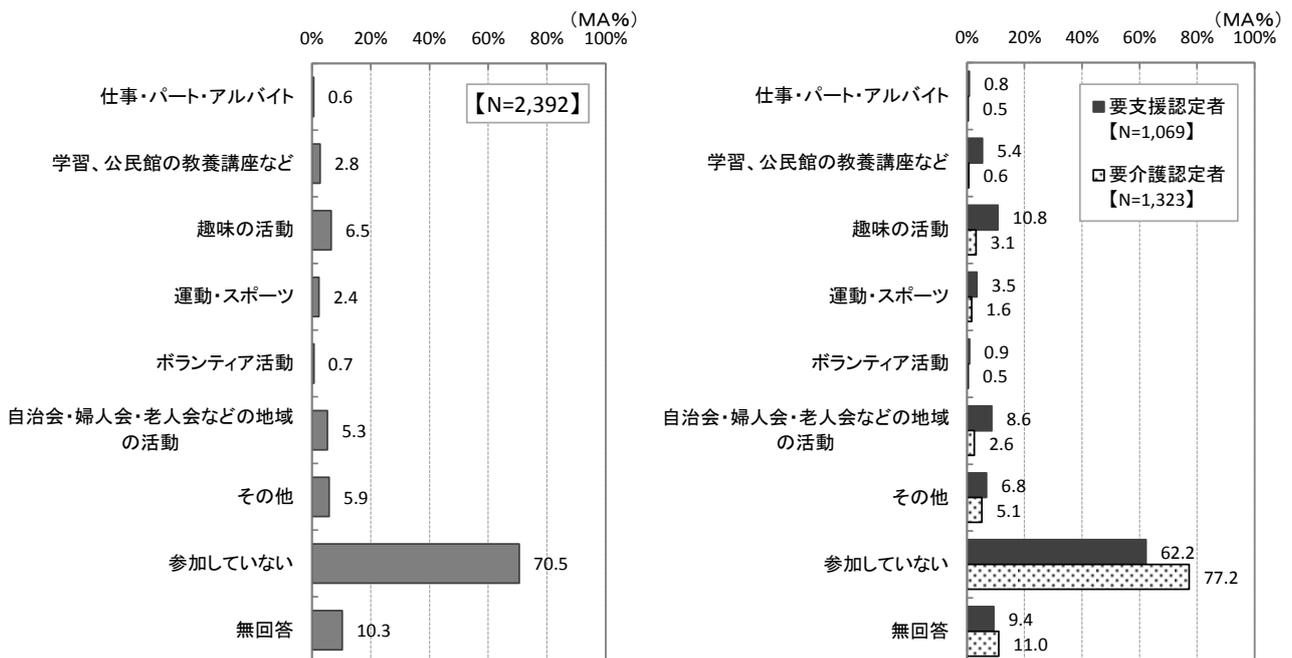
【図表 外出を控えている理由／地区別】

	病 気 が あ る	足 腰 が 悪 い	手 足 が 不 自 由 、	目 や 耳 が 不 自 由	ト イ レ が 心 配	な い 外 出 す る 目 的 が	る お っ く う に 感 じ	精 一 杯 家 の 中 の こ と で	な い 経 済 的 に 出 ら れ	い の で 添 い が い な	そ の 他	こ と は な い	特 に 控 え て い る	無 回 答
全体【N=2,392】	17.4	50.0	11.7	16.4	8.1	18.8	6.0	2.6	16.0	3.9	14.9	11.3		
居 住 地 区 別	中部第一【N=291】	16.8	51.2	12.0	17.2	6.5	23.4	6.9	1.7	18.6	3.1	14.8	7.6	
	中部第二【N=256】	23.4	53.1	10.9	12.9	7.4	18.0	6.6	3.1	18.0	4.7	17.6	5.9	
	東部【N=178】	15.7	50.0	9.6	12.4	6.7	17.4	5.1	5.1	12.9	1.1	18.5	10.7	
	北部【N=219】	17.8	52.1	11.9	19.6	7.8	21.0	7.8	2.7	17.4	4.6	15.1	5.9	
	西部【N=207】	21.7	50.7	9.2	16.9	10.1	18.8	3.9	1.0	17.4	3.9	15.9	13.0	
	網干【N=203】	18.7	56.7	17.2	18.2	5.9	17.7	5.4	3.4	17.7	3.9	14.8	5.9	
	広畑【N=184】	21.2	47.3	10.9	18.5	9.2	18.5	8.2	2.2	15.2	4.3	18.5	8.2	
	飾磨【N=211】	17.5	55.5	10.0	19.4	10.4	21.8	5.2	2.8	14.7	3.8	15.6	4.7	
	灘【N=170】	18.2	50.6	17.6	17.6	12.4	27.1	5.3	0.6	17.1	5.9	10.0	8.2	
	家島【N=30】	13.3	43.3	6.7	0.0	3.3	6.7	6.7	0.0	13.3	6.7	16.7	26.7	
	夢前【N=76】	9.2	46.1	15.8	10.5	13.2	17.1	5.3	6.6	13.2	7.9	17.1	5.3	
	香寺【N=86】	16.3	54.7	14.0	22.1	5.8	14.0	8.1	3.5	22.1	3.5	11.6	9.3	
	安富【N=36】	11.1	50.0	11.1	13.9	5.6	11.1	5.6	0.0	16.7	2.8	16.7	19.4	

(2) 社会参加の状況

- ・活動への参加状況は、「参加していない」が70.5%と最も多い。
- ・活動への参加状況を要支援・要介護認定別にみると、どちらも「参加していない」が多い。
- ・近所付き合いの程度は、「あいさつをする程度だが面識はある」が38.0%と最も多い。また「近所付き合いはない」が22.8%ある。
- ・近所付き合いの程度を要支援・要介護認定別にみると、「近所付き合いはない」割合は要介護認定者になると大きく増加している。

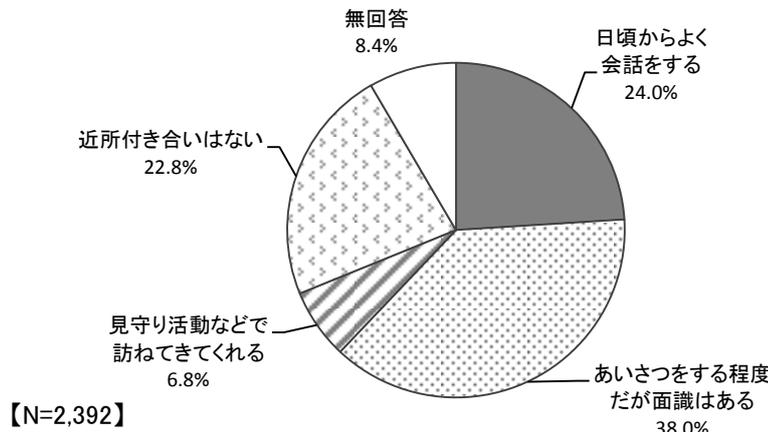
【図表 活動への参加状況】



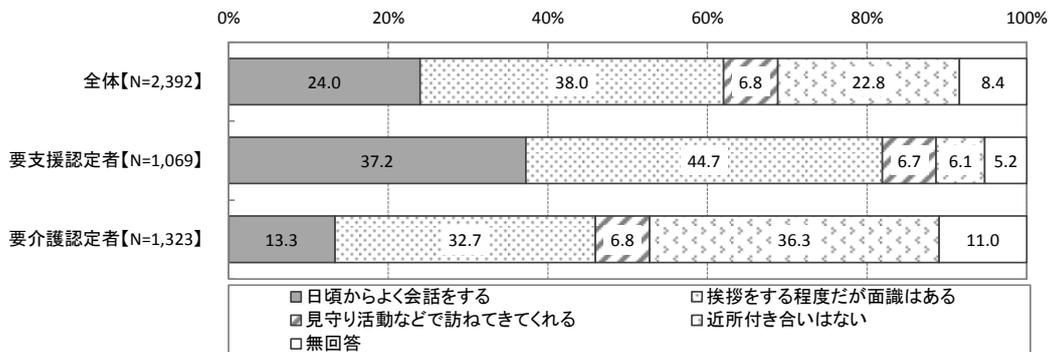
【図表 活動への参加状況／地区別】

	アルバイト・パート・ア	養講座など	学習、公民館の教	趣味の活動	運動・スポーツ	ボランティア活動	の活動	自治会・婦人会・老人会などの地域・	その他	参加していない	無回答
全体【N=2,392】	0.6	2.8	6.5	2.4	0.7	5.3	5.9	70.5	10.3		
居住地区別	中部第一【N=291】	0.7	3.8	7.2	2.4	1.0	5.2	5.8	70.8	7.9	
	中部第二【N=256】	0.8	2.0	7.0	3.5	0.4	7.0	5.5	73.0	5.5	
	東部【N=178】	0.6	2.2	5.1	1.7	0.0	4.5	10.7	70.2	10.1	
	北部【N=219】	1.8	1.4	6.8	1.4	1.4	4.6	2.3	80.8	3.7	
	西部【N=207】	0.0	3.4	11.1	9.7	1.0	5.8	6.8	68.1	6.8	
	網干【N=203】	0.5	3.9	7.4	1.0	0.5	4.9	6.4	74.9	4.4	
	広畑【N=184】	0.0	2.2	4.9	1.1	0.5	8.7	8.2	70.7	6.5	
	飾磨【N=211】	1.9	2.8	4.3	1.4	0.0	5.7	8.1	73.0	7.6	
	灘【N=170】	0.6	2.9	7.6	1.8	0.6	1.2	4.1	77.6	6.5	
	家島【N=30】	0.0	3.3	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	80.0	10.0	
	夢前【N=76】	0.0	5.3	7.9	2.6	2.6	5.3	7.9	67.1	10.5	
	香寺【N=86】	0.0	2.3	2.3	2.3	0.0	5.8	3.5	80.2	9.3	
	安富【N=36】	0.0	2.8	8.3	0.0	0.0	13.9	8.3	55.6	19.4	

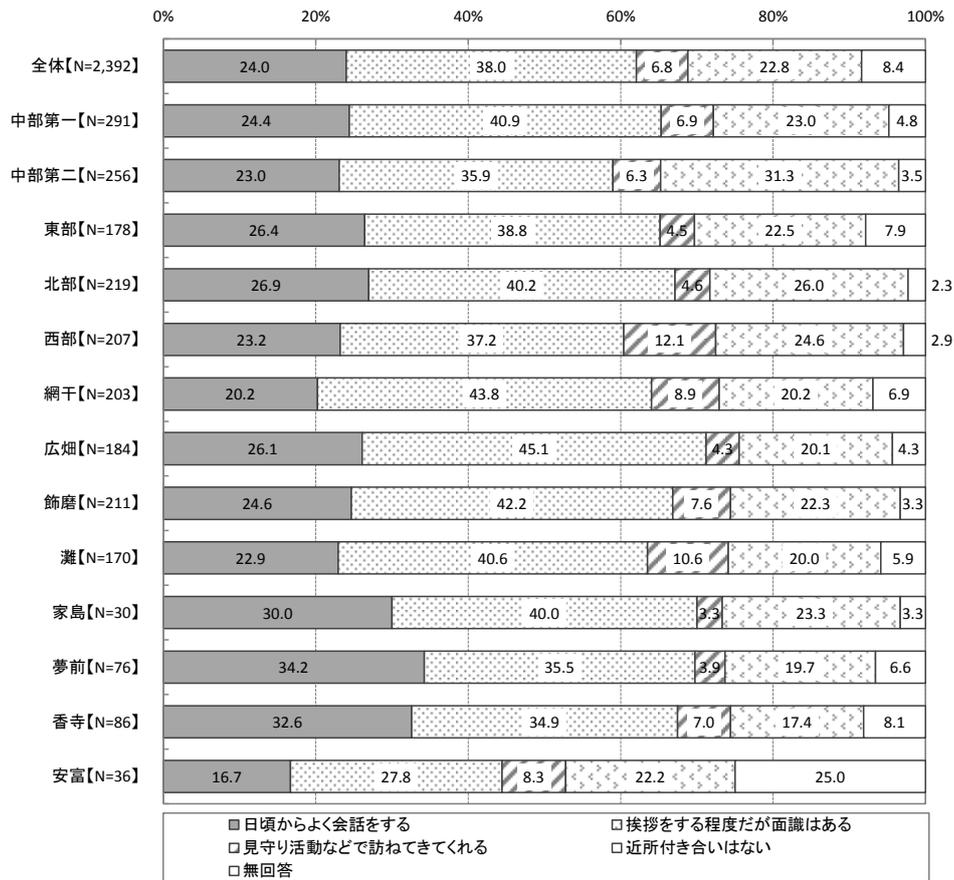
【図表 近所付き合いの程度】



【図表 近所付き合いの程度／要支援・要介護認定別】



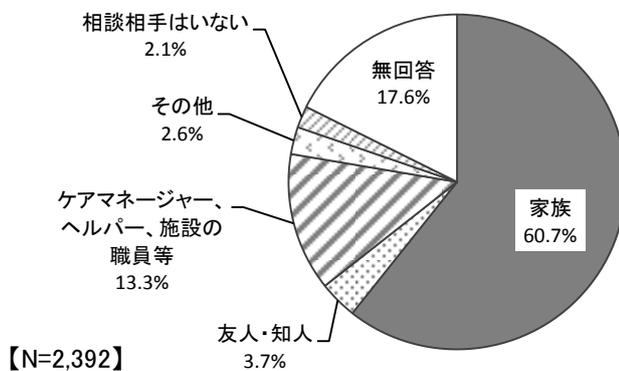
【図表 近所付き合いの程度／地区別】



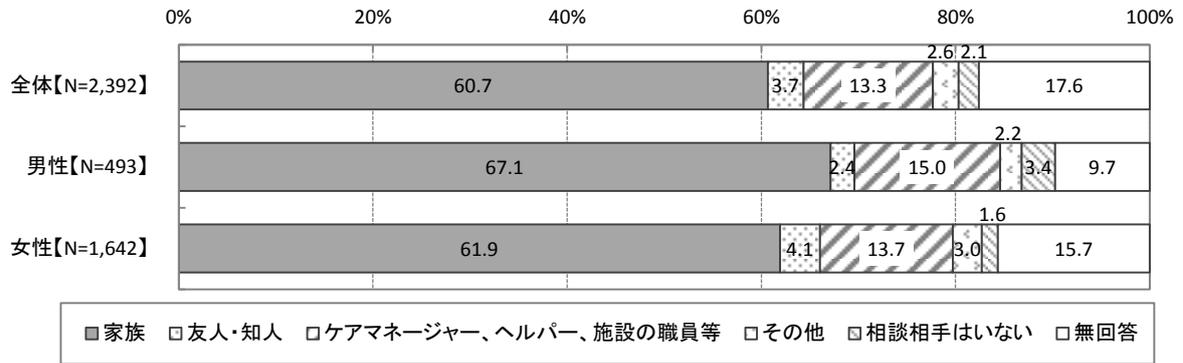
(3) 何かあったときの相談相手

・何かあったときの相談相手は、「家族」が最も多く約 6 割を占めている。次いで「ケアマネジャー、ヘルパー、施設の職員等」(13.3%)と続いている。

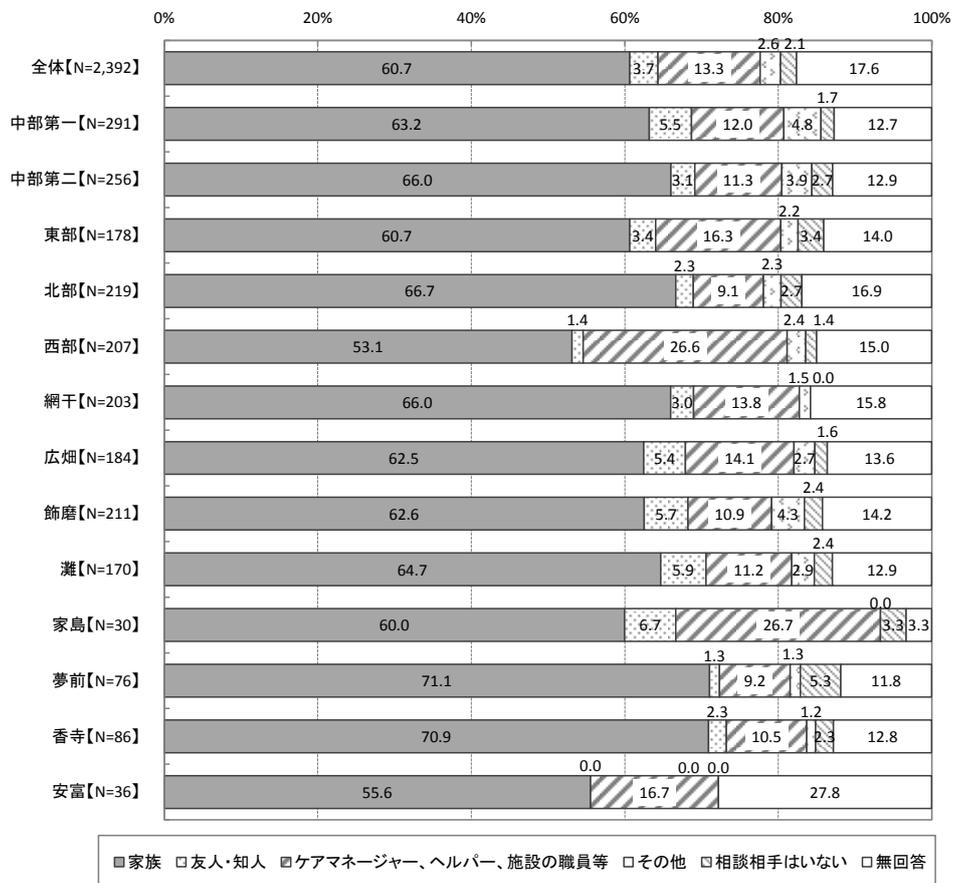
【図表 何かあったときの相談相手】



【図表 何かあったときの相談相手／性別】



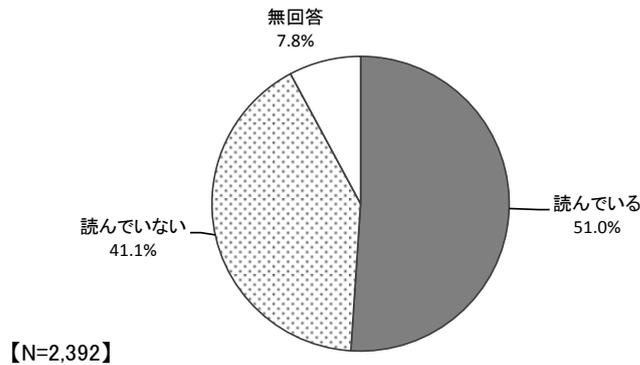
【図表 何かあったときの相談相手／地区別】



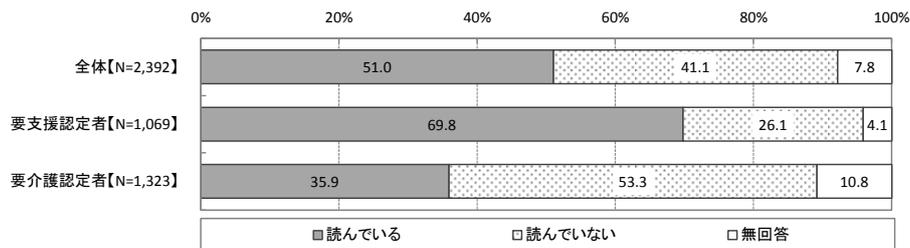
(4) 新聞を読んでいる状況

- ・新聞を読んでいる人は約半数となっている。
- ・要支援・要介護認定別にみると、要支援認定者は「読んでいる」割合は約7割だが、要介護認定者では4割以下となっている。
- ・地区別にみると、「家島」と「安富」は「読んでいる」割合が4割を下回っている。

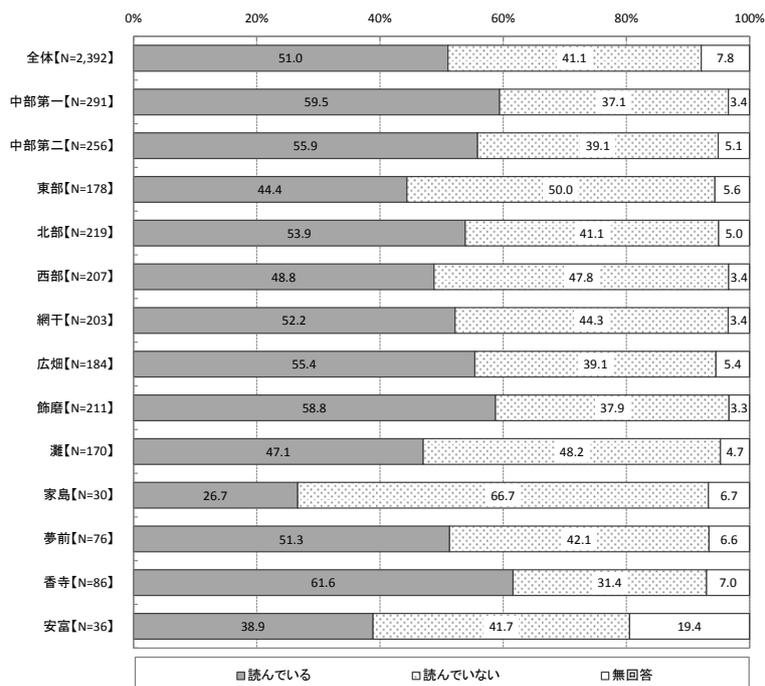
【図表 新聞を読んでいる状況】



【図表 新聞を読んでいる状況／要支援・要介護認定別】



【図表 新聞を読んでいる状況／地区別】



4 健康、もの忘れについて

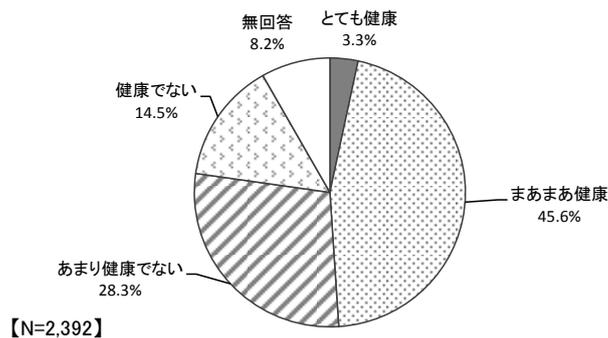
健康と感じている割合は約 5 割で、平成 22 年度調査より約 8 ポイント高くなっているが、一般高齢者と比較すると約 30 ポイント低い。

もの忘れがある割合や、意思の伝達に支障がある割合も一般高齢者より約 30 ポイント低く、身体機能の低下が見受けられる。

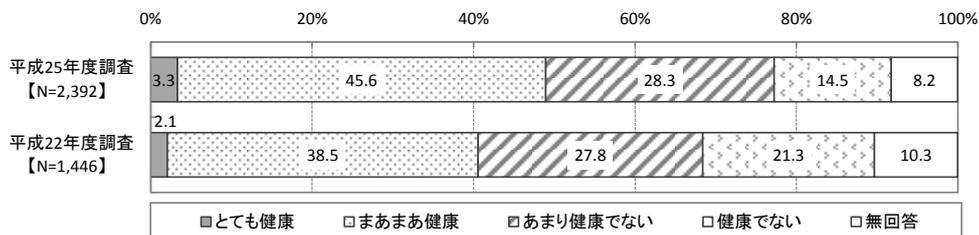
(1) 健康状態

- 健康状態は、「まあまあ健康」が 45.6%と最も多く、次いで「あまり健康でない」(28.3%)と続いている。『健康』と回答した割合(「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせた割合)は約 5 割となっている。
- 要支援・要介護認定別にみると、「健康でない」は要介護認定者が要支援認定者より約 7 ポイント高い。
- 平成 22 年度調査と比較すると、『健康』と回答した割合は 8.3 ポイント増加している。

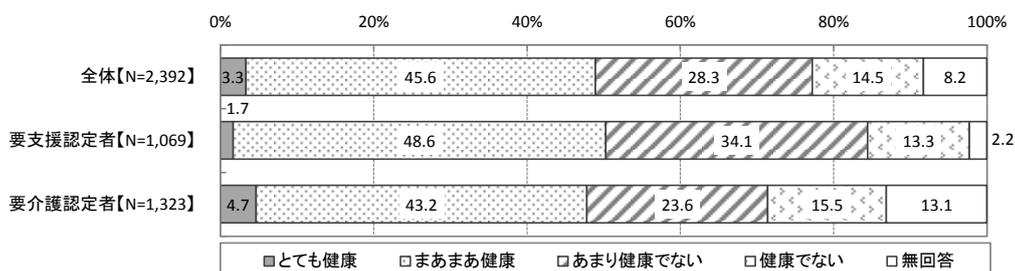
【図表 健康状態】



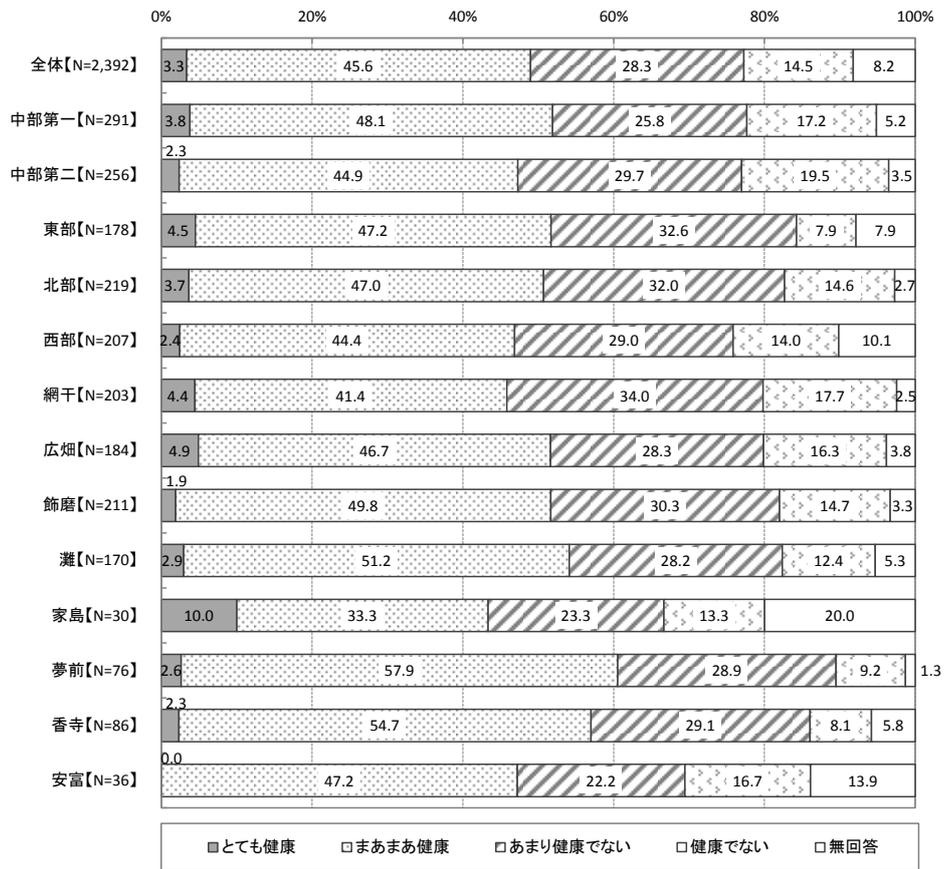
【図表 健康状態／平成 22 年度調査との比較】



【図表 健康状態／要支援・要介護認定別】



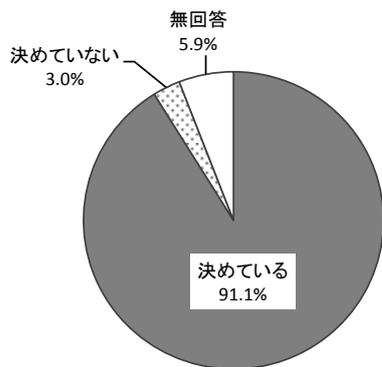
【図表 健康状態／地区別】



(2) 「かかりつけ医」と定期的な歯科健診の受診状況

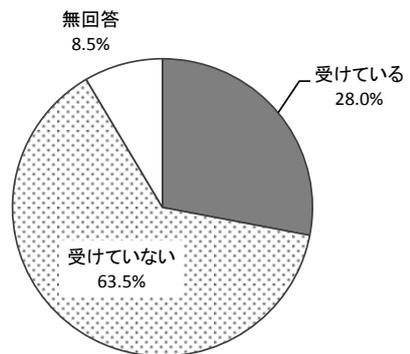
- ・「かかりつけ医」を決めている人が約9割を占めている。
- ・定期的な歯科健診の受診有無は、「受けていない」が6割を超えている。

【図表 「かかりつけ医」を決めている状況】



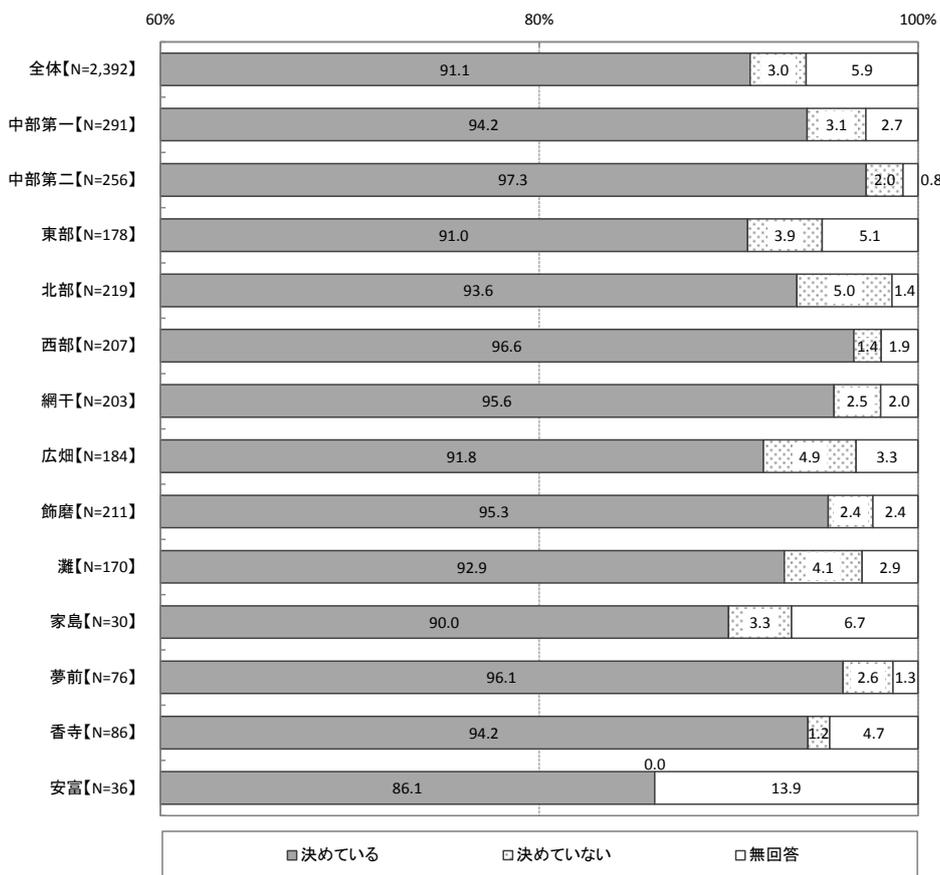
【N=2,392】

【図表 定期的な歯科健診の受診有無】

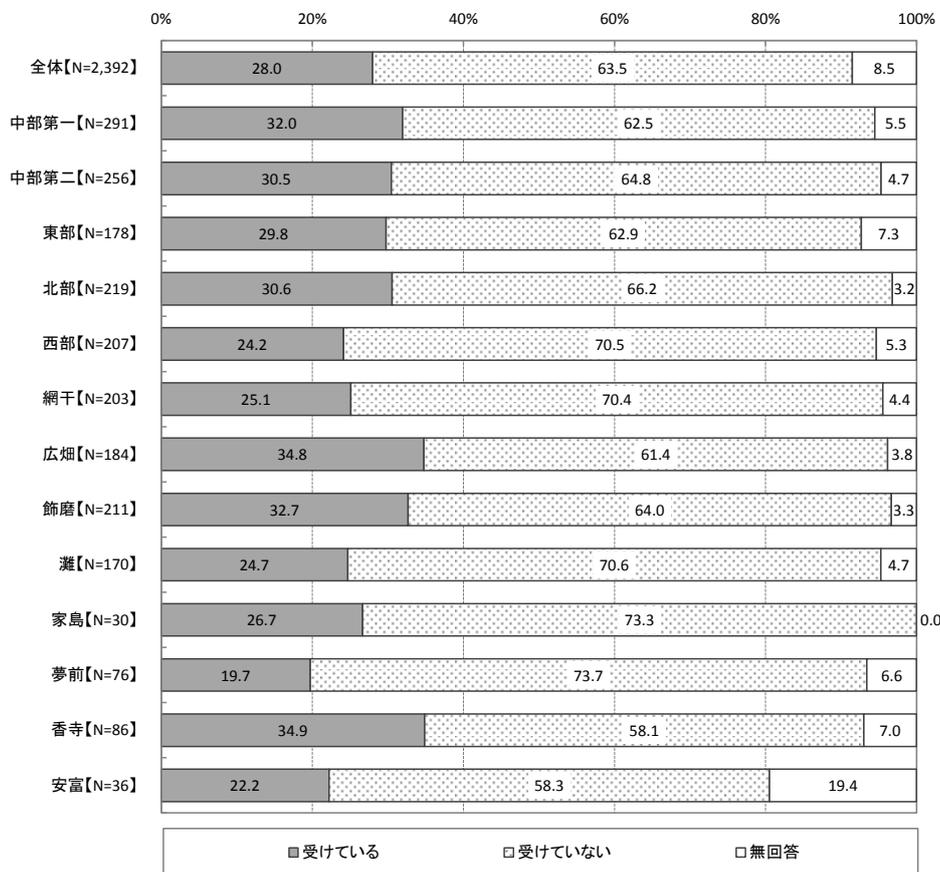


【N=2,392】

【図表 「かかりつけ医」を決めている状況／地区別】



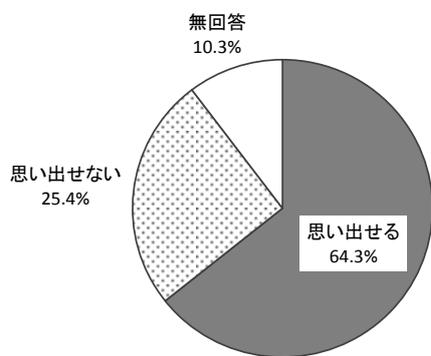
【図表 定期的な歯科健診の受診有無／地区別】



(3) もの忘れ、意思の伝達について

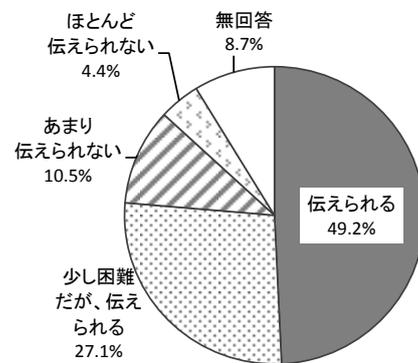
- ・もの忘れについて、「今から 5 分前のことを思い出せる」は 64.3%で、「思い出せない」は 25.4% となっている。
- ・もの忘れについて要支援・要介護認定別にみると、「思い出せる」は要支援認定者では約 9 割だが、要介護認定者では約 5 割となっている。
- ・「自分の考えを、他人にうまく伝えられる」人は約半数で、「少し困難だが、伝えられる」と合わせると 8 割近くとなっている。一方「伝えられない」人も約 15%いる。
- ・「自分の考えを、他人にうまく伝えられる」要支援認定者は約 6 割だが、要介護認定者では約 4 割となっている。

【図表 今から 5 分前のことを思い出せる】



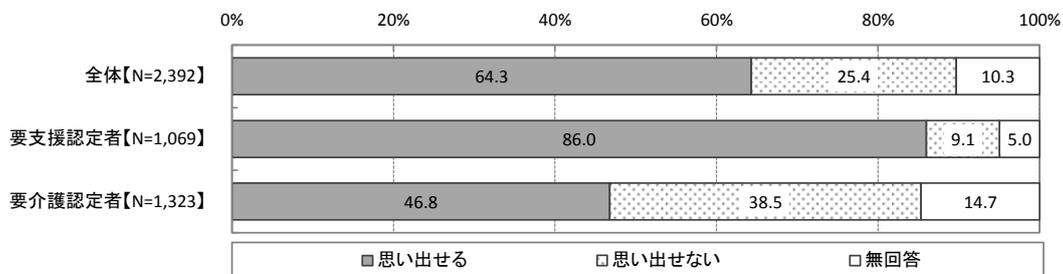
【N=2,392】

【図表 自分の考えを、他人にうまく伝えられる】

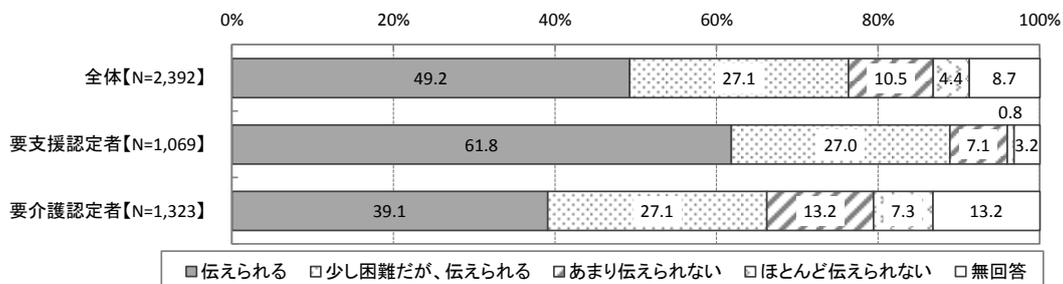


【N=2,392】

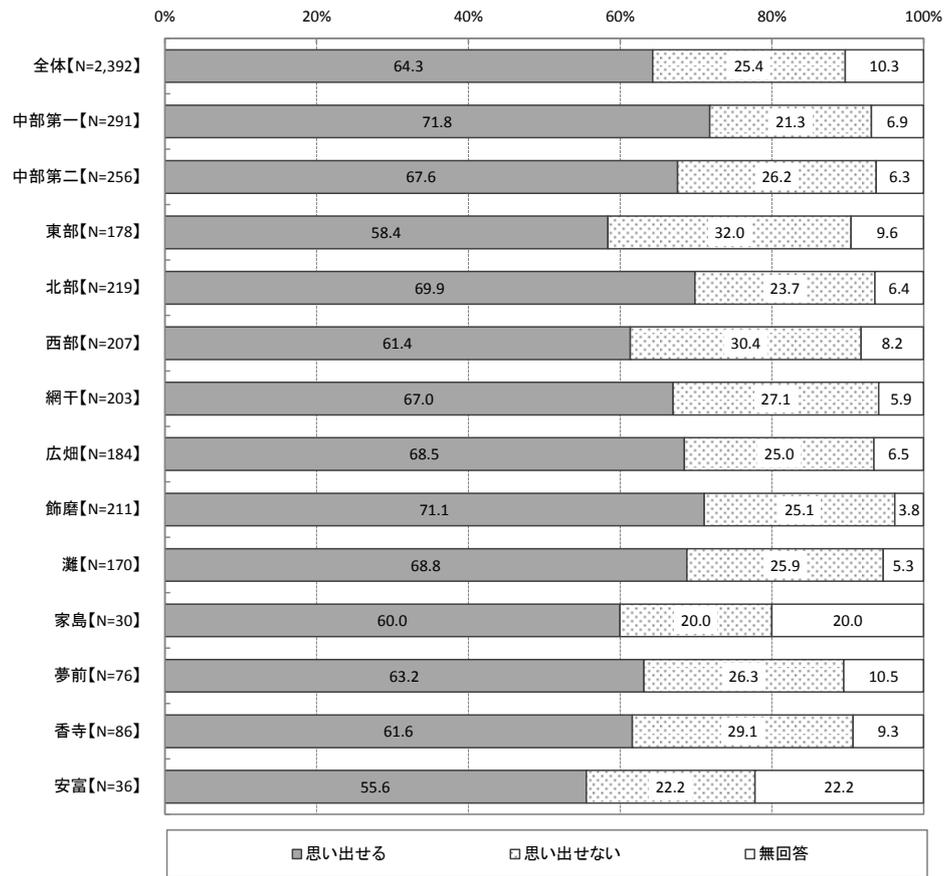
【図表 今から 5 分前のことを思い出せる／要支援・要介護認定別】



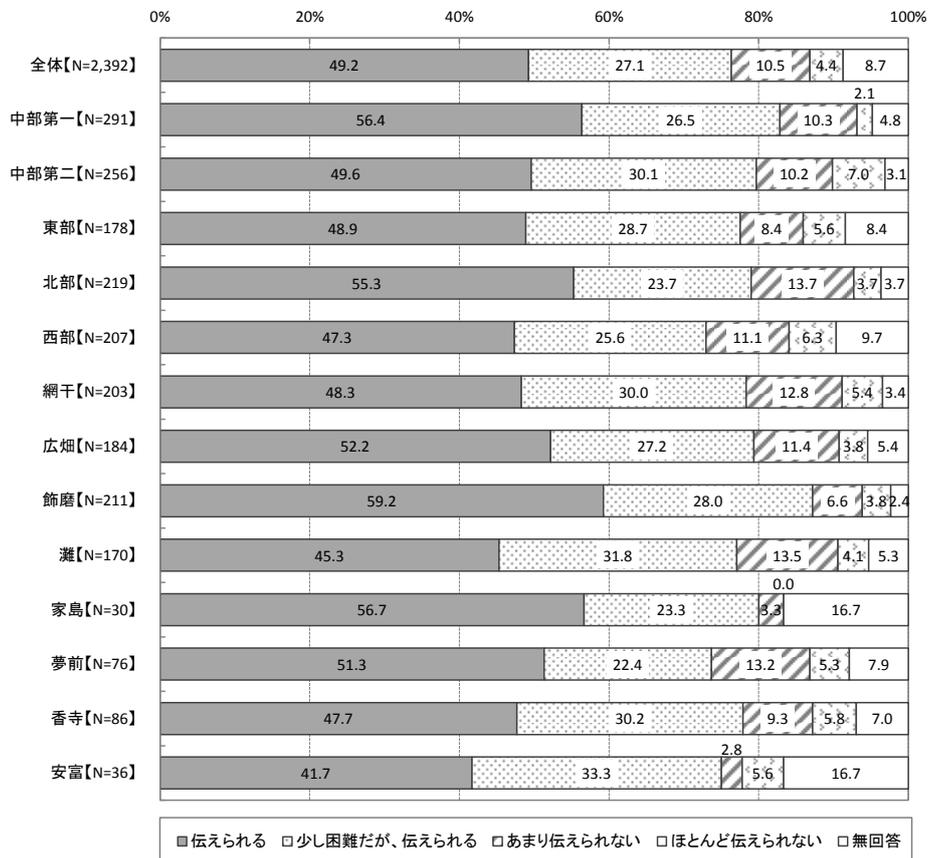
【図表 自分の考えを、他人にうまく伝えられる／要支援・要介護認定別】



【図表 今から5分前のことを思い出せる／地区別】



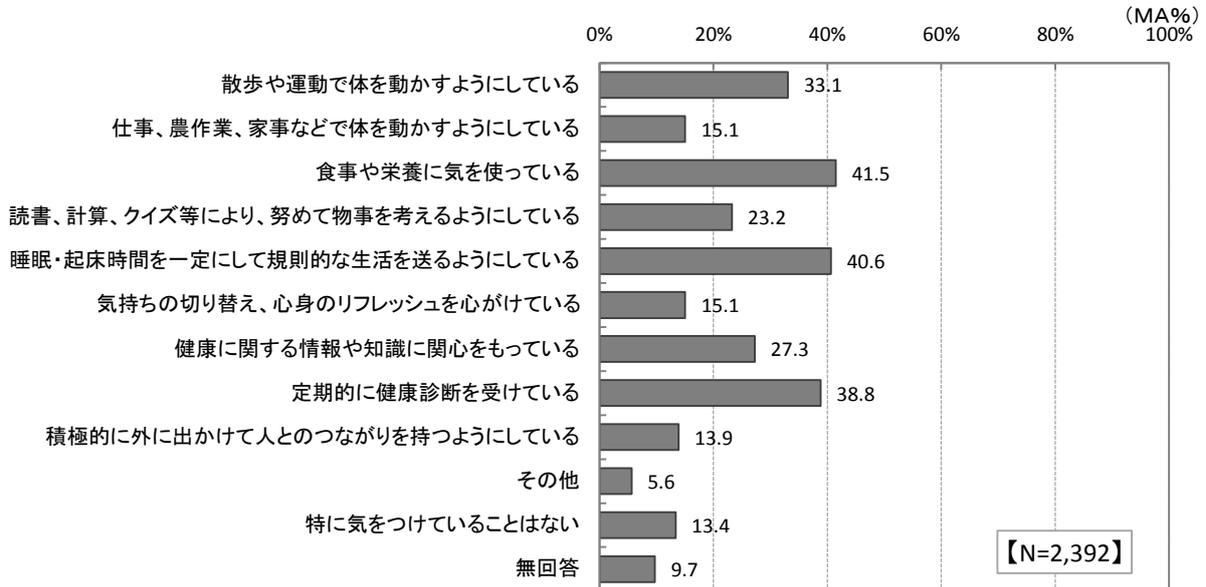
【図表 自分の考えを、他人にうまく伝えられる／地区別】



(4) 健康のために気をつけていること

- ・健康のために気をつけていることは、「食事や栄養」、「規則的な生活」、「定期的な健康診断」が4割前後と多くなっている。

【図表 健康のために気をつけていること】



【図表 健康のために気をつけていること／地区別】

	散歩や運動で体を動かすようにしている	仕事、農作業、家事などで体を動かすようにしている	食事や栄養に気を使っている	読書、計算、クイズ等により、努めて物事を考えるようにしている	睡眠・起床時間を一定にして規則的な生活を送るようにしている	気持ちの切り替え、心身のリフレッシュを心がけている	健康に関する情報や知識に関心をもっている	定期的に健康診断を受けている	積極的に外に出かけて人とのつながりを持つようにしている	その他	特に気をつけていることはない	無回答	
全体【N=2,392】	33.1	15.1	41.5	23.2	40.6	15.1	27.3	38.8	13.9	5.6	13.4	9.7	
居住地区別	中部第一【N=291】	31.6	13.1	47.4	25.4	46.7	15.8	31.6	42.3	14.1	4.1	11.7	8.2
	中部第二【N=256】	33.2	15.2	39.8	23.4	43.0	16.0	30.1	36.3	13.3	9.0	15.2	7.0
	東部【N=178】	34.3	11.8	43.8	21.3	38.8	12.4	23.0	37.1	13.5	5.6	14.0	11.2
	北部【N=219】	37.0	19.2	42.9	26.0	38.4	15.5	30.1	37.9	13.7	3.7	15.5	3.7
	西部【N=207】	32.9	14.5	37.7	25.6	38.2	17.9	21.3	40.6	10.6	4.8	16.4	7.2
	網干【N=203】	34.0	14.8	42.9	28.1	47.3	13.8	32.5	42.9	14.3	7.4	12.3	3.0
	広畑【N=184】	38.0	19.0	45.1	23.4	42.4	19.0	32.6	47.3	14.1	7.6	10.9	6.0
	飾磨【N=211】	37.0	18.5	49.8	27.0	47.9	17.1	30.3	45.5	20.9	5.7	12.8	2.8
	灘【N=170】	34.7	12.4	45.3	18.8	42.4	10.6	27.1	46.5	14.1	5.3	12.4	5.9
	家島【N=30】	30.0	13.3	40.0	10.0	30.0	16.7	26.7	33.3	16.7	3.3	26.7	16.7
	夢前【N=76】	34.2	25.0	43.4	26.3	36.8	17.1	26.3	32.9	27.6	7.9	7.9	7.9
	香寺【N=86】	33.7	18.6	38.4	26.7	45.3	15.1	26.7	30.2	14.0	4.7	11.6	7.0
	安富【N=36】	33.3	19.4	27.8	13.9	27.8	13.9	19.4	33.3	0.0	11.1	19.4	19.4

5 介護保険事業や高齢者福祉施策について

約 8 割が介護保険サービスを利用している。その満足度については約 8 割が満足と回答しているが、サービスの量に満足していない等の理由で不満と感じている人も 1 割近くいる。

心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方について「自宅で介護を受けて暮らしたい」割合は一般高齢者より約 7 ポイント低く、一方「特別養護老人ホームなどの施設に入所して暮らしたい」が約 5 ポイント高い。

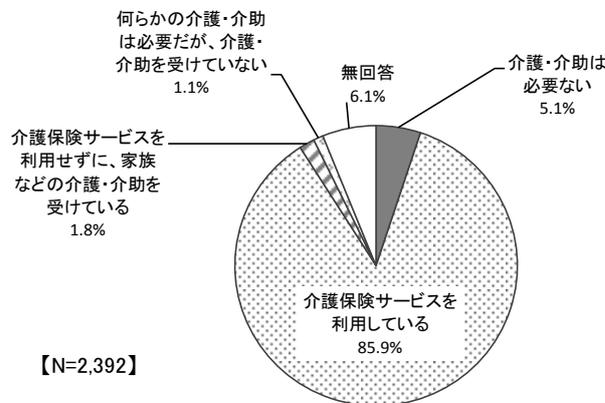
介護保険料の上昇については、一般高齢者と同様に肯定的な意見が半数を超えている。

介護予防事業等に参加したことがない理由としては、存在を知らないことが多く挙げられているが、身体状況の悪化や移動手段がないことを挙げる割合が一般高齢者より高くなっている。地域包括支援センター未利用の理由としても存在を知らないことが多く挙げられており、一層の周知が必要である。

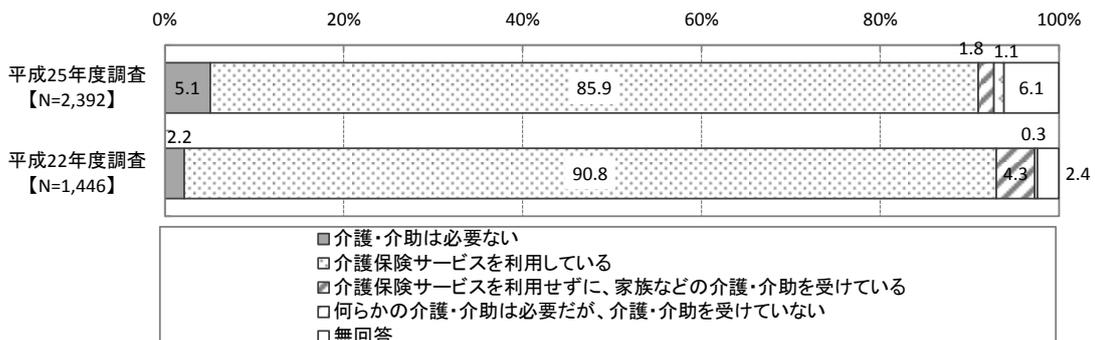
(1) 介護・介助の実態

- ・「介護保険サービスを利用している」が 8 割を超えているが、平成 22 年度調査と比較すると 4.9 ポイント減少している。
- ・主な介護・介助者は「子」が 35.4%と最も多く、次いで「子の配偶者」(14.3%)と続いている。
- ・主な介護・介助者の年齢は、「65 歳未満」が 5 割近くと最も多いが、後期高齢者である 75 歳以上の割合も 17.1%ある。

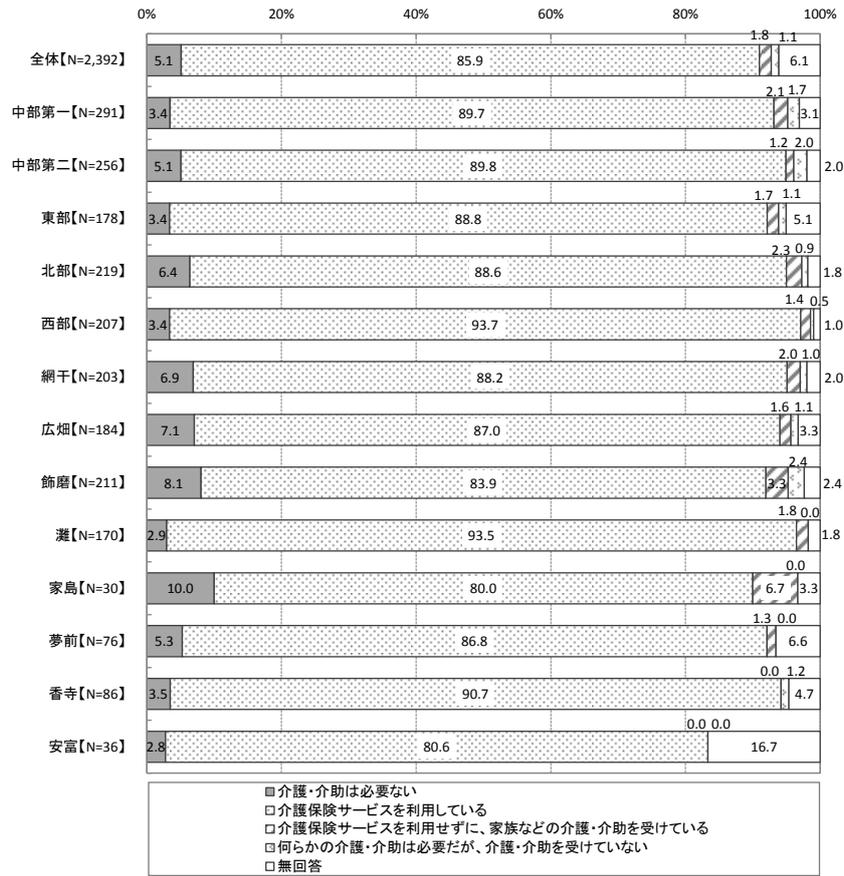
【図表 介護・介助の状況】



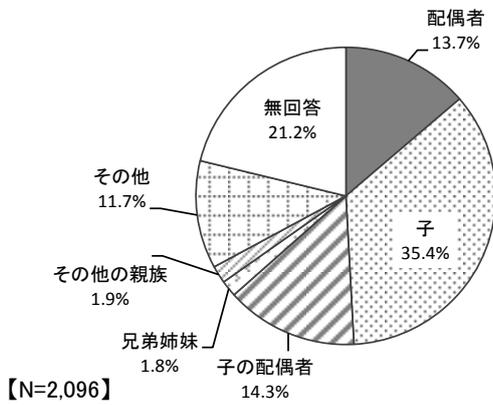
【図表 介護・介助の状況／平成 22 年度調査との比較】



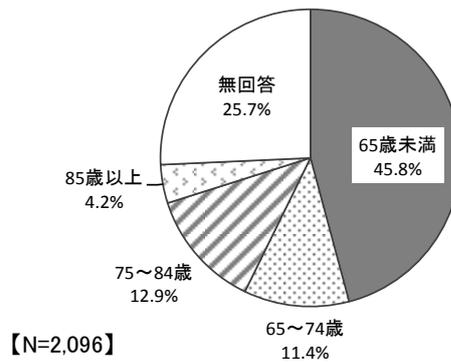
【図表 介護・介助の状況／地区別】



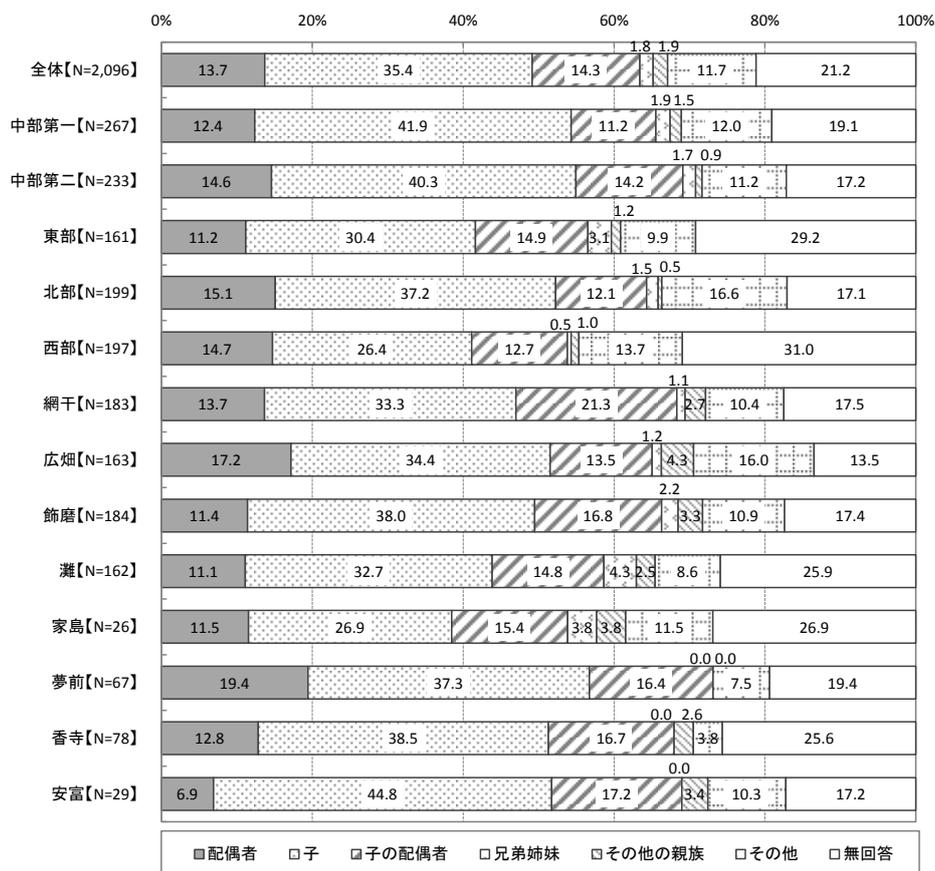
【図表 主な介護・介助者】



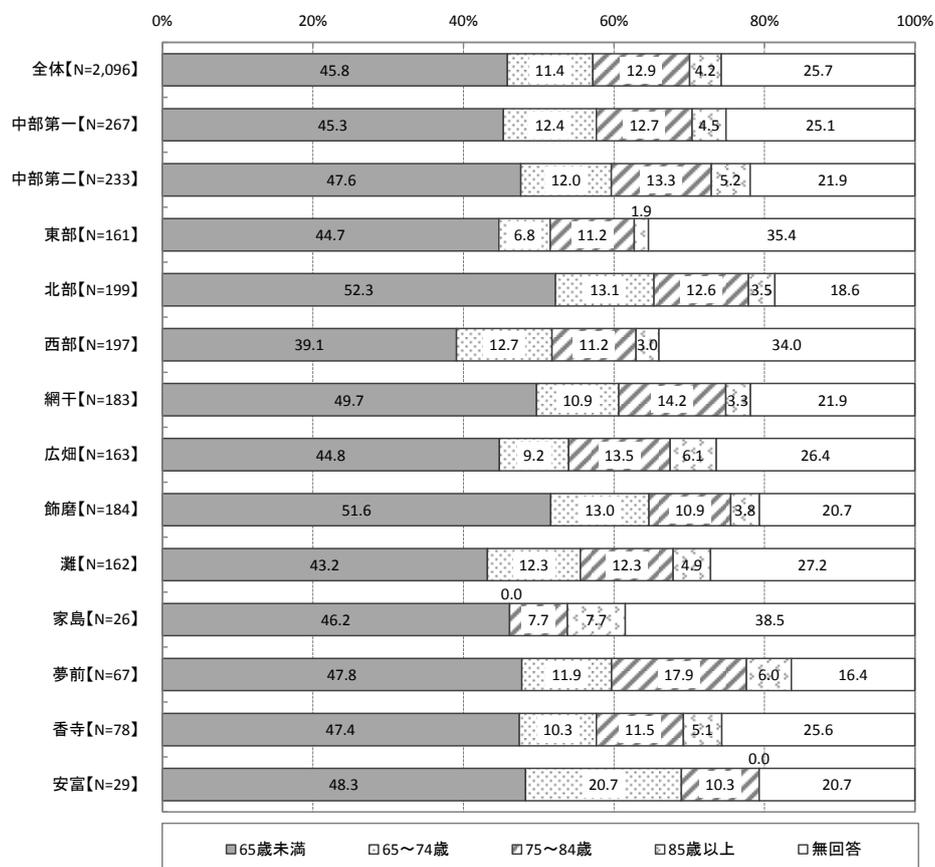
【図表 主な介護・介助者の年齢】



【図表 主な介護・介助者／地区別】



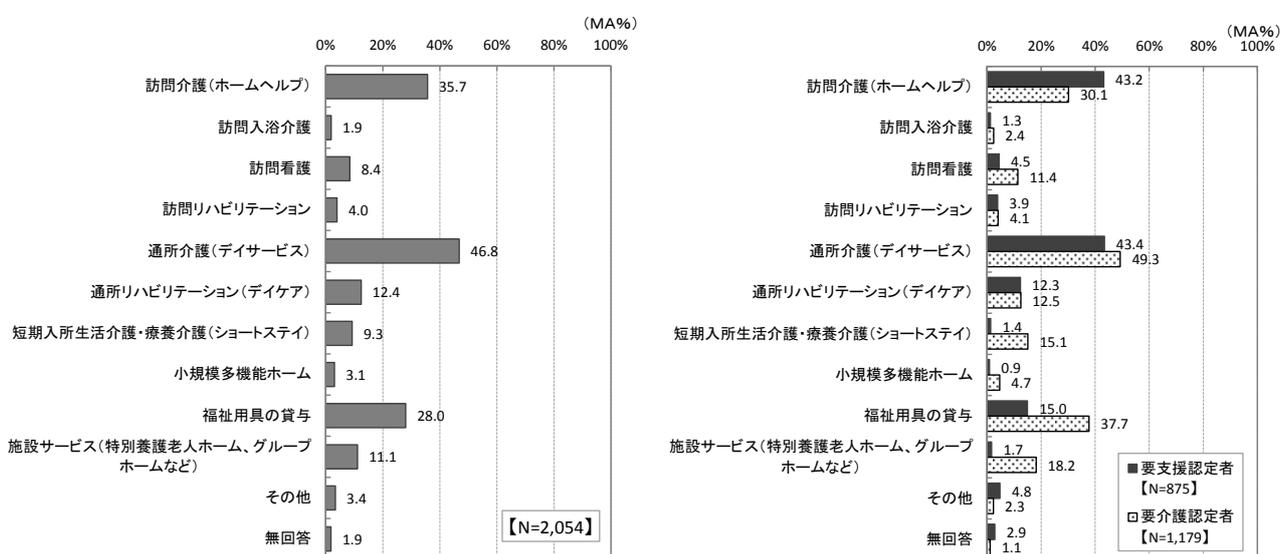
【図表 主な介護・介助者の年齢／地区別】



(2) 介護保険サービスについて

- ・利用している介護保険サービスは、「通所介護（デイサービス）」が46.8%と最も多く、次いで「訪問介護（ホームヘルプ）」（35.7%）、「福祉用具の貸与」（28.0%）と続いている。「福祉用具の貸与」は要介護認定者で多くなっている。
- ・介護保険サービスの満足度は、「満足」が42.1%と最も多く、「やや満足」と合わせると82.0%が『満足』と回答している。『不満』（「やや不満」と「不満」を合わせた割合）は7.8%ある。
- ・満足度を平成22年度調査と比較すると、「満足」は減少しているが、「やや満足」は増加しており、『満足』の割合に大きな変化はみられない。
- ・『満足』、『不満』の理由は、『満足』では「気分よくサービスが利用できている」が65.5%と最も多く、『不満』では「サービスの量に満足していない」が最も多い。
- ・介護保険サービスを利用していない人の理由は、「機能低下を防ぐため、頑張ってみようと思っている」が20.3%と最も多い。

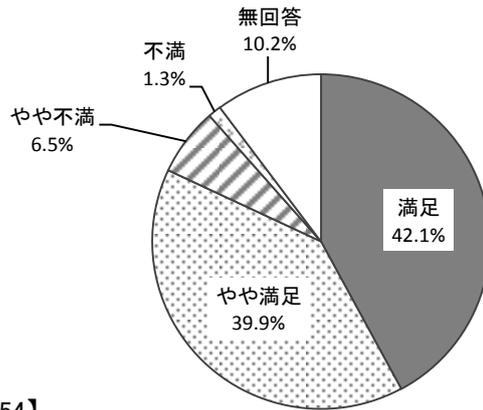
【図表 利用している介護保険サービス】



【図表 利用している介護保険サービス／地区別】

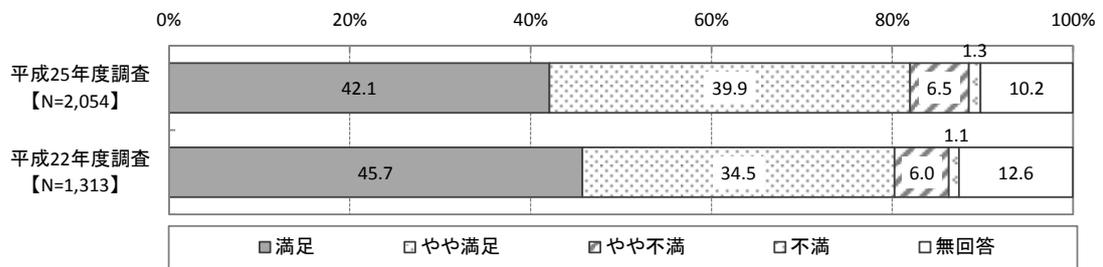
	訪問介護(ホームヘルプ)	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護(デイサービス)	通所リハビリテーション(デイケア)	短期入所生活介護・療養介護(ショートステイ)	小規模多機能ホーム	福祉用具の貸与	施設サービス(特別養護老人ホーム、グループホームなど)	その他	無回答
全体【N=2,054】	35.7	1.9	8.4	4.0	46.8	12.4	9.3	3.1	28.0	11.1	3.4	1.9
居住地区別												
中部第一【N=261】	44.1	1.9	9.2	5.0	39.8	13.4	8.4	1.5	24.9	10.7	4.6	1.5
中部第二【N=230】	37.8	3.9	9.6	3.9	47.8	8.7	10.4	2.6	33.0	8.3	2.6	2.2
東部【N=158】	36.1	0.6	7.6	4.4	50.6	8.2	9.5	1.9	31.0	15.2	1.3	1.3
北部【N=194】	45.9	2.1	8.2	4.1	50.5	6.2	6.7	3.1	27.8	8.8	3.6	0.0
西部【N=194】	31.4	1.5	8.2	5.7	39.2	9.8	7.7	5.7	22.2	23.2	3.1	2.1
網干【N=179】	31.8	1.1	5.6	4.5	54.7	12.8	11.7	3.4	23.5	10.1	2.8	1.7
広畑【N=160】	35.6	3.8	10.0	3.1	46.9	21.9	8.8	3.8	34.4	3.8	6.3	1.9
飾磨【N=177】	34.5	2.3	5.1	2.8	50.8	14.7	9.6	1.1	28.8	6.2	3.4	3.4
灘【N=159】	39.0	0.6	11.9	3.8	39.6	15.7	10.7	1.3	28.3	6.3	5.0	3.1
家島【N=24】	25.0	0.0	4.2	0.0	54.2	0.0	12.5	4.2	12.5	25.0	0.0	0.0
夢前【N=66】	25.8	0.0	9.1	1.5	53.0	16.7	15.2	9.1	27.3	7.6	3.0	1.5
香寺【N=78】	26.9	0.0	6.4	2.6	48.7	17.9	9.0	0.0	25.6	14.1	1.3	1.3
安富【N=29】	13.8	3.4	6.9	0.0	48.3	20.7	10.3	20.7	24.1	3.4	3.4	0.0

【図表 介護保険サービスの満足度】

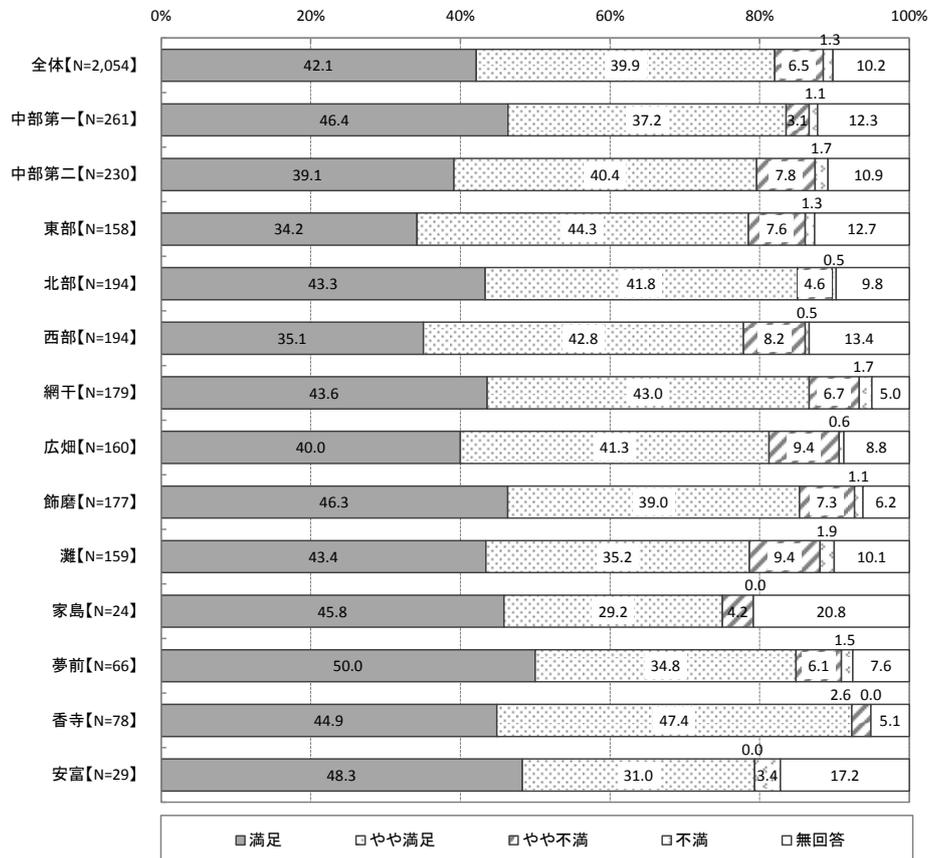


【N=2,054】

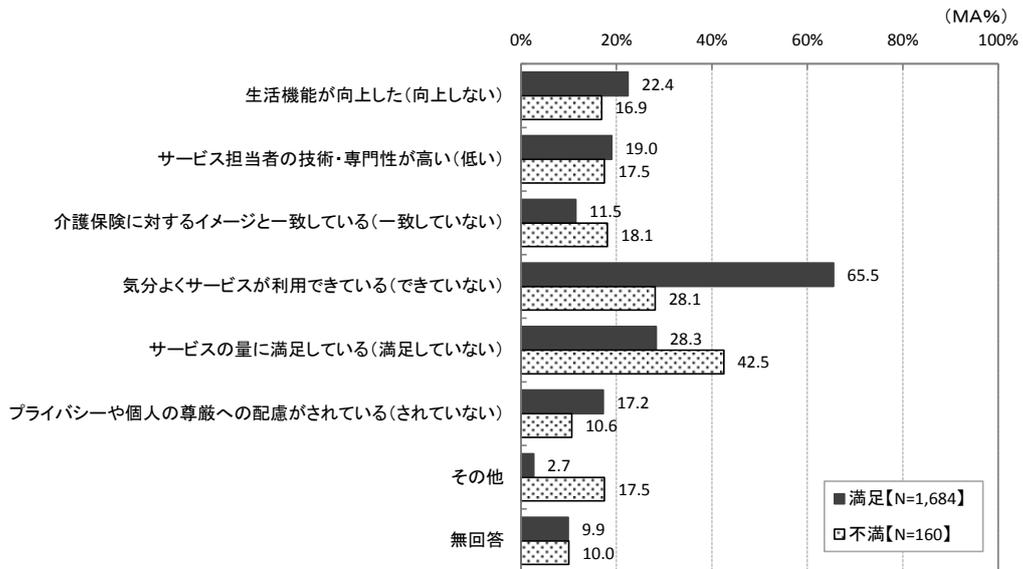
【図表 介護保険サービスの満足度／平成22年度調査との比較】



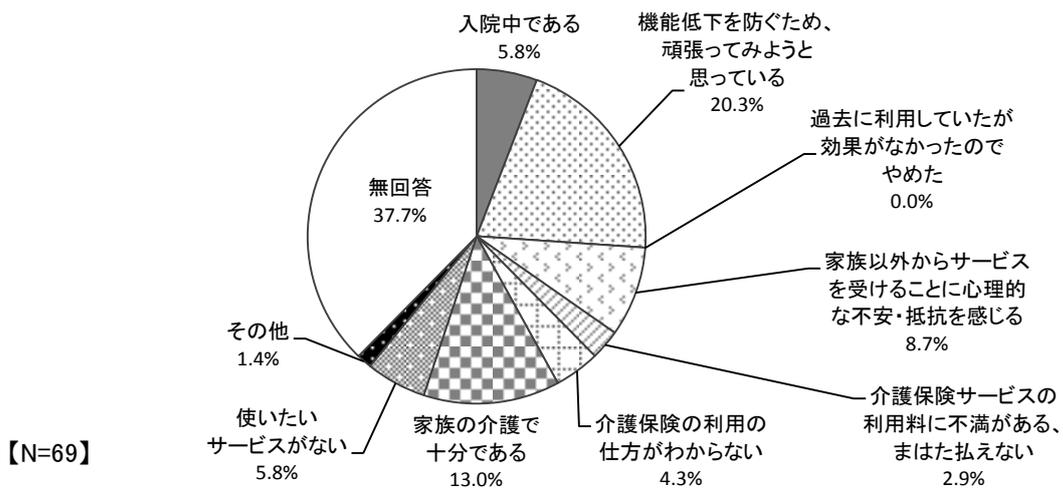
【図表 介護保険サービスの満足度／地区別】



【図表 介護保険サービスの満足度の理由】



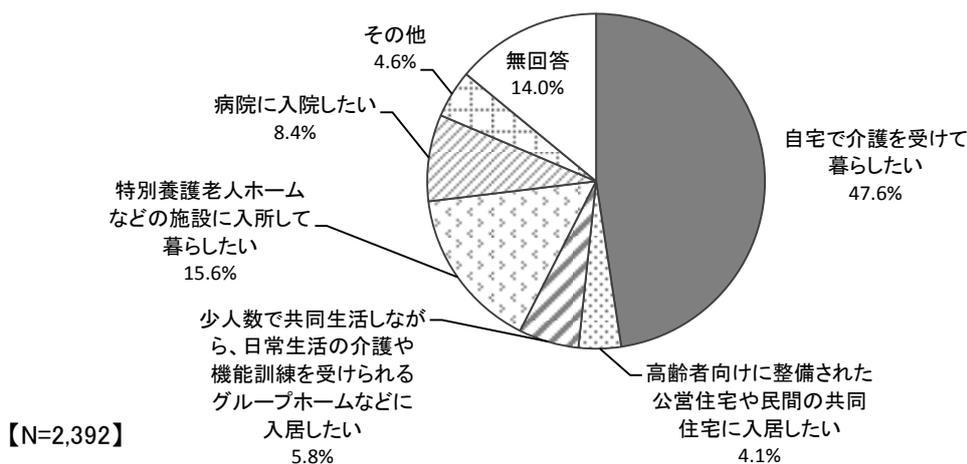
【図表 介護保険サービスを利用していない理由】



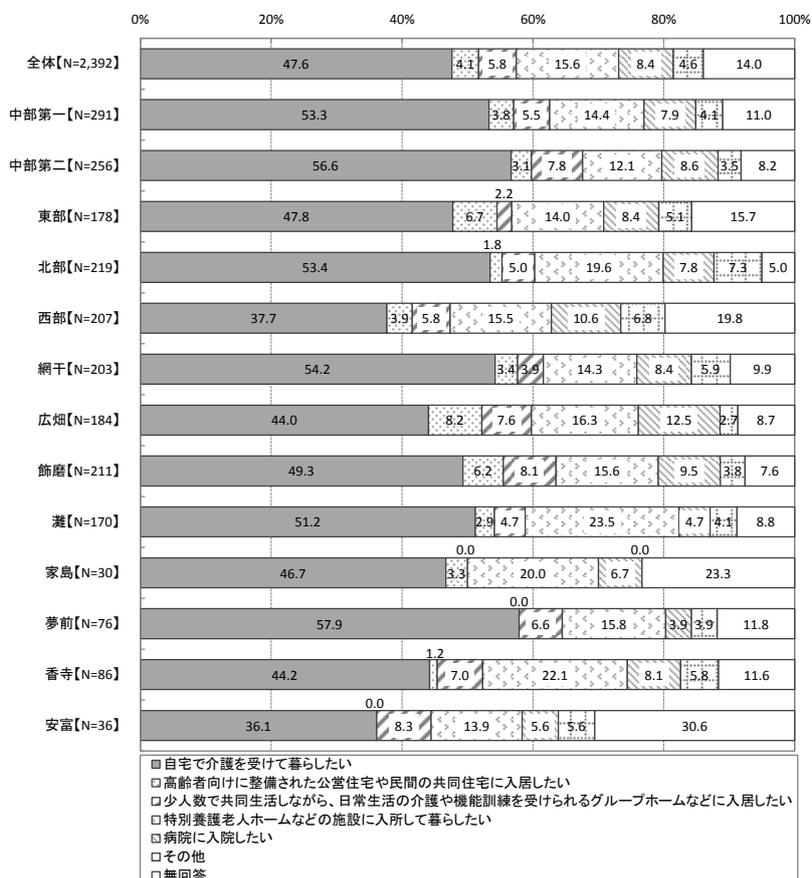
(3) 介護・介助に対する希望、介護施設への希望

- ・現在の状態以上に心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方は、「自宅で介護を受けて暮らしたい」が47.6%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入所して暮らしたい」(15.6%)と続いている。
- ・介護施設で生活することになった場合に希望する居室は、「費用負担が少々あっても、プライバシーが確保される個室がよい」が33.3%と最も多い。
- ・介護施設に望ましい立地は、「交通の便がよい住宅街や駅の近くなどがよい」が27.5%と最も多い。

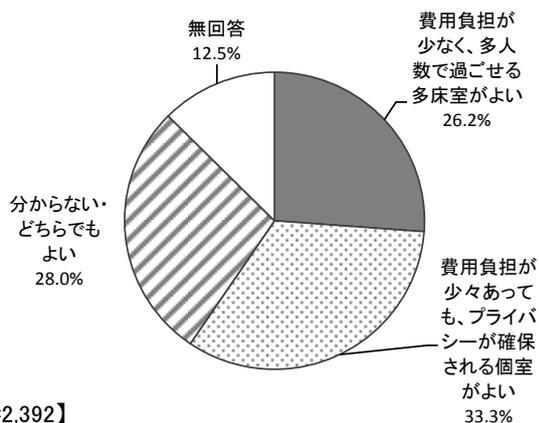
【図表 心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方】



【図表 心身の機能が低下した場合に希望する暮らし方／地区別】

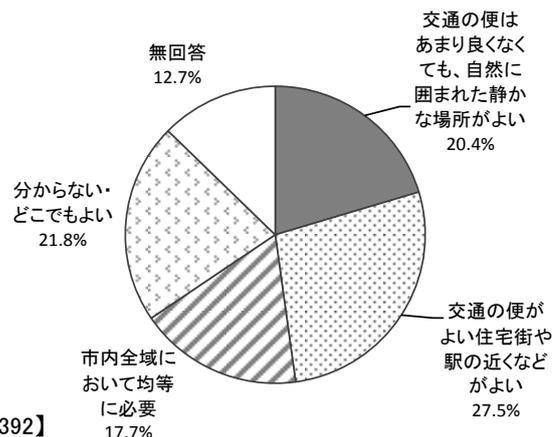


【図表 介護施設で生活する場合に希望する居室】



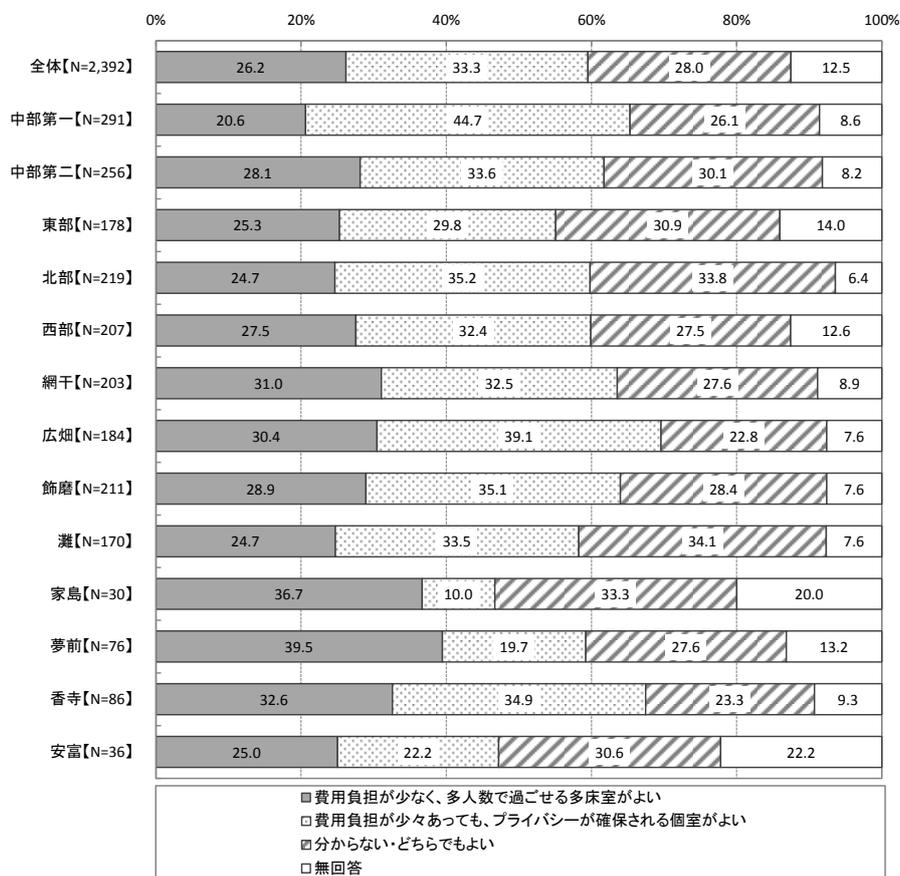
【N=2,392】

【図表 介護施設に望ましい立地】

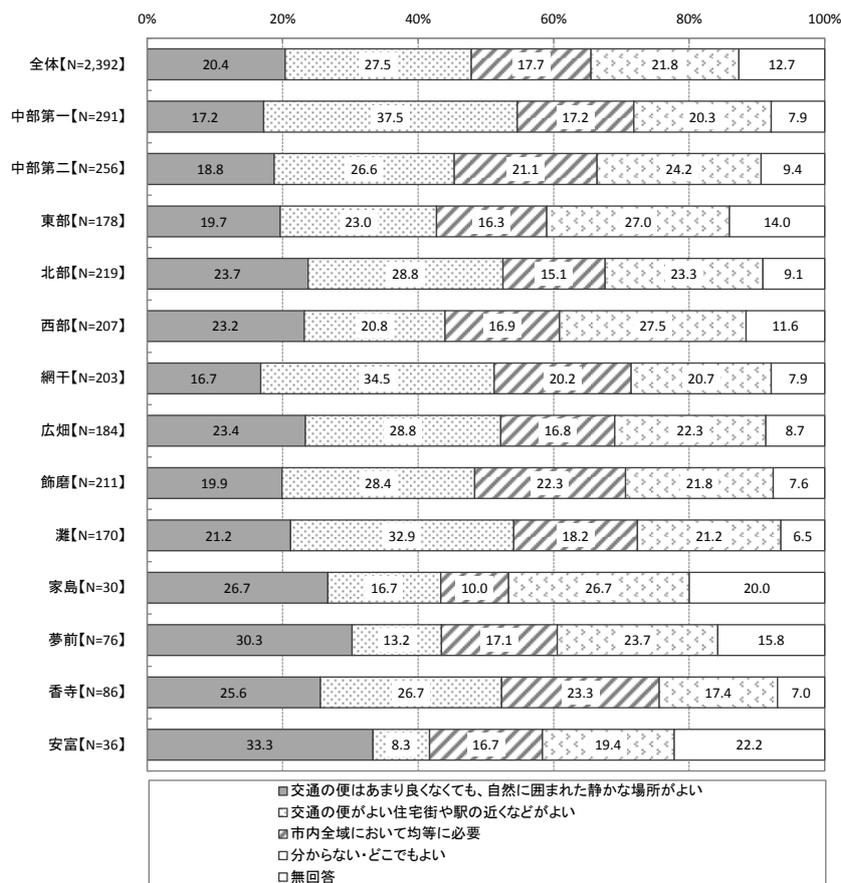


【N=2,392】

【図表 介護施設で生活する場合に希望する居室／地区別】



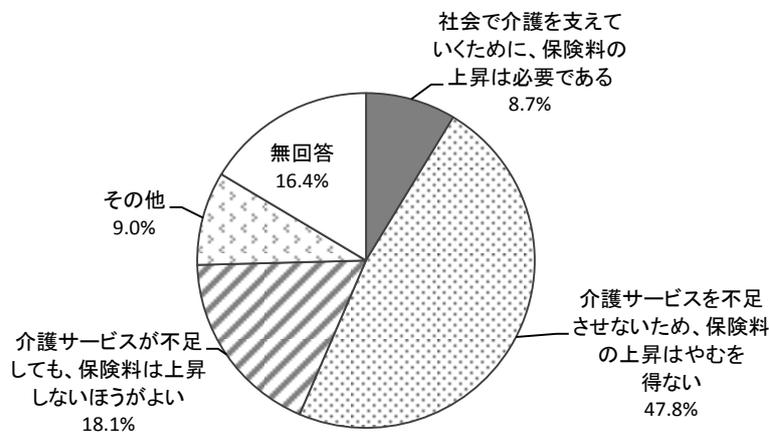
【図表 介護施設に望ましい立地／地区別】



(4) 介護保険料の方向性について

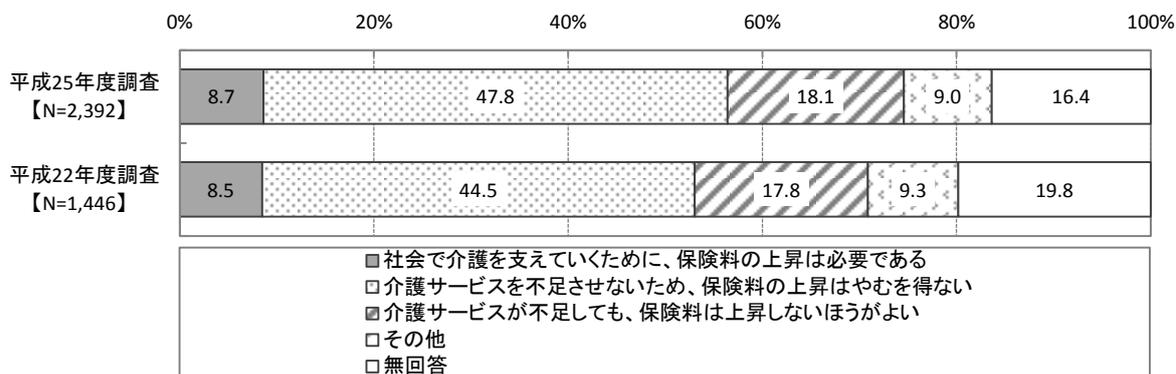
・介護保険料の方向性についての考えは、「介護サービスを不足させないため、保険料の上昇はやむを得ない」が 47.8%と最も多く、「社会で介護を支えていくために、保険料の上昇は必要である」と合わせると 56.5%が保険料の上昇に肯定的な回答をしている。

【図表 介護保険料の方向性について】

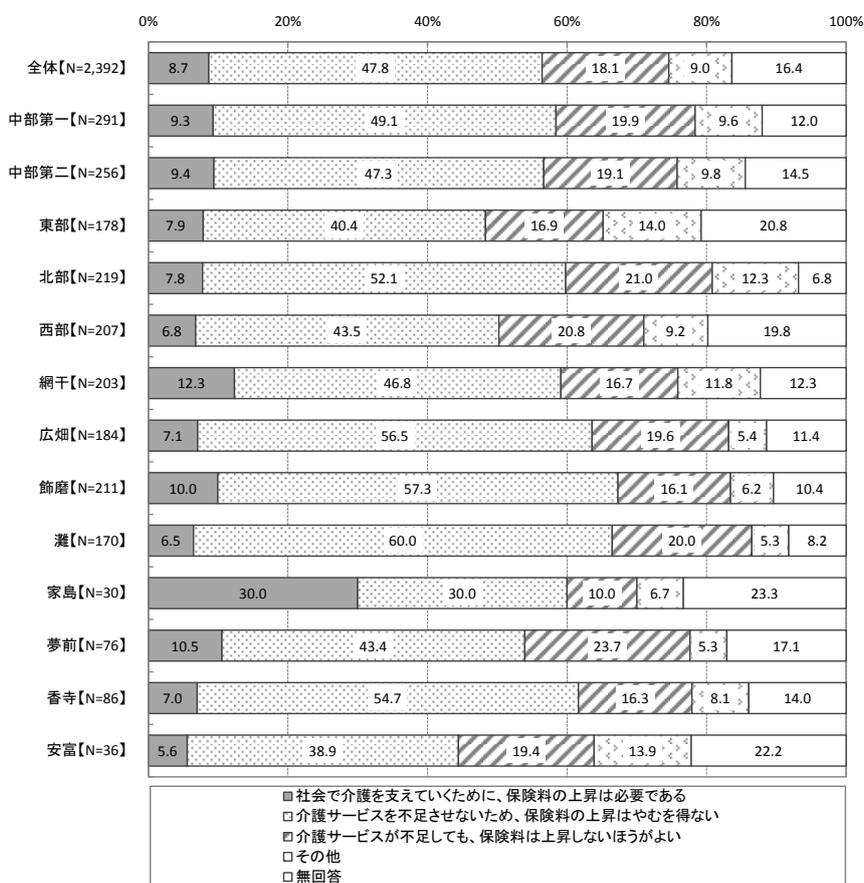


【N=2,392】

【図表 介護保険料の方向性について／平成 22 年度調査との比較】



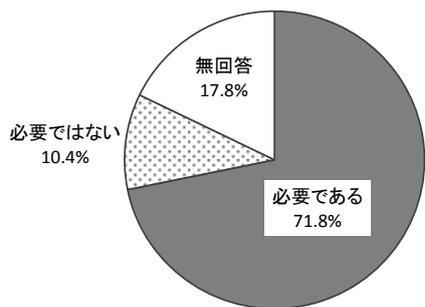
【図表 介護保険料の方向性について／地区別】



(5) 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスについて

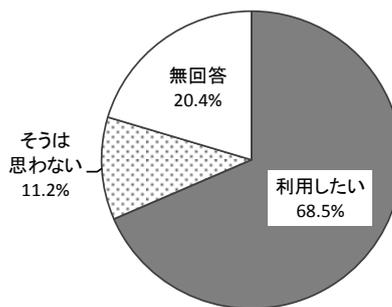
・介護が必要となっても自宅で安心して暮らし続けるために、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスが「必要である」と考える人は約7割で、またそのサービスを「利用したい」人も約7割となっている。

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの必要性の有無】



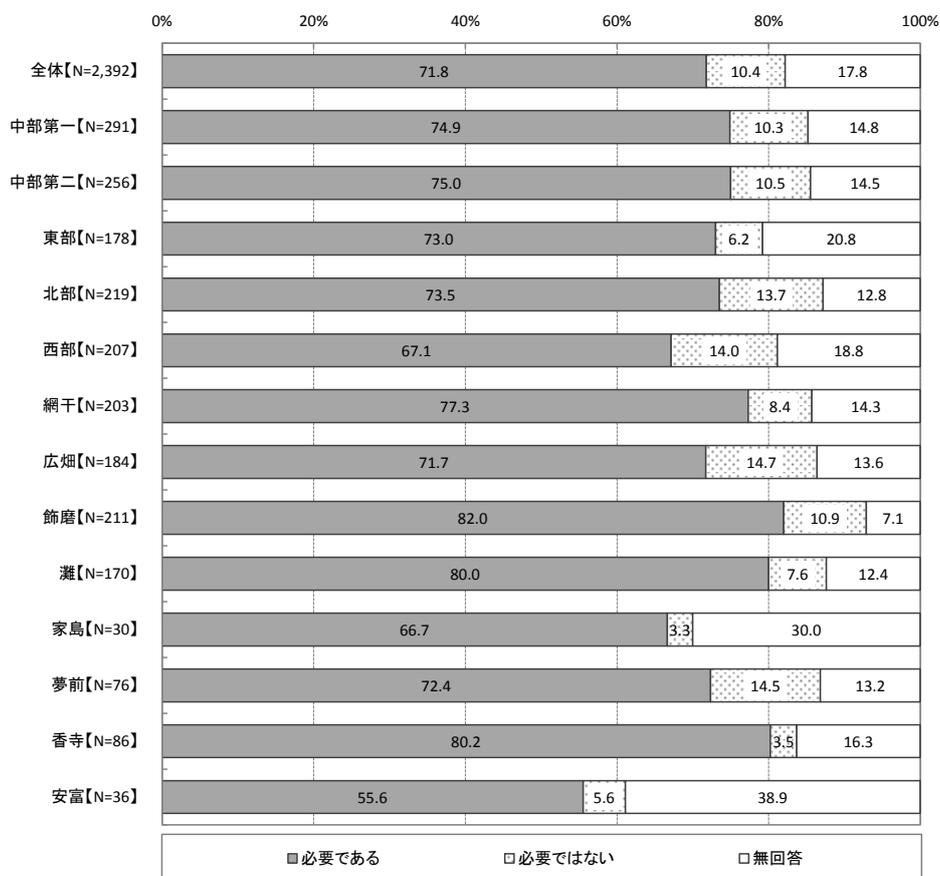
【N=2,392】

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの利用希望有無】

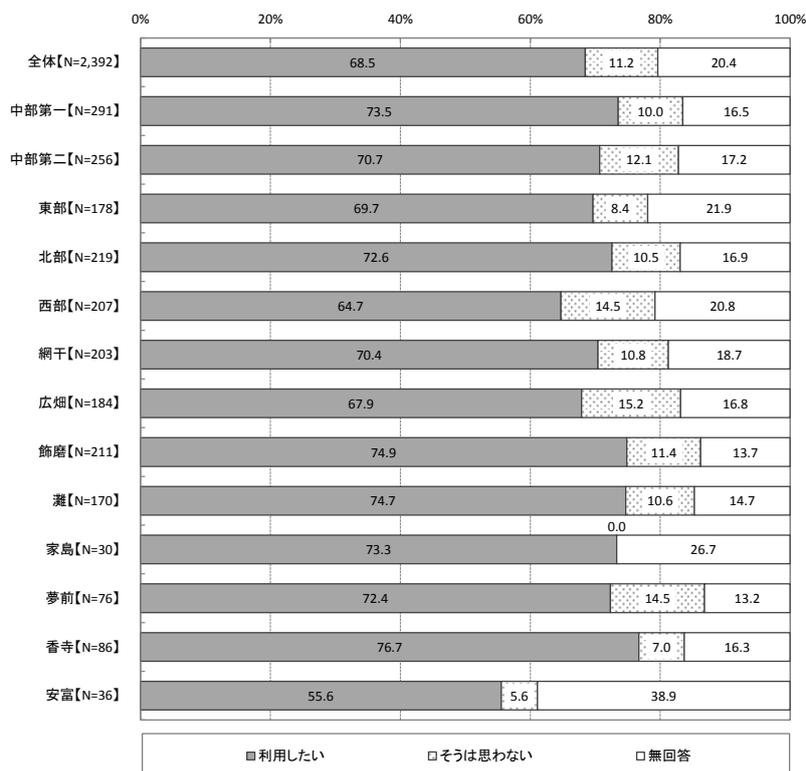


【N=2,392】

【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの必要性の有無／地区別】



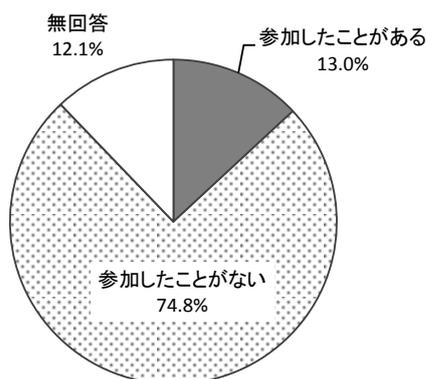
【図表 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスの利用希望の有無／地区別】



(6) 介護予防事業等について

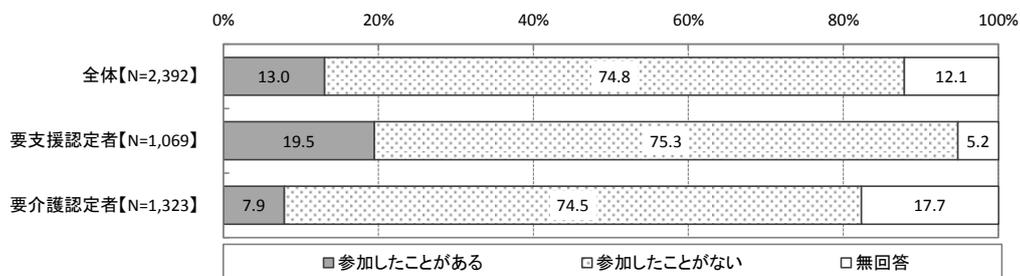
- ・ 介護予防事業等に「参加したことがある」は 13.0%で、「参加したことがない」は 74.8%となっている。
- ・ 要支援・要介護認定別にみると、「参加したことがある」は要支援認定者が要介護認定者より 11.6ポイント高い。
- ・ 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「参加したことがある」割合は低くなる傾向がみられる。
- ・ 介護予防事業等に参加したことがない人の理由は、「そのような教室や講演会があることを知らない（知らなかった）」が 42.3%と最も多く、次いで「身体状況の悪化により、開催場所へ行くことが困難である（困難だった）」(28.5%)、「移動手段がなく、開催場所へ行くことが困難である（困難だった）」(25.5%)と続いている。

【図表 介護予防事業等への参加状況】

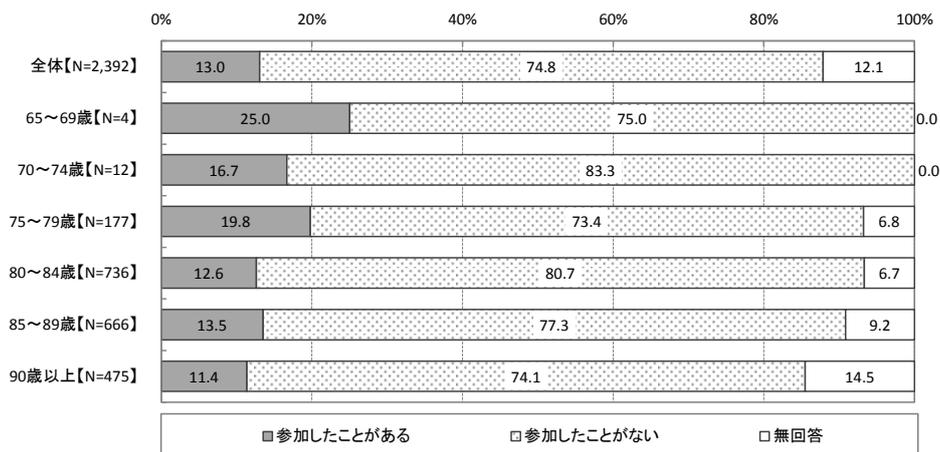


【N=2,392】

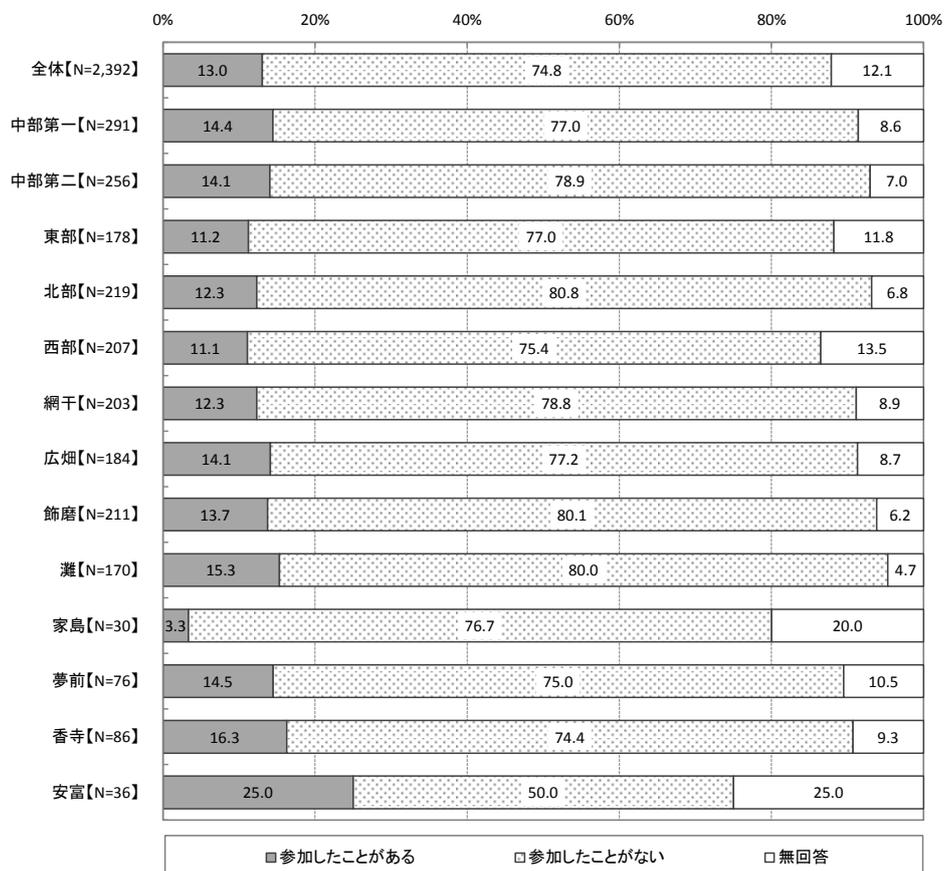
【図表 介護予防事業等への参加状況／要支援・要介護認定別】



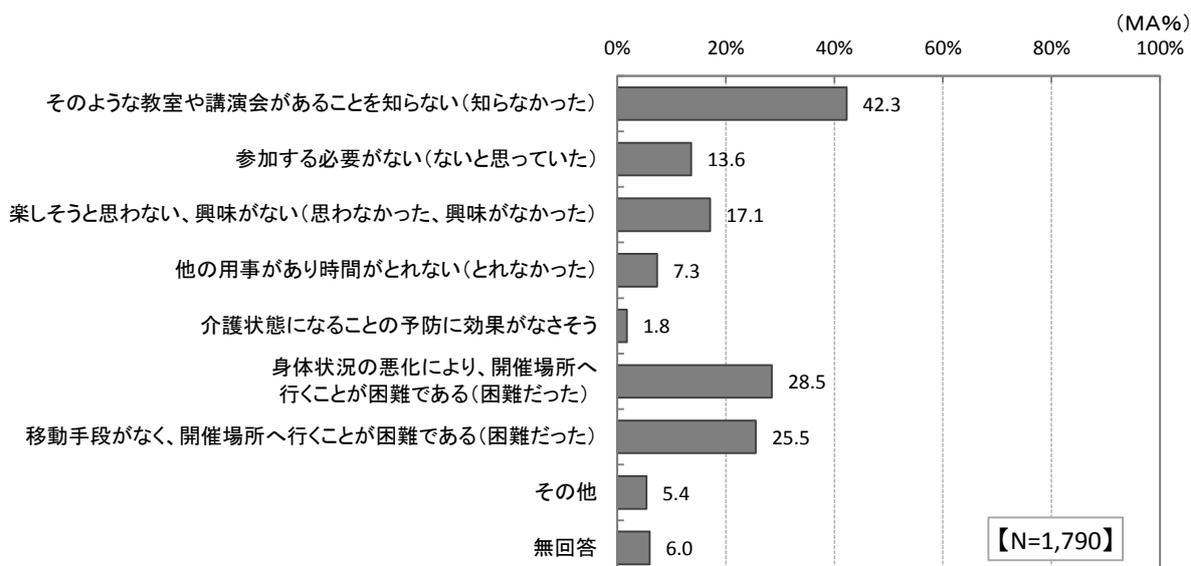
【図表 介護予防事業等への参加状況／年齢別】



【図表 介護予防事業等への参加状況／地区別】



【図表 介護予防事業等に参加したことがない理由】



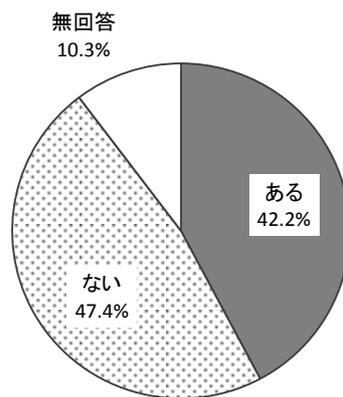
【図表 介護予防事業等に参加したことがない理由／地区別】

	い 会 が あ ら な か っ た こ と を 知 ら な か っ た	そ の よ う な 教 室 や 講 演 会 が あ る こ と を 知 ら な か っ た	参 加 す る 必 要 が な い と 思 っ て い た	た か 興 味 が な い と 思 っ た	楽 し そ う と 思 わ な か っ た	他 の 用 事 が あ り 時 間 が と れ な か っ た	予 防 に 状 態 に な る こ と の 効 果 が な さ さ う	身 体 状 況 の 悪 化 に よ り 、 開 催 場 所 へ 行 く こ と が 困 難 だ っ た	移 動 手 段 が な く 、 開 催 場 所 へ 行 く こ と が 困 難 だ っ た	そ の 他	無 回 答
全体【N=1,790】	42.3	13.6	17.1	7.3	1.8	28.5	25.5	5.4	6.0		
中部第一【N=224】	45.5	13.8	18.8	5.4	0.9	32.1	21.9	3.6	6.3		
中部第二【N=202】	45.0	14.4	16.3	8.9	2.0	26.7	17.3	5.0	5.0		
東部【N=137】	40.9	11.7	14.6	6.6	0.7	25.5	28.5	6.6	3.6		
北部【N=177】	37.9	11.9	18.1	11.9	0.0	24.9	24.3	9.0	7.9		
西部【N=156】	47.4	10.3	17.9	5.8	3.2	27.6	25.6	2.6	4.5		
網干【N=160】	38.8	16.3	13.1	5.6	3.1	33.1	31.9	6.3	5.6		
広畑【N=142】	44.4	12.7	20.4	7.0	2.1	27.5	22.5	7.0	5.6		
飾磨【N=169】	43.8	15.4	18.3	8.9	2.4	23.7	24.9	4.1	7.1		
灘【N=136】	35.3	14.7	14.0	11.8	1.5	33.1	31.6	6.6	5.9		
家島【N=23】	56.5	21.7	26.1	8.7	0.0	13.0	13.0	0.0	0.0		
夢前【N=57】	57.9	12.3	14.0	3.5	1.8	31.6	29.8	1.8	5.3		
香寺【N=64】	46.9	7.8	10.9	1.6	0.0	31.3	42.2	3.1	9.4		
安富【N=18】	44.4	16.7	11.1	0.0	0.0	38.9	44.4	0.0	0.0		

(7) 地域包括支援センターについて

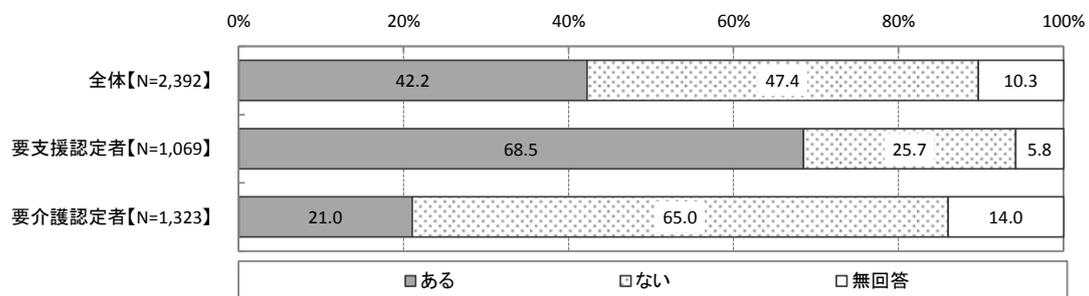
- ・地域包括支援センターの利用有無は、「ある」が42.2%、「ない」が47.4%で、「ない」の割合が約5ポイント高い。
- ・要支援・要介護認定別にみると、「ある」は要支援認定者では約7割だが、要介護認定者では約2割となっている。
- ・年齢別にみると、利用が「ある」割合は、「65～69歳」で最も多く、「90歳以上」で最も少ない。
- ・利用内容は、「介護保険の利用に関すること」が75.8%と最も多い。
- ・利用をした満足度は、「やや満足」が52.0%と最も多く、「大変満足」と合わせると87.7%が『満足』と回答している。
- ・『満足』（「大変満足」と「やや満足」の合計）と『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）別に満足度の理由をみると、『満足』では「話しやすさ」が73.0%と最も多く、次いで「信頼性」（40.7%）と続いている。『不満』では「その他」が39.6%と最も多い。
- ・センターを利用したことがない人の理由は、「地域包括支援センターというものがあることを知らない」が54.9%と最も多い。

【図表 地域包括支援センターの利用有無】

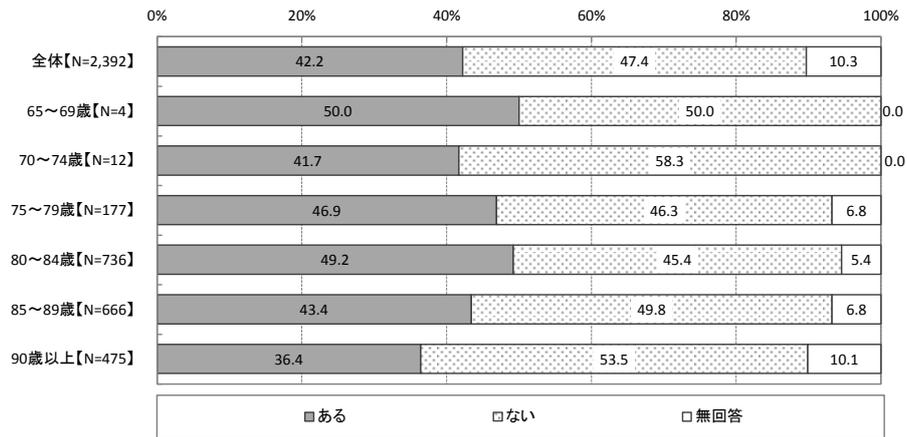


【N=2,392】

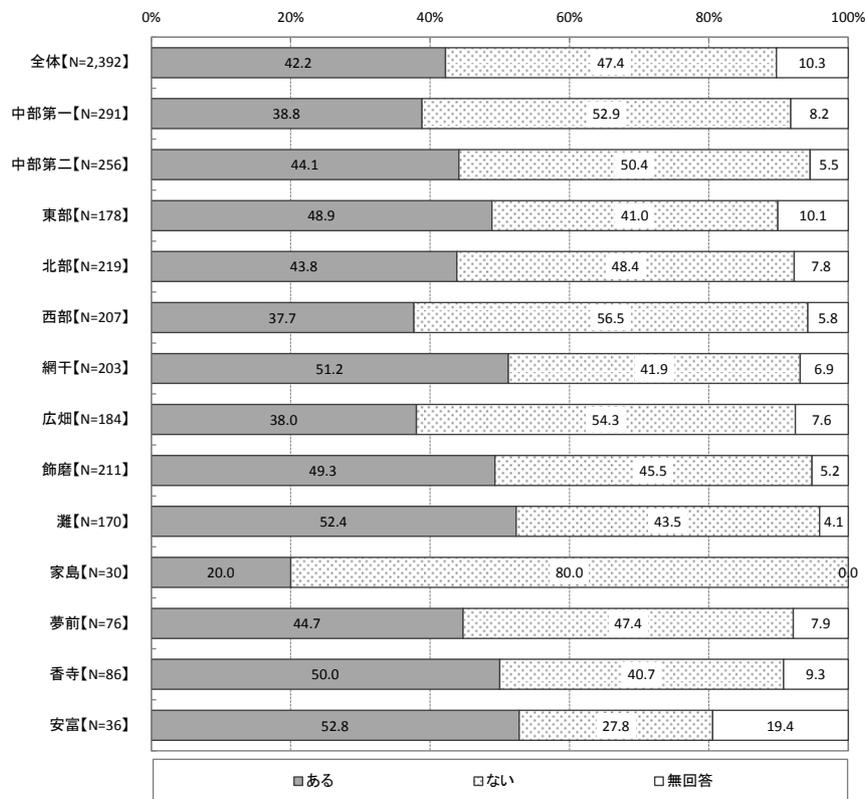
【図表 地域包括支援センターの利用有無／要支援・要介護認定別】



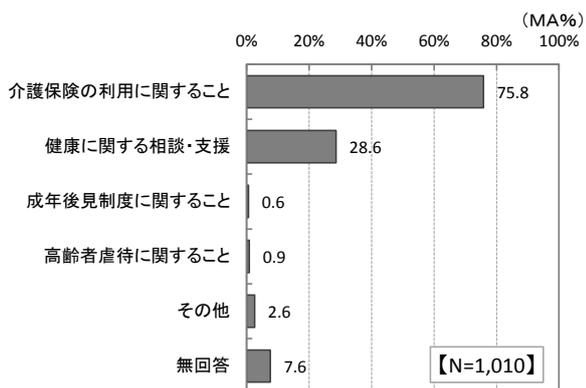
【図表 地域包括支援センターの利用有無／年齢別】



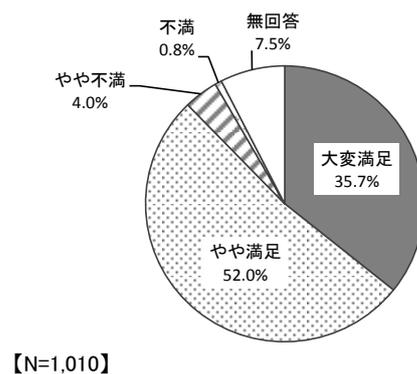
【図表 地域包括支援センターの利用有無／地区別】



【図表 地域包括支援センターの利用内容】



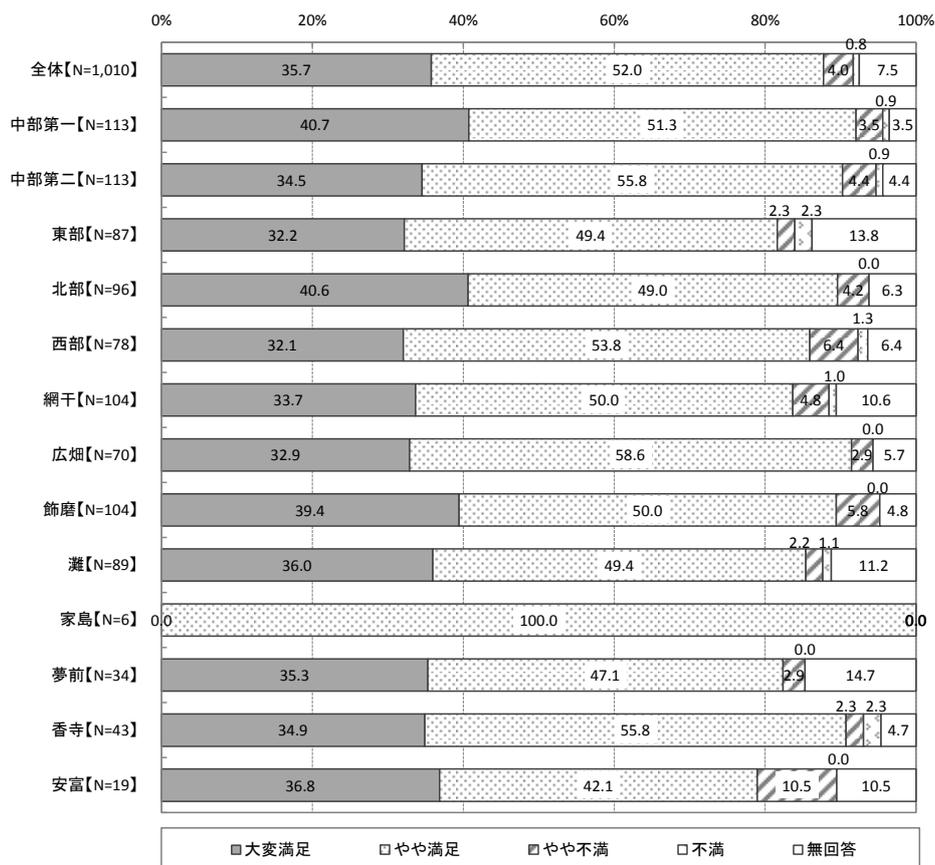
【図表 地域包括支援センターの満足度】



【図表 地域包括支援センターの利用内容／地区別】

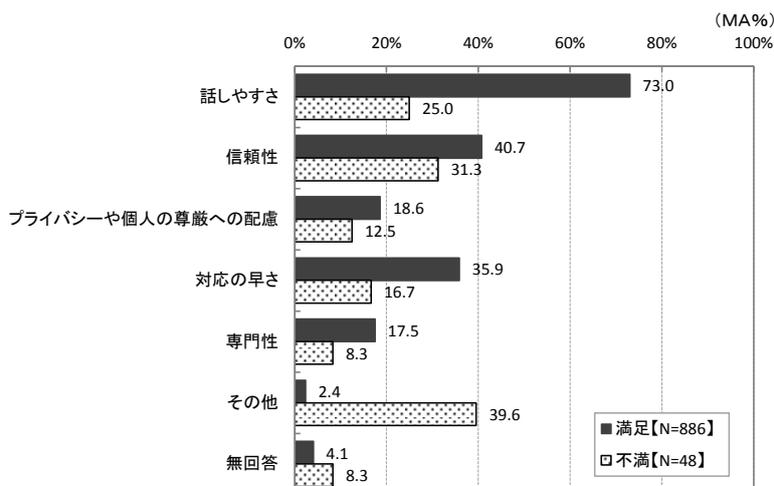
		に介護 する 保険 の 利用	健康 ・ 支援 に 関 する 相	成 年 後 見 制 度 に 関 する 事 件	高 齢 者 虐 待 に 関 する 事 件	そ の 他	無 回 答
全体【N=1,010】		75.8	28.6	0.6	0.9	2.6	7.6
居住 地区 別	中部第一【N=113】	73.5	32.7	0.0	0.0	2.7	4.4
	中部第二【N=113】	75.2	33.6	0.0	0.0	1.8	7.1
	東部【N=87】	75.9	24.1	0.0	1.1	2.3	9.2
	北部【N=96】	74.0	21.9	1.0	0.0	5.2	6.3
	西部【N=78】	80.8	30.8	2.6	5.1	1.3	3.8
	網干【N=104】	79.8	36.5	1.9	0.0	1.9	4.8
	広畑【N=70】	78.6	32.9	1.4	1.4	1.4	8.6
	飾磨【N=104】	73.1	18.3	0.0	0.0	2.9	11.5
	灘【N=89】	78.7	33.7	0.0	0.0	1.1	7.9
	家島【N=6】	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	夢前【N=34】	73.5	38.2	0.0	2.9	8.8	2.9
	香寺【N=43】	79.1	16.3	0.0	0.0	2.3	9.3
	安富【N=19】	73.7	10.5	0.0	0.0	5.3	15.8

【図表 地域包括支援センターの満足度／地区別】

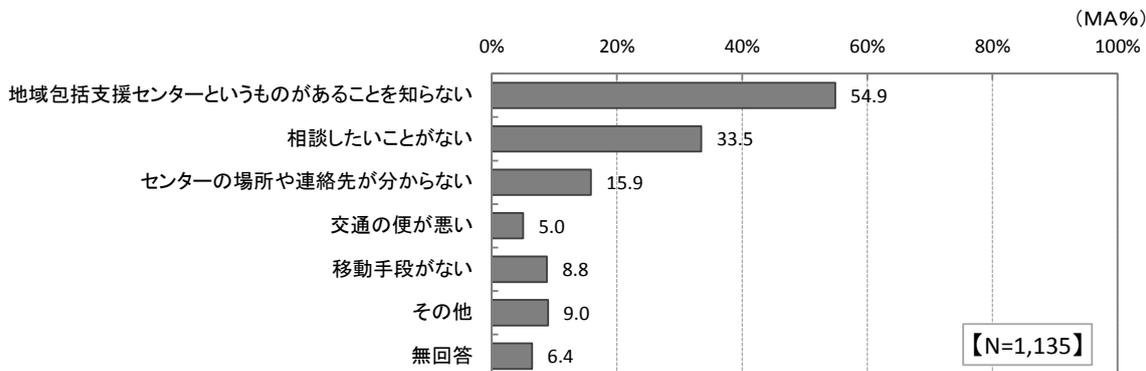


【図表 地域包括支援センターの満足度の理由】

『満足』(大変満足)+(やや満足) 『不満』(やや不満)+(不満)



【図表 地域包括支援センター未利用の理由】



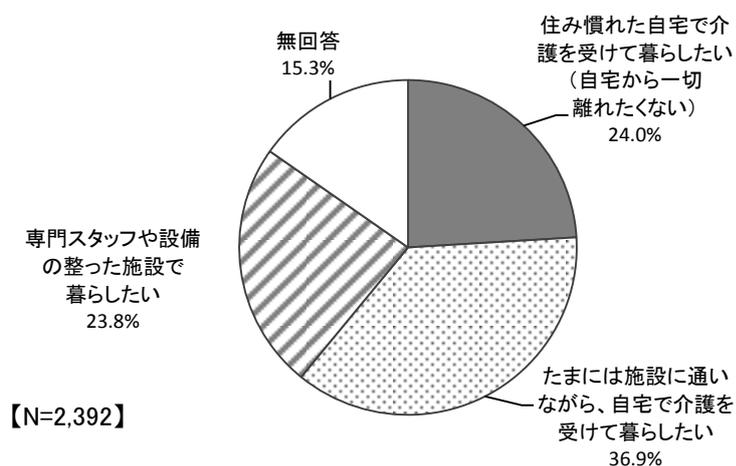
【図表 地域包括支援センター未利用の理由／地区別】

	地域包括支援センターがあることを知らない	相談したいことがない	センターの場所や連絡先が分からない	交通の便が悪い	移動手段がない	その他	無回答	
全体【N=1,135】	54.9	33.5	15.9	5.0	8.8	9.0	6.4	
居住地区別	中部第一【N=154】	59.1	32.5	16.9	3.9	5.8	5.2	5.8
	中部第二【N=129】	53.5	37.2	17.1	3.9	7.8	7.0	7.0
	東部【N=73】	54.8	31.5	19.2	8.2	12.3	19.2	1.4
	北部【N=106】	58.5	32.1	17.9	1.9	2.8	10.4	5.7
	西部【N=117】	55.6	35.0	6.8	7.7	7.7	12.8	4.3
	網干【N=85】	54.1	38.8	16.5	4.7	9.4	7.1	3.5
	広畑【N=100】	49.0	40.0	17.0	6.0	10.0	9.0	7.0
	飾磨【N=96】	60.4	29.2	19.8	6.3	13.5	5.2	5.2
	灘【N=74】	43.2	35.1	12.2	2.7	9.5	16.2	10.8
	家島【N=24】	50.0	16.7	8.3	4.2	0.0	12.5	29.2
	夢前【N=36】	75.0	33.3	27.8	5.6	11.1	2.8	2.8
	香寺【N=35】	51.4	25.7	17.1	8.6	17.1	5.7	5.7
	安富【N=10】	50.0	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

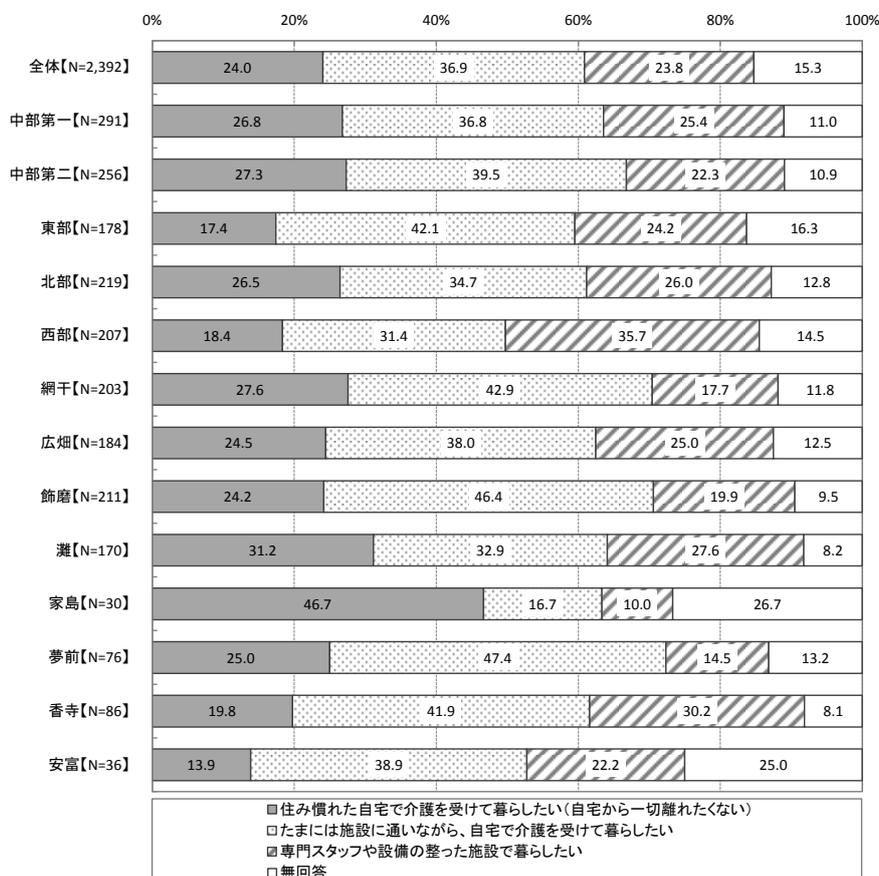
(8) 認知症について

- ・認知症になり、日常生活を送ることが困難になった場合に希望する生活は、「たまには施設に通いながら、自宅で介護を受けて暮らしたい」が36.9%と最も多い。
- ・認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組みについては、「在宅で受けられるサービスの充実と金銭的負担の軽減」が49.0%と最も多い。

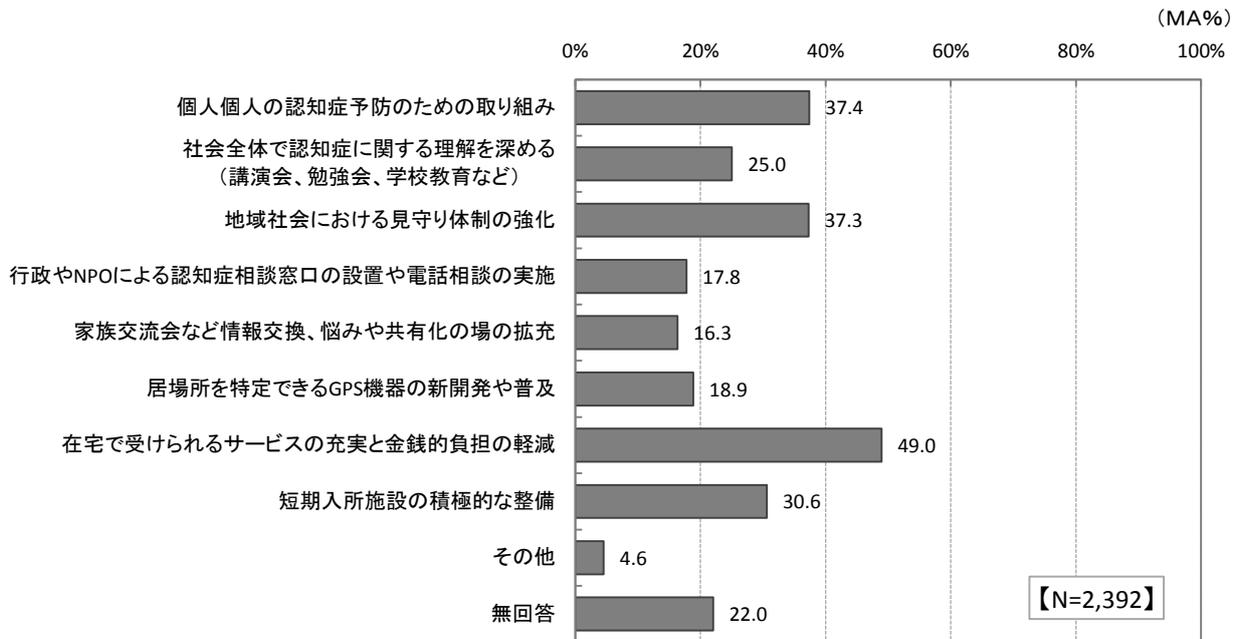
【図表 認知症になったときに希望する生活】



【図表 認知症になったときに希望する生活／地区別】



【図表 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組み】



【図表 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に必要な取組み／地区別】

	防人のための取り組み	学校講演会、勉強会など	社会全体で認知症に関する理解を深める	地域社会における見守り体制の強化	行政やNPOによる認知症相談窓口の設置や電話相談の実施	家族交流会など情報交換、悩みや共有化の場の拡充	GPS機器の特定できる居場所の新開発や普及	在宅サービスの充実と金銭的負担の軽減	短期入所施設の積極的な整備	その他	無回答
全体【N=2,392】	37.4	25.0	37.3	17.8	16.3	18.9	49.0	30.6	4.6	22.0	
居住地区別	中部第一【N=291】	43.6	23.4	38.1	18.2	12.4	23.4	50.5	28.2	2.1	22.3
	中部第二【N=256】	34.8	27.0	39.5	22.3	17.2	23.0	55.1	33.6	5.1	16.8
	東部【N=178】	32.6	20.8	33.7	18.0	15.2	16.9	45.5	25.8	9.0	23.6
	北部【N=219】	42.5	27.9	43.4	20.1	14.2	26.0	51.1	37.9	9.1	10.5
	西部【N=207】	41.5	26.1	35.7	17.4	13.5	12.6	52.2	29.5	4.3	19.8
	網干【N=203】	38.4	29.6	46.3	16.3	19.7	17.2	48.8	30.5	4.9	21.2
	広畑【N=184】	40.8	29.3	34.8	17.4	20.1	21.2	47.3	35.9	3.3	19.0
	飾磨【N=211】	38.4	24.6	42.2	23.7	19.9	17.5	57.3	32.7	2.8	15.2
	灘【N=170】	34.7	27.6	38.8	17.1	21.2	21.2	56.5	35.3	2.9	16.5
	家島【N=30】	30.0	23.3	33.3	10.0	10.0	3.3	40.0	20.0	3.3	26.7
	夢前【N=76】	35.5	23.7	32.9	13.2	14.5	13.2	51.3	28.9	3.9	25.0
	香寺【N=86】	50.0	24.4	40.7	17.4	19.8	23.3	48.8	31.4	3.5	16.3
安富【N=36】	36.1	25.0	38.9	11.1	19.4	19.4	47.2	38.9	11.1	27.8	

6 今後の介護保険制度・高齢者福祉について

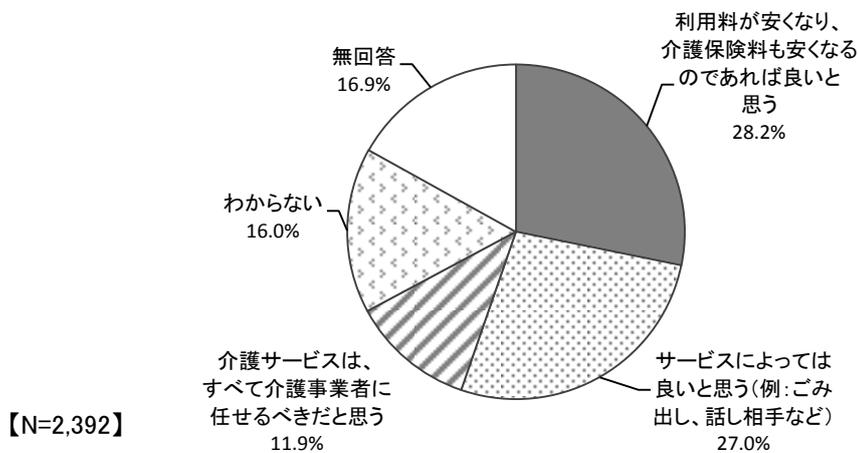
ボランティアによる高齢者福祉サービス提供の賛否は、6割近くが肯定的な意見だが、専門的な知識や技能を備えた人が行うべき等の理由により否定的な人も約1割いる。

要支援者が地域で生活を続けていくために必要または希望するサービスは、自宅へ食事や生活必需品を届けることや、自宅に専門家やボランティアが訪問するサービスの割合が高く、一般高齢者と同様に自宅で直接受けられるサービスが望まれていることがうかがえる。

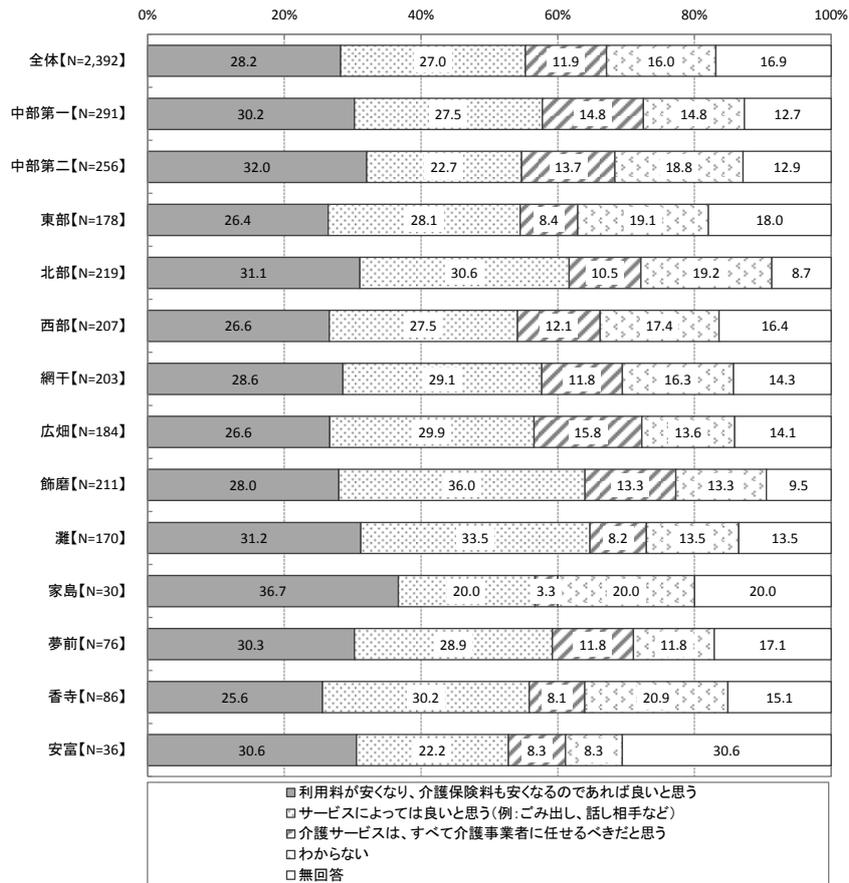
(1) 高齢者の生活を支援するボランティアについて

- ・ボランティアによる高齢者福祉サービスの提供については、「利用料が安くなり、介護保険料も安くなるのであれば良いと思う」が28.2%と最も多く、次いで「サービスによっては良いと思う（例：ごみ出し、話し相手など）」（27.0%）と続いている。「介護サービスは、すべて介護事業者任せべきだと思う」は約1割ある。
- ・介護サービスは事業者任せべきと考える理由は、「専門的な知識や技能を備えた介護職員がサービスを行うべき」が約半数を占めている。

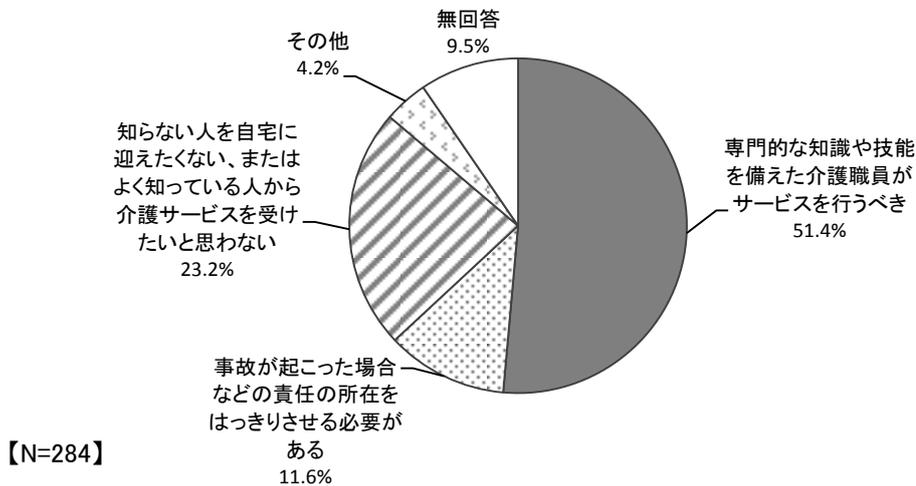
【図表 ボランティアによる高齢者福祉サービス提供について】



【図表 ボランティアによる高齢者サービス提供について／地区別】



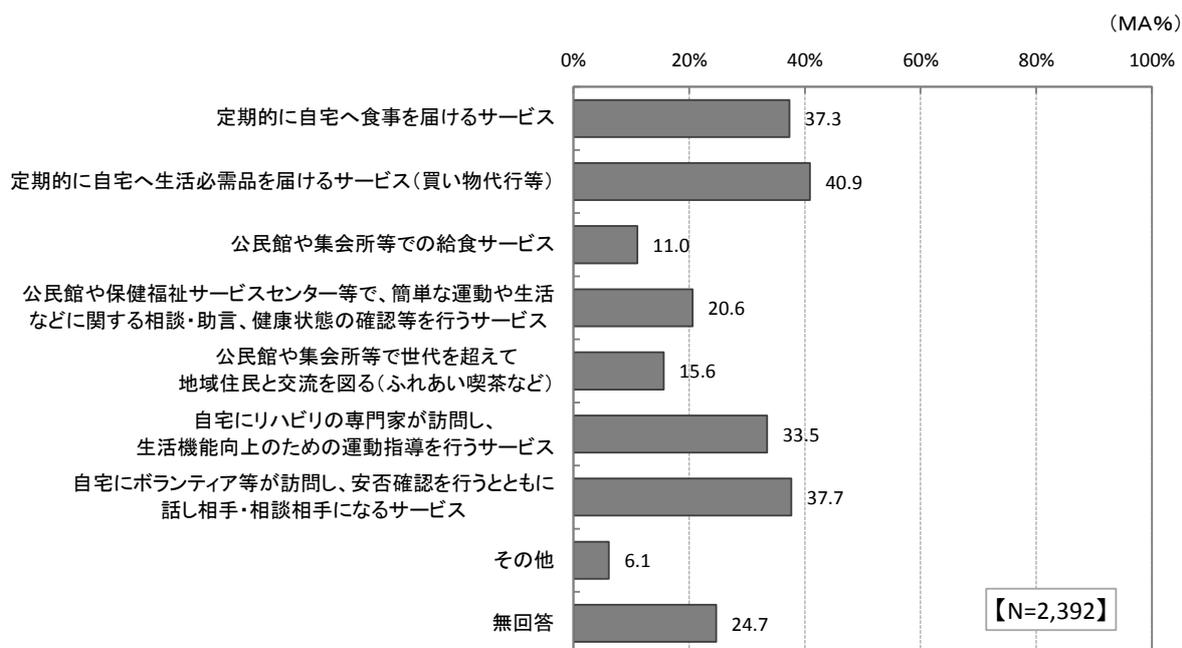
【図表 介護サービスは、すべて介護事業者に任せるべきと思う理由】



(2) 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス

- ・要支援者に対するサービス内容を、市町村が自由に決めることができるようになった場合に、要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービスは、「定期的に自宅へ生活必需品を届けるサービス（買い物代行等）」が 40.9%と最も多く、次いで「自宅にボランティア等が訪問し、安否確認を行うとともに話し相手・相談相手になるサービス」（37.7%）、「定期的に自宅へ食事を届けるサービス」（37.3%）と続いている。

【図表 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス】



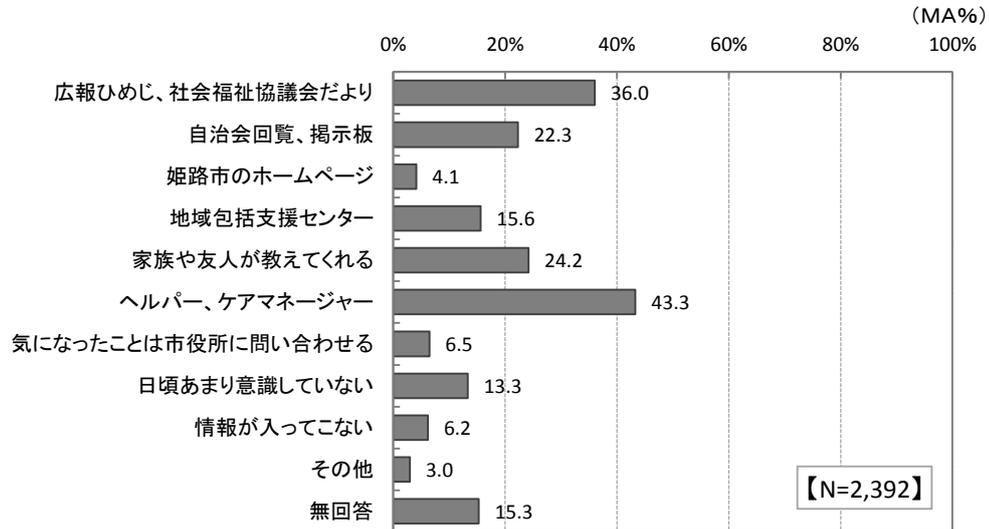
【図表 要支援者が住み慣れた地域で生活を続けていくために必要または希望するサービス／地区別】

	定期的に自宅へ食事を届けるサービス	定期的に自宅へ生活必需品(買い物)を届けるサービス	公民館や集会所等での給食サービス	公民館や保健福祉サービスセンター等で、簡単な運動や生活などに関する相談・助言、健康状態の確認等を行うサービス	公民館や集会所等で世代を超えて地域住民と交流を図る(ふれあい喫茶など)	自宅にリハビリの専門家が訪問し、生活機能向上のための運動指導を行うサービス	自宅にボランティア等が訪問し、安否確認を行うとともに話し相手・相談相手になるサービス	その他	無回答	
全体【N=2,392】	37.3	40.9	11.0	20.6	15.6	33.5	37.7	6.1	24.7	
居住地区別	中部第一【N=291】	38.5	46.0	10.3	21.6	13.1	37.8	34.0	4.8	21.3
	中部第二【N=256】	38.3	44.1	10.5	21.1	16.0	39.1	42.2	7.4	20.7
	東部【N=178】	33.1	33.1	12.4	20.2	15.7	30.3	34.8	9.6	29.2
	北部【N=219】	41.6	48.4	8.2	20.1	13.2	37.4	39.7	8.7	17.4
	西部【N=207】	39.1	46.4	8.7	17.9	15.0	32.4	40.1	6.3	22.7
	網干【N=203】	36.0	40.4	12.8	21.7	15.8	30.5	41.4	6.4	26.1
	広畑【N=184】	40.2	46.2	15.8	23.4	20.7	41.3	38.6	3.3	19.0
	飾磨【N=211】	39.8	42.7	12.8	23.7	15.6	32.2	41.2	7.1	17.1
	灘【N=170】	41.8	45.9	14.1	21.8	17.1	35.9	45.9	5.3	18.2
	家島【N=30】	50.0	43.3	10.0	6.7	16.7	20.0	43.3	3.3	23.3
	夢前【N=76】	34.2	36.8	9.2	26.3	19.7	30.3	35.5	3.9	23.7
	香寺【N=86】	55.8	41.9	14.0	31.4	17.4	40.7	50.0	3.5	16.3
	安富【N=36】	36.1	25.0	13.9	22.2	30.6	22.2	30.6	11.1	27.8

(3) 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段

- ・「ヘルパー、ケアマネージャー」が 43.3%と最も多く、次いで「広報ひめじ、社会福祉協議会だより」(36.0%)と続いている。

【図表 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段】



【図表 市の介護保険や高齢者福祉についての情報入手手段／地区別】

	福祉協議会だより、社会	広報ひめじ、自治会回覧、掲示板	姫路市のホームページ	地域包括支援センター	家族や友人が教えてくれる	ヘルパー、ケアマネージャー	市役所に問い合わせる	気になったことは市役所に問い合わせる	日頃あまり意識していない	情報が入ってこない	その他	無回答
全体【N=2,392】	36.0	22.3	4.1	15.6	24.2	43.3	6.5	13.3	6.2	3.0	15.3	
居住地区別	中部第一【N=291】	38.1	26.8	5.5	16.8	25.4	44.7	7.9	11.3	5.2	1.0	12.7
	中部第二【N=256】	39.1	19.1	3.5	16.4	25.0	48.0	7.8	17.6	4.3	2.3	10.2
	東部【N=178】	36.0	19.1	2.8	14.0	20.2	40.4	5.6	16.3	9.0	4.5	17.4
	北部【N=219】	41.1	21.5	3.2	17.8	25.6	42.9	7.3	11.9	7.8	9.1	7.3
	西部【N=207】	40.1	22.7	5.3	15.9	22.2	58.9	6.8	13.0	4.3	1.4	6.8
	網干【N=203】	30.5	25.1	3.9	21.7	29.1	42.9	6.9	15.8	6.4	3.0	14.8
	広畑【N=184】	36.4	21.2	3.8	13.0	26.1	47.3	7.6	12.5	8.2	2.2	13.6
	飾磨【N=211】	43.1	28.9	6.6	16.6	26.1	46.9	3.8	11.4	5.7	2.4	10.0
	灘【N=170】	41.8	28.8	4.1	18.2	29.4	39.4	9.4	14.7	4.7	2.9	12.4
	家島【N=30】	16.7	6.7	3.3	10.0	26.7	46.7	10.0	20.0	6.7	0.0	3.3
	夢前【N=76】	31.6	19.7	1.3	14.5	21.1	35.5	5.3	17.1	6.6	2.6	14.5
	香寺【N=86】	43.0	25.6	2.3	15.1	26.7	53.5	4.7	10.5	7.0	3.5	14.0
	安富【N=36】	22.2	16.7	5.6	16.7	22.2	27.8	2.8	25.0	8.3	0.0	27.8

7 家族の意見（※介護・介助をしている家族に対する設問）

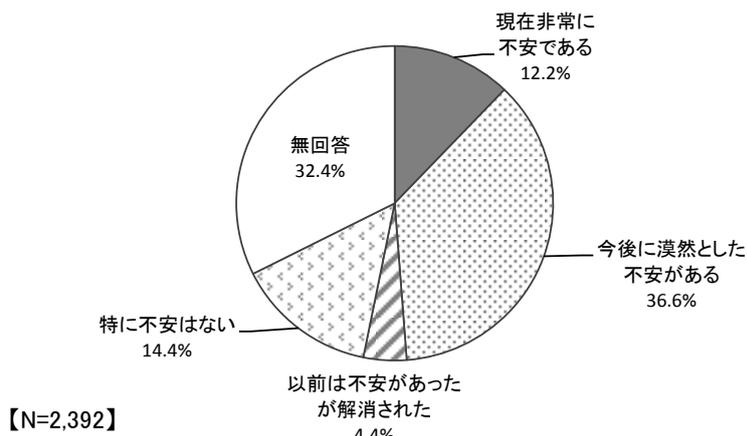
介護中の家族には、不安のない人より不安のある人のほうが多く、その理由として身体的・精神的な負担が大きいことが多く挙げられている。一般高齢者の介護をしている家族では金銭的な負担を理由に挙げる割合が最も多くなっているが、要支援・要介護認定者の家族では金銭的な負担より心身の負担が大きくなっていることがうかがえる。

本人の生活については、他の親族宅や介護施設等へ移るよりも、自宅で生活してもらいたいという意見のほうが多くなっている。

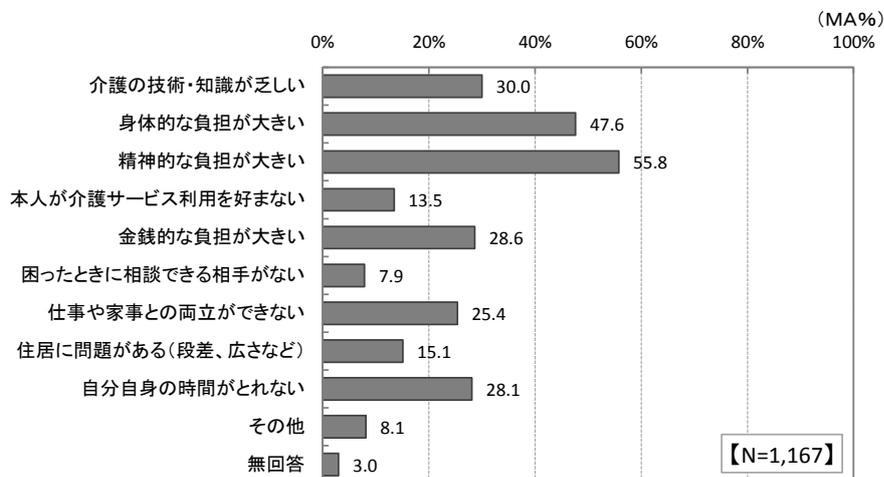
(1) 介護に関する不安

- ・介護中の家族に、介護に関する不安の有無をたずねると、「現在非常に不安である」と「今後に漠然とした不安がある」を合わせた割合は、「特に不安はない」の3倍以上となっている。
- ・介護に関して不安に思うことは、「精神的な負担が大きい」と「身体的な負担が大きい」が多くなっている。

【図表 介護に関する不安の有無】



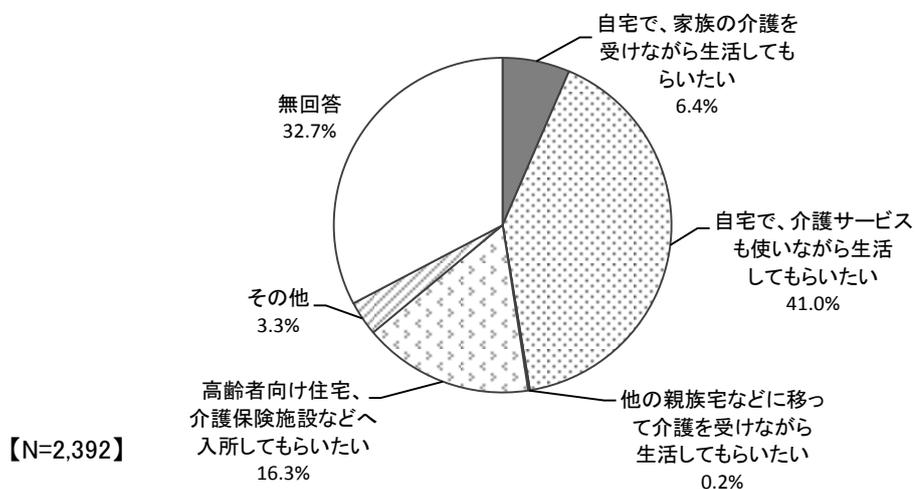
【図表 介護に関して不安に思うこと】



(2) 本人の生活への希望

- ・今後、本人に希望する生活は、「自宅で、介護サービスも使いながら生活してもらいたい」が最も多く、次いで「高齢者向け住宅、介護保険施設などへ入所してもらいたい」と続いている。

【図表 本人の生活への希望】



Ⅲ 調査票

一般高齢者調査票



平成 25 年度 姫路市高齢者実態意向調査

【調査ご協力をお願い】

市民の皆さまには、日頃より市政推進に当たりご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、「第 5 期姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画」を平成 24 年 3 月に策定し、高齢者福祉施策を推進しているところです。本計画は、平成 26 年度末で計画期間が終了いたしますが、次期計画の策定に当たりましては、高齢者の皆さまの生活状況や健康状態、将来の意向などに関するご意見を参考にしながら、作業を進めてまいりたいと考えております。

つきましては、このたび、平成 25 年 10 月 1 日現在、本市に居住の 65 歳以上の市民の中から無作為に抽出した 6,000 人の方々を対象に、「高齢者実態意向調査」を実施いたします。

なお、調査票にご記入いただいた内容は、統計の作成目的以外に使用することはなく、個人が特定されることはありません。

お忙しい中、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

平成 25 年 12 月

姫路市長 石見 利勝

☆下記の理由により、あて名のご本人が回答できない場合は、当てはまる番号に○を付け、この調査票の次頁以降は記入せずに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。

(※この調査は、平成 25 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳のデータに基づきお送りしていますので、その後、ご本人の状況に異動があった場合はご容赦ください。)

- 1 すでに市外に転居している
- 2 すでにお亡くなりになっている
- 3 医療機関に入院、または介護保険施設に入所している

(※入院・入所中であっても、ご本人に回答していただける場合は、調査にご協力をお願いいたします。病状などのため回答が困難な場合や、遠方の医療機関に入院されている場合などは、ご返送ください。)

【ご記入に当たってのお願い】

- 1 回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。ご本人の記入が困難な場合はご家族など、ご本人の日常の様子をよくお分かりの方が代筆されるなどお手伝いくださいますようお願いいたします。
- 2 設問によってご回答いただく方を限定している場合がありますので、【 】内のことわり書きに従ってご回答ください。
- 3 自由意見欄を除き、回答は選択肢の番号に○を付けていただく方式としています。
- 4 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので、注意書きに従ってください。また、「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- 5 ご記入が済みましたら、お手数ですが、この調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、12月25日（水）までにご投函ください。
- 6 ご不明な点があるときは、下記までお問い合わせください。

姫路市介護保険課 電話：079-221-2923

☆以下は、あて名のご本人の情報を記入してください。

性 別	男 ・ 女					
年 齢	歳					
お住まいの小学校区を選び、番号に○を付けてください。						
〔中部第一〕	01 白鷺	02 野里	03 城東	04 東	05 船場	06 城西
	07 城乾					
〔中部第二〕	08 城陽	09 手柄	10 荒川	11 高岡	12 安室	13 安室東
	14 高岡西					
〔東 部〕	15 花田	16 四郷	17 御国野	18 別所	19 谷外	20 谷内
〔北 部〕	21 城北	22 広峰	23 水上	24 砥堀	25 増位	26 豊富
	27 山田	28 船津				
〔西 部〕	29 曾左	30 白鳥	31 太市	32 林田	33 伊勢	34 峰相
	35 青山					
〔網 干〕	36 大津茂	37 網干	38 旭陽	39 勝原	40 余部	41 網干西
〔広 畑〕	42 広畑	43 広畑第二	44 八幡	45 大津	46 南大津	
〔飾 磨〕	47 飾磨	48 津田	49 英賀保	50 高浜	51 妻鹿	
〔 灘 〕	52 白浜	53 八木	54 糸引	55 的形	56 大塩	
〔家 島〕	57 家島	58 坊勢				
〔夢 前〕	59 置塩	60 古知	61 前之庄	62 筋野	63 上菅	64 菅生
〔香 寺〕	65 香呂	66 中寺	67 香呂南			
〔安 富〕	68 安富南	69 安富北				
〔そ の 他〕	70 分からない					

<p>問 33</p>	<p>【全員にお尋ねします。】</p> <p>今後全国的に、認知症高齢者が大幅に増加すると予測されています。認知症になって自立した日常生活を送ることが困難になった場合、どのような生活が適当と思われますか。あなたのお考えに最も近いものを<u>1つ</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 住み慣れた自宅で介護を受けて暮らしたい（自宅から一切離れたくない） 2 たまには施設に通いながら、自宅で介護を受けて暮らしたい 3 専門スタッフや設備の整った施設で暮らしたい
<p>問 34</p>	<p>【全員にお尋ねします。】</p> <p>認知症になってもできる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会の実現のために、どのような取り組みが必要と思われますか。当てはまるものを<u>最大5つ</u>まで選び、番号に○を付けてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人個人の認知症予防のための取り組み 2 社会全体で認知症に関する理解を深める（講演会、勉強会、学校教育など） 3 地域社会における見守り体制の強化 4 行政やNPOによる認知症相談窓口の設置や電話相談の実施 5 家族交流会など情報交換、悩みの共有化の場の拡充 6 居場所を特定できるGPS機器の新開発や普及 7 在宅で受けられるサービスの充実と金銭的負担の軽減 8 短期入所施設の積極的な整備 9 その他（）

自由意見欄（あて名のご本人にお尋ねします。本市の高齢者福祉施策などに関してご意見をご記入ください。）

☆ご協力ありがとうございました。記入漏れがないか、もう一度ご確認をお願いいたします。記入された調査票は、切り離すことなくそのままの状態、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。

平成 25 年度 姫路市高齢者実態意向調査

■姫路市健康福祉局福祉部 介護保険課

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地

TEL (079)221-2923

URL <http://www.city.himeji.lg.jp/s50/2212923.html>



平成 25 年度 姫路市高齢者実態意向調査

【調査ご協力のお願い】

市民の皆さまには、日頃より市政推進に当たりご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、「第 5 期姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画」を平成 24 年 3 月に策定し、高齢者福祉施策を推進しているところです。本計画は、平成 26 年度末で計画期間が終了いたしますが、次期計画の策定に当たりましては、高齢者の皆さまの生活状況や健康状態、将来の意向などに関するご意見を参考にしながら、作業を進めてまいりたいと考えております。

つきましては、このたび、平成 25 年 10 月 1 日現在、本市に居住の 65 歳以上の市民の中から無作為に抽出した 6,000 人の方々を対象に、「高齢者実態意向調査」を実施いたします。

なお、調査票にご記入いただいた内容は、統計の作成目的以外に使用することはない、個人が特定されることはありません。

お忙しい中、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

平成 25 年 12 月

姫路市長 石見 利勝

☆下記の理由により、あて名のご本人が回答できない場合は、当てはまる番号に○を付け、この調査票の次頁以降は記入せずに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。

（※この調査は、平成 25 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳のデータに基づきお送りしていますので、その後、ご本人の状況に異動があった場合はご容赦ください。）

- 1 すでに市外に転居している
- 2 すでにお亡くなりになっている
- 3 医療機関に入院、または介護保険施設に入所している

（※入院・入所中であっても、ご本人に回答していただける場合は、調査にご協力をお願いいたします。病状などのため回答が困難な場合や、遠方の医療機関に入院されている場合などは、ご返送ください。）

【ご記入に当たってのお願い】

- 1 回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。ご本人の記入が困難な場合はご家族など、ご本人の日常の様子をよくお分かりの方が代筆されるなどお手伝いくださいますようお願いいたします。
- 2 設問によってご回答いただく方を限定している場合がありますので、【 】内のことわり書きに従ってご回答ください。
- 3 自由意見欄を除き、回答は選択肢の番号に○を付けていただく方式としています。
- 4 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので、注意書きに従ってください。また、「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- 5 ご記入が済みましたら、お手数ですが、この調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、12月25日（水）までにご投函ください。
- 6 ご不明な点があるときは、下記までお問い合わせください。

姫路市介護保険課 電話：079-221-2923

☆以下は、あて名のご本人の情報を記入してください。

性 別	男 ・ 女					
年 齢	歳					
お住まいの小学校区を選び、番号に○を付けてください。						
〔中部第一〕	01 白鷺	02 野里	03 城東	04 東	05 船場	06 城西
	07 城乾					
〔中部第二〕	08 城陽	09 手柄	10 荒川	11 高岡	12 安室	13 安室東
	14 高岡西					
〔東 部〕	15 花田	16 四郷	17 御国野	18 別所	19 谷外	20 谷内
〔北 部〕	21 城北	22 広峰	23 水上	24 砥堀	25 増位	26 豊富
	27 山田	28 船津				
〔西 部〕	29 曾左	30 白鳥	31 太市	32 林田	33 伊勢	34 峰相
	35 青山					
〔網 干〕	36 大津茂	37 網干	38 旭陽	39 勝原	40 余部	41 網干西
〔広 畑〕	42 広畑	43 広畑第二	44 八幡	45 大津	46 南大津	
〔飾 磨〕	47 飾磨	48 津田	49 英賀保	50 高浜	51 妻鹿	
〔 灘 〕	52 白浜	53 八木	54 糸引	55 的形	56 大塩	
〔家 島〕	57 家島	58 坊勢				
〔夢 前〕	59 置塩	60 古知	61 前之庄	62 筋野	63 上菅	64 菅生
〔香 寺〕	65 香呂	66 中寺	67 香呂南			
〔安 富〕	68 安富南	69 安富北				
〔そ の 他〕	70 分からない					

問 30	<p>【問 29 で 1 と回答された方にお尋ねします。】</p> <p>(1) どのようなことで利用されましたか。当てはまるものを<u>すべて</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <p>1 介護保険の利用に関すること 2 健康に関する相談・支援 3 成年後見制度に関すること 4 高齢者虐待に関すること 5 その他 ()</p> <p>(2) 地域包括支援センターを利用してどのような感想をもたれましたか。当てはまるものを<u>1つ</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <p>1 大変満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満</p> <p>(3) その理由に当てはまるものを<u>すべて</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <p>1 話しやすさ 2 信頼性 3 プライバシーや個人の尊厳への配慮 4 対応の早さ 5 専門性 6 その他 ()</p>
問 31	<p>【問 29 で 2 と回答された方にお尋ねします。】</p> <p>その理由に当てはまるものを<u>すべて</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <p>1 地域包括支援センターというものがあることを知らない 2 相談したいことがない 3 センターの場所や連絡先が分からない 4 交通の便が悪い 5 移動手段がない 6 その他 ()</p>
問 32	<p>【全員にお尋ねします。】</p> <p>今後全国的に、認知症高齢者が大幅に増加すると予測されています。認知症になって自立した日常生活を送ることが困難になった場合、どのような生活が適当と思われますか。あなたのお考えに最も近いものを<u>1つ</u>選び、番号に○を付けてください。</p> <p>1 住み慣れた自宅で介護を受けて暮らしたい (自宅から一切離れたくない) 2 たまには施設に通いながら、自宅で介護を受けて暮らしたい 3 専門スタッフや設備の整った施設で暮らしたい</p>

自由意見欄（あて名のご本人にお尋ねします。本市の高齢者福祉施策などに関してご意見をご記入ください。）

☆ご協力ありがとうございました。記入漏れがないか、もう一度ご確認をお願いいたします。記入された調査票は、切り離すことなくそのままの状態、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。

平成 25 年度 姫路市高齢者実態意向調査

■姫路市健康福祉局福祉部介護保険課

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地

TEL (079)221-2923

URL <http://www.city.himeji.lg.jp/s50/2212923.html>